

令和5年度  
行政評価 結果報告書



令和5年10月

倉敷市企画財政局企画財政部企画経営室

---

---

# Contents

---

---

1 実施概要	1
2 評価結果	1
3 施策評価シートの紙面構成	3

## 施策評価シート

### 1 子ども・子育て・教育

1-1 だれもがその人らしさ(個性)を尊重され、幸せに暮らしていくことができている	5
1-2 人の痛みを、子どもたちが実感としてわかっている	9
1-3 教員の資質が保たれ、教員と子どもが心豊かな人間関係を築き、学校教育が充実している	13
1-4 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている	17
1-5 安心できる環境のもとで出産・子育てができている	19
1-6 仕事と家庭の両立ができ、親が子どもとふれあう時間をもつことができている	23
1-7 学校・園、地域、家庭が連携して、子どもたちが困窮することなく、安心して学び、成長できる環境となっている	27
1-8 障がいの有無にかかわらず、等しく保育・教育を受けることができている	31
1-9 興味があることを、だれもが、気軽に学ぶことができている	33

### 2 文化・産業

2-1 生活の中に個性的で魅力的な文化芸術が息づいている	37
2-2 世代を超えて受け継がれてきた歴史文化や伝統が大切に継承され、輝いている	40
2-3 生活の中で、日常のかつ気軽にスポーツに親しむことができている	43
2-4 心に充足感やゆとりをもち、家庭と仕事の調和がとれている	45
2-5 産業競争力が高く、多様な人材が働く機会に恵まれ、将来の暮らしに希望をもつことができている	47
2-6 商業の活性化が地域に活力を生み、時代の流れに対応したビジネスの創出や起業が進んでいる	51
2-7 将来にわたり持続可能な魅力ある農業や漁業が営まれている	53
2-8 倉敷の魅力を国内外にPRし、たくさんの方が訪れるようになっている	57

### 3 生活環境・防災・都市基盤

3-1 自然環境が守られ、環境と経済・社会とのバランスが保たれている	61
3-2 水と空気と大地がきれいで、環境負荷の少ないまちがつけられている	65

3-3	リデュース(ごみの発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(ごみの再生利用)が徹底され、環境に配慮した循環型社会が形成されている	69
3-4	脱炭素社会の実現に向け、だれもが地球温暖化対策を推進している	71
3-5	行政と市民、企業などが連携し、防災・減災対策や感染症対策などを積極的に進めるとともに、だれもが命を守る意識をもっている	73
3-6	常に安全でおいしい水が届き、安心して暮らすことができている	79
3-7	だれもが安全で快適に移動できる道路環境となっている	81
3-8	市中心部の拠点性が高まるとともに、各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりが行われている	83
3-9	便利に公共交通が利用でき、その周辺に住まいや生活に必要な施設が集まっている	85
3-10	地域の特色が生かされ、自然と調和した、だれもが住みやすい生活環境となっている	87
3-11	先人から受け継いだ歴史的・魅力的な景観が、市内各地で守られている	89
3-12	犯罪が少なく、安心して暮らしている	91
<b>4 保健・医療・福祉</b>		
4-1	だれもが自分の健康に関心をもち、健康づくりに自ら取り組んでいる	93
4-2	豊かな自然の恵みにより食べ物がおいしく、健全な食生活が実現されている	97
4-3	市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けられている	99
4-4	障がい者が積極的に社会参加でき、地域の人と安心してともに暮らせるようになっている	103
4-5	様々な事情により困窮している人が、自立できるよう地域で支え合っている	107
4-6	高齢者が地域で安心して暮らすことができている	109
4-7	尊厳が守られながら必要な介護サービスを受けることができている	113
4-8	高齢者が生きがいをもって活動している	116
<b>5 SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政</b>		
5-1	地域やコミュニティの中で、だれもが互いに助け合い、支え合って暮らしている	119
5-2	ボランティア・NPOなどの市民主体の活動が活発に行われている	121
5-3	行政が市民の意見を踏まえ、施策の検討、効果的な実施、評価・検証を行い、改善を図っている	123
5-4	市民が安全で快適に、公共施設を利用している	127
5-5	市役所が市民の身近な窓口として課題解決に向けて責任をもって対応している	129
5-6	だれもが快適で活力に満ちた生活ができるよう、先端技術が生活に溶けこんでいる	131
5-7	持続可能な地域をめざすSDGsの理念を、だれもが理解し、行動している	133

## 1 実施概要

令和 5 年度の行政評価は、令和 3 年度から令和 12 年度までの 10 年間を計画期間とする「倉敷市第七次総合計画」に掲げられた 44 の施策を対象に評価を行いました。

各施策の進捗状況及び施策を推進する主な事業の今後の取組方針を明確化することにより、施策の重点化やその推進手段である事業の見直しにつなげ、総合計画の計画的かつ効果的な推進を図ること、また、市民の皆さまに対する行政の説明責任を果たしていくことを目的に実施しました。

## 2 評価結果

### (1) 各施策の評価

第七次総合計画に掲げられた全 44 の施策について、評価を行いました。実施内容は以下のとおりです。

- ・「まちづくり指標」（次項の説明参照）の実績値の把握
- ・施策を推進する主な事業の評価（目的、主な実績、今後の方向性）

※各施策の評価結果については、5 ページからの「施策評価シート」を御覧ください。

### (2) 「まちづくり指標」について

第七次総合計画では、重要なまちづくりの課題を「めざすまちの姿」と表現し、その達成状況を測る“ものさし”として、「まちづくり指標」を設け、計画策定時の現状値（主に令和元年度）を基準に、令和 7 年度と令和 12 年度における目標値を設定しています。

「まちづくり指標」については、「まちづくり指標」アンケート調査や、市での集計、各種統計等により、毎年度、実績値を把握しています。

※「まちづくり指標」アンケート調査の詳細については、別添「令和 5 年度倉敷市第七次総合計画『まちづくり指標』アンケート調査結果報告書」を御覧ください。



### (3) 「まちづくり指標」の進捗状況の評価

達成状況は、最終年度である令和12年度末に目標値が達成できたか否かで最終的に評価すべきですが、途中経過である令和11年度までは、下記の判断基準のとおり「A」「B」「C」「－」の4段階に区分して進捗状況の自己評価を行いました。  
令和5年度における「まちづくり指標」の進捗状況は以下のとおりでした。

A : 47 指標 (35.6%)    B : 25 指標 (18.9%)    C : 56 指標 (42.4%)  
－ : 4 指標 (3.0%)

「まちづくり指標」の全体の動向（R元基準値からの傾向）は、132指標のうち、72指標（54.5%）が比較的高評価のA・B評価となった一方、56指標（42.4%）がC評価となりました。

なお、C評価である56指標のうち、23指標は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、文化施設などの休館・縮小開館、イベント・講座の中止、不要不急の外出自粛要請等の影響を大きく受けていると考えられます。

#### ◆進捗状況の評価

評価	判断基準
A	実績値が目標ライン以上となっている
B	実績値が目標ラインには届いていないが、基準値は上回っている
C	実績値が基準値以下となっている
－	判定ができないもの ・ 外的要因により評価の判定が難しい ・ 実績値の把握が公表時に間に合わない 外

※目標ライン：令和元年度を中心とする基準値と令和7年度の目標値を結んだ直線

※基準値：第七次総合計画では現状値（主に令和元年度）と表記

### 3 施策評価シートの紙面構成

実施計画は「めざすまちの姿」ごとに、下記のとおり構成しています。

枠内は、倉敷市第七次総合計画の「基本計画」部分を再掲しています。

#### めざすまちの姿

めざすまちづくりの方向性を表現しています。

#### SDGsのアイコン

めざすまちの姿に関連しているSDGsの目標です。

#### 市の施策

めざすまちの姿を実現していくために実施する、市の施策です。

#### 基本方針

めざすまちの姿を実現するにあたり、市が取り組む基本的な方向性です。

#### まちづくり指標 (重要業績評価指標)

めざすまちの姿の達成状況を客観的に見るための指標と、実績値、5年後・10年後にめざす目標値です。今後、様々な取組を進めていくことで、めざすべき目標値として掲げていきます。

#### 今後の取組方針

進捗状況の要因、今後の取組方針を掲載しています。

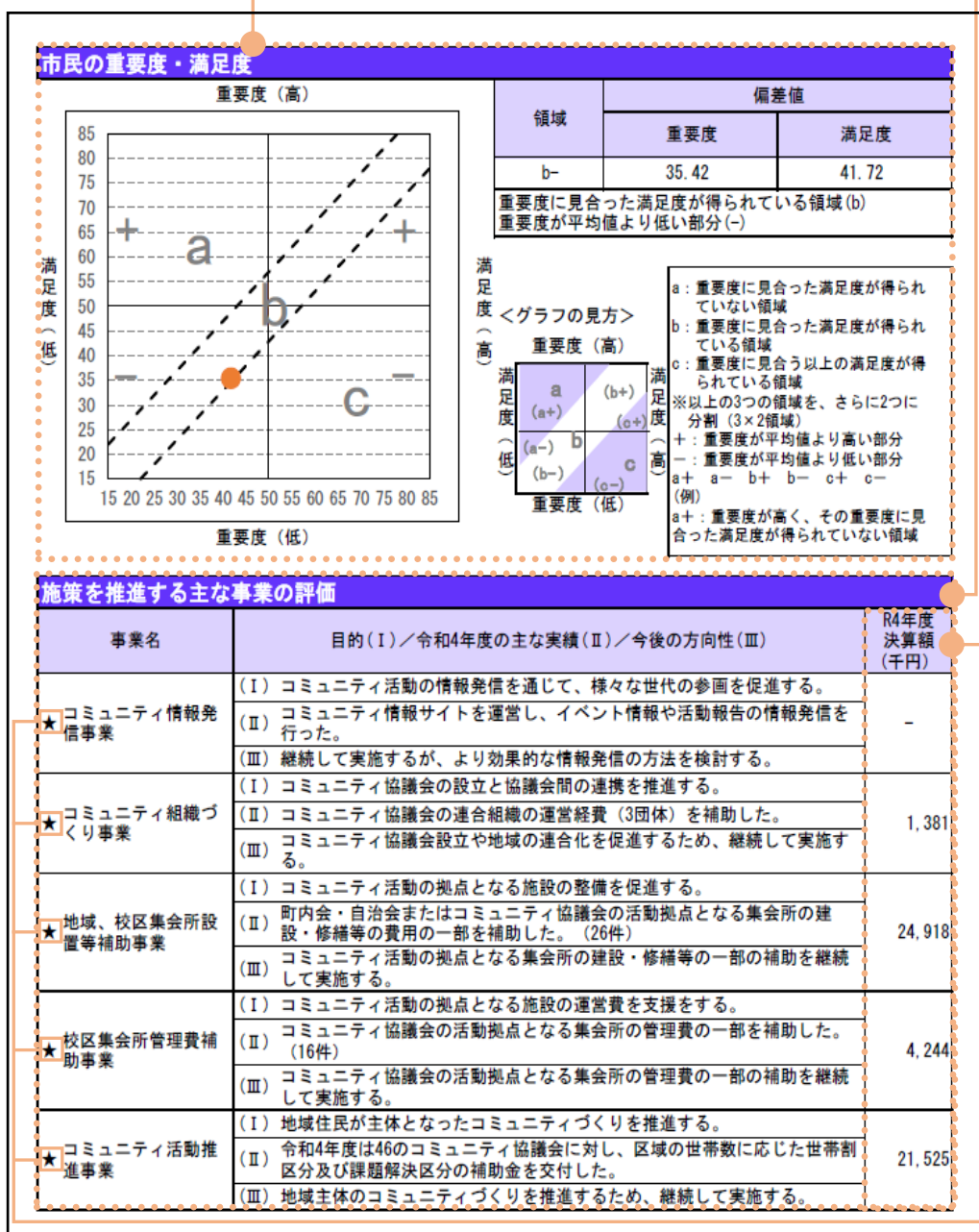
第七次総合計画 施策評価シート (令和5年度)	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>5</b> ジェンダー平等を 実現しよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>10</b> 人や国の不平等を なくそう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>11</b> 住み続けられる まちづくりを </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>17</b> パートナーシップで 目標を達成しよう </div> </div>	
SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>	
<b>めざすまちの姿</b>	
5-1 地域やコミュニティの中で、だれもが互いに助け合い、支え合って暮らしている	
<b>市の施策</b>	
市民自らが、地域の課題を解決できるように支援する	
<b>基本方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 地域の活動主体であるコミュニティの意見を把握してニーズにあった支援を行い、地域のつながりを維持して支え合いによる安全・安心な暮らしを守ります。</li> <li>★ コミュニティ活動の情報を発信するとともに、コミュニティ意識の高揚に努め、若い世代をはじめとした、様々な世代の人が気軽に地域の輪に入っていける地域づくりを進めます。</li> <li>★ コミュニティ間の情報交換を行うなど、相互に連携する機会の創出に努め、ネットワークを構築してコミュニティ活動の一層の拡大を支援します。</li> <li>★ 市民自らが主体的に地域の課題解決に取り組むコミュニティ活動に対する支援や、コミュニティ活動の拠点となる施設や設備に対する支援を続けます。</li> </ul>	
<b>数値目標</b>	
まちづくり指標	地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいると思っている人の割合
算出方法	市民アンケート調査(まちづくり指標)で、「地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した人の数/アンケート回答者総数×100
みらい創生戦略	★
目指す方向性	
進捗状況	C
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により地域住民同士が集がる機会が減り、制限の緩和後もその傾向が続いたと考えられるため。
(II)今後の取組方針	(II) 引き続きコミュニティ協議会に対する研修会の実施や補助金交付により、地域で支え合う意識の醸成を図る。
まちづくり指標	地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと考えている人の割合
算出方法	市民アンケート調査(まちづくり指標)で、「地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数/アンケート回答者総数×100
みらい創生戦略	★
目指す方向性	
進捗状況	C
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動が縮小し、制限の緩和後もその傾向が続いたと考えられるため。
(II)今後の取組方針	(II) 引き続きコミュニティ協議会に対する研修会の実施や補助金交付により、地域での課題解決の仕組みづくりや活動の活性化を図る。

### 市民の重要度・満足度

施策に対する重要度・満足度についてのアンケート調査の結果を掲載しています。

### 施策を推進する主な事業の評価

めざすまちの姿の実現に向けた、市の主な事業の評価を掲載しています。事業によっては、複数のめざすまちの姿の実現に寄与する事業もあります。



### R4 決算額

令和4年度決算額を千円単位で記載しています。

### 倉敷みらい創生戦略

倉敷みらい創生戦略に該当する基本方針、まちづくり指標、主な事業に「★」をつけています。

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育〈慈〉

### めざすまちの姿

1-1 だれもがその人らしさ（個性）を尊重され、幸せに暮らしていくことができる

### 市の施策

その人らしさが尊重され、多様な価値観や生き方を認め合い、人権が守られる社会をつくる

### 基本方針

- ・人権とは、すべての人々が生まれながらに持っている、幸せに生きるための権利です。一人ひとりが互いの違いを認め、互いの人権を尊重し合う「人権の共存」する社会の実現をめざして、更なる取り組みを進めます。
- ★ だれもが互いに人権を尊重しつつ、家庭や社会において責任も分かち合い、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の更なる実現をめざします。
- ・DVなどの人権侵害の未然防止のための人権教育、啓発活動にさらに取り組みます。
- ・児童虐待やいじめなどを防ぐ相談体制の充実、適切な支援に加え、子どもの人権を守るための更なる啓発活動に取り組み、すべての子どもが夢や希望を持てる環境づくりを進めます。
- ★ 国際交流事業の継続と拡充により、互いの文化や習慣の相互理解に努めるとともに、多言語による情報発信や相談体制の充実を図り、在住外国人が地域社会で参画・活躍できる多文化共生のまちづくりを進めます。
- ・平和の尊さを子どもたちが実感を持って学べるよう、次世代に継承していく取り組みを進め、平和を大切にすることを持続していきます。

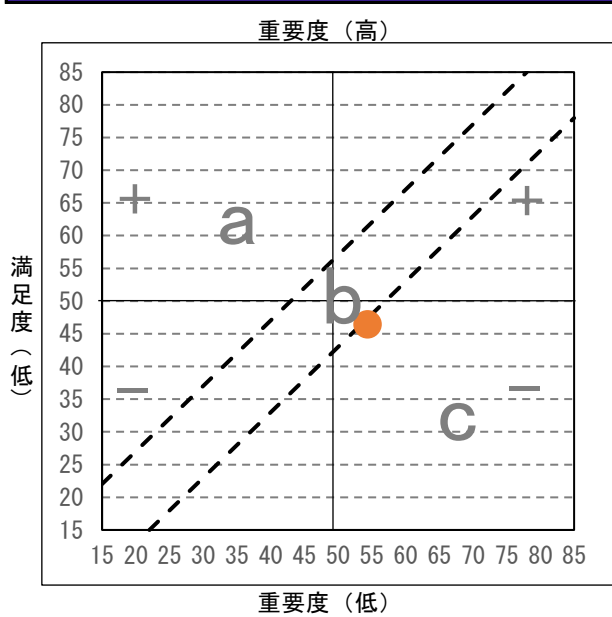
### 数値目標

まちづくり指標	日々の生活の中で、身の回りの人権が大切にされていると思う人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「日々の生活の中で、身の回りの人権が大切にされていると思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症により偏見、差別が助長されるなど、人権状況の不安定化がみられたため。 (II) 基本的人権は、どのような状況においても、普遍的な価値を持つものとして、広く市民への啓発を継続する。	

まちづくり指標	「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、『男は仕事、女は家庭』という考え方についてどう思いますか」という設問に対して、『同感しない』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 固定的性別役割分担意識が改善傾向にあるため。 (II) 固定的性別役割分担意識解消のための各種啓発事業や、積極的な女性登用に取り組む事業所への認定制度を継続する。	

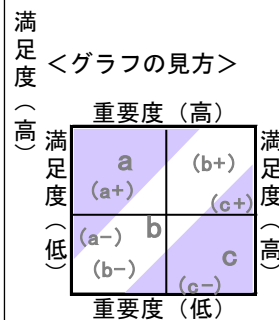
まちづくり指標	地域社会の一員として生活できていると感じている外国人の割合	
算出方法	市内在住の外国人を対象としたアンケート調査で、「地域の行事に参加していますか」という設問に対して、『参加している』『たまに参加している』と回答した人の数/アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 地域社会における相互理解の向上と情報交換の活発化が考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 多文化共生社会の推進を目的とした事業を継続して実施する。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	46.43	54.37

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域



施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
人権啓発活動事業	(I) 多様な啓発広報活動を通して、人権意識の普及・高揚を図る。 (II) 様々な人権問題への気づきを促すことを目的に実施した。啓発事業として、人権作品募集事業(メッセージ・絵手紙。応募総数170点)及び、SNSを活用した啓発記事の発信を行った。広報活動として、年間を通じて広報紙に啓発記事を掲載した。 (III) 既存事業の見直しや、若い世代に向けた新規事業の検討を行いながら、継続して実施する。	17,894
★ 性的マイノリティ理解促進事業	(I) 性的マイノリティへの理解を促進し、多様性が尊重される社会を創る。 (II) 令和4年10月16日(日)に開催されたくらしきハーモニーフェスタ及び11月に本庁舎にて性的マイノリティに関するパネル展を実施。 (III) 性的マイノリティへの理解促進のため引き続き事業を継続する。	-
人権教育外部講師活用事業	(I) 人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成を図る。 (II) 小・中学校で22回の外部講師による人権学習会を実施し、2,483人が参加した。 (III) 事業内容を精査し、継続して実施する。	221
PTA人権教育推進事業	(I) 保護者の役割と人権問題への理解と認識を深める。 (II) 幼・小・中・特別支援学校で557回のPTA人権教育研修会を開催し、32,042人が参加した。また、研修用資料21,116部の配布などを実施し、人権が尊重された社会の基盤となる家庭教育の充実を図った。 (III) 事業内容を精査し、継続して実施する。	2,381
人権学習推進事業	(I) 人権が守られ、すべての人が大切にされるまちづくりを地域の人々の力で進める。 (II) 全26中学校区で人権教育・啓発の充実を図るための様々な事業を実施し、延べ31,632人の市民が参加した。また、広報活動として、活動紹介や啓発記事を掲載した広報紙を年間44回、合計232,000部作成し、各地域に配布した。 (III) 今後更なる事業の充実と市民の参加者数の増加を目指していく。	10,828
★ 男女共同参画推進事業	(I) 男女共同参画の意識向上を図る。 (II) 情報誌「WITHテリア」発行(13,000部) 中学生向け啓発冊子配付(4,600部) 男女共同参画推進地域リーダー養成セミナー(参加者20人) マンガ作品展(応募204点、展示会5か所各1週間) (III) 継続して実施する。	3,035
男女共同参画推進センター運営事業	(I) 男女共同参画を推進する拠点施設として意識の高揚を図る。 (II) くらしきハーモニーセミナー講座開催(8講座、参加者169人) 登録団体による講座(9事業、参加者249人) (III) さらなる集客増に向けた見直しに取り組みつつ、継続して実施する。	26,021
★ 高梁川流域配偶者暴力相談支援事業	(I) 高梁川流域圏における配偶者等からの暴力による被害者等を支援する。 (II) 電話相談:1,458件、面接相談:193件、一時保護:1件 (III) 継続して実施する。	10,913
児童虐待防止事業	(I) 児童虐待の早期発見、未然防止に努め、子どもの人権を守る。 (II) 新規通告件数は391件、そのうち虐待とされる要支援レベル2以上の対応は157件であった。また、児童の所属機関への見守り依頼(令和4年度末572件)や個別事例検討会議を開催(令和4年度実績129回)するなど、継続的に状況を把握し、支援を行った。 (III) 継続して実施する。	33,328
子ども条例普及啓発事業	(I) 子育て・子育てを地域社会全体で支援する理念の普及を推進する。 (II) 市内全小学校の5年生に、小学校高学年用の子ども条例啓発リーフレットを4,545部配付した。また、児童手当現況届の提出のお願い文や、くらしき子ども未来プランアンケート実施時の封筒の裏面に、啓発記事を掲載、「家族の日」「家族の週間」と併せた広報紙、ホームページ等様々な媒体による広報などで子ども条例の理念の普及啓発を行った。 (III) 継続して実施する。	-
★ 国際交流事業、国際理解・多文化共生事業	(I) 国際交流と在住外国人との相互理解を推進する。 (II) 姉妹・友好都市との交流、国際理解講座や倉敷ふれあい広場等を実施するなど、市民の国際化意識の高揚や多文化共生の推進に努めた。 (III) 継続して実施する予定。	5,627

事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
平和啓発事業	(I) 平和の尊さを次世代に継承して、平和を大切にする社会の実現をめざす。 戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代に語り伝えていくことを目的として (II) 実施した。「平和のつどい」「平和の鐘」等の事業を実施するとともに、 「被爆体験者講話会」を市内小・中学校（5か所）で実施した。 (III) 継続して実施する。	2,828

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-2 人の痛みを、子どもたちが実感としてわかっている

### 市の施策

子どもたちが心も身体も健やかに成長できる学びの場をつくる

### 基本方針

- ・ 発達段階に応じた人権教育や道徳教育、ボランティア活動を通じた心の教育の充実などにより、子どもたちが互いの違いやよさを認め合い、だれもが自他ともに大切にされていると実感できる環境づくりを進めます。
- ・ 子どもたちが、スマートフォンやパソコンなどの利用マナーを身につけて適切な利用ができるよう、情報教育機会の提供に努めます。
- ・ 進級・進学などで変化する学習や生活環境への対応が困難な子どもたちに、学校や園との連携、家庭との情報共有による一体となった指導で対応し、豊かな心の育成に取り組みます。
- ・ 専門員・支援員の配置や教職員研修の充実などにより、小学校の低学年から規範意識の向上と問題行動等への早期対応と対応強化を行い、いじめや不登校等のない学校をめざすとともに、犯罪防止につなげます。
- ・ 地域や児童相談所、警察、医療機関など関係機関と連携を図り、教育相談機能や指導体制の整備を充実し、学校だけでは解決困難な子どもにかかる様々な問題に、組織的に対応します。

### 数値目標

まちづくり指標	小学校での1,000人当たりのいじめの認知件数																			
算出方法	いじめの認知件数／倉敷市の小学校児童数×1,000																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>いじめの認知件数（小学校）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>21.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>26.8</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>46.7</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>66</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R11</td> <td>111</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H30	21.0	-	R2	-	26.8	R3	-	46.7	R6	66	-	R11	111	-
年度	目標値		実績値																	
H30	21.0		-																	
R2	-	26.8																		
R3	-	46.7																		
R6	66	-																		
R11	111	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 認知件数は増加しているが、比較的重大ないじめ案件のみを認知件数として計上している学校もあると考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 生徒指導に関する研修会や校内研修において、学校間のいじめ認知に関する意思統一を図る。																			

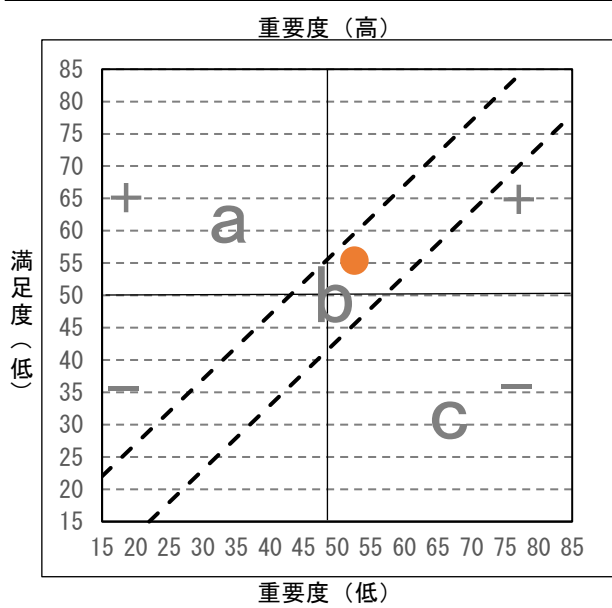
まちづくり指標	中学校での1,000人当たりのいじめの認知件数																			
算出方法	いじめの認知件数／倉敷市の中学校生徒数×1,000																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>いじめの認知件数（中学校）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>19.3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>18.9</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>21.8</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>30</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R11</td> <td>40</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H30	19.3	-	R2	-	18.9	R3	-	21.8	R6	30	-	R11	40	-
年度	目標値		実績値																	
H30	19.3		-																	
R2	-	18.9																		
R3	-	21.8																		
R6	30	-																		
R11	40	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	B																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 比較的重大な案件のみを認知件数として計上している学校もあると考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 生徒指導に関する研修会や校内研修において、学校間のいじめ認知に関する意思統一を図る。																			



まちづくり指標	小学校での不登校児童出現率	
算出方法	不登校による欠席が年間30日以上の子童数／倉敷市の小学校児童数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ罹患やコロナ不安で欠席する児童が増加し、欠席することへの抵抗感が減少していることも考えられる。 (II) 研修会の開催や担当者同士の情報交換を行い、効果的な取り組みを共有し、新たな不登校を生まない取り組みを推進する。	

まちづくり指標	中学校での不登校生徒出現率	
算出方法	不登校による欠席が年間30以上の生徒数／倉敷市の中学校生徒数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ罹患やコロナ不安で欠席する生徒が増加し、欠席することへの抵抗感が減少していることも考えられる。 (II) 研修会の開催や担当者同士の情報交換を行い、効果的な取り組みを共有し、新たな不登校を生まない取り組みを推進する。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	55.35	52.60

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 <グラフの見方>

満足度 (高)	a (a+)	(b+)	(c+)	満足度 (高)
満足度 (低)	(a-)	b (b-)	(c-)	満足度 (低)
	重要度 (高)		重要度 (低)	

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
学校園人権教育推進事業	(I) だれもが自他ともに大切にされていると実感できる環境づくりに努める。 (II) 26中学校区ブロックにおいて、ブロック内の人権教育推進上の課題を共有し、課題解決に向け、連携に基づいた具体的な研究実践を行った。また、倉敷市人権教育研究大会で7校園による実践発表があり、220人の教職員が参加した。 (III) 事業内容を精査し、継続して実施する。	5,169
郷土くらしきを大切に する心育成プロ ジェクト事業	(I) 郷土倉敷を愛し、親しみ、心豊かに成長できるよう、心の育成を図る。 (II) 「花いっぱい運動」「あいさつ運動」「地域のクリーン作戦」等を実施して子どもたちの心の育成を図った。「倉敷こどもミーティング」は、市内の中学生が参加し、3月に実施した「G7倉敷こどもサミット」の開催に向け、働くこととSDGsに関して、自分たちが取り組む目標について議論した。 (III) 子どもたちの郷土愛を育てていくために、継続して実施する。	89
情報教育推進事業	(I) 教職員のICTの活用指導力と情報セキュリティ意識の向上を図る。 (II) 学校教育や生涯学習の場において、ICTの利活用が促進されるように、研修会を20回開催し、延べ525名が参加した。また、6月～2月に小・中・支援学校へICT支援の派遣を行った。 (III) 今後もICTの利活用が促進されるよう、継続して実施する。	18,897
規範意識向上モデル 校等における警察と 密接に連携した取組 の推進事業	(I) 非行防止教室やルール・マナーの啓発活動等を通じて非行防止を図る。 (II) 倉敷市内の13中学校区(13中学校・33小学校)をモデル学区として指定し、警察官の定期的な訪問と学校との情報交換、問題行動に対する助言や非行防止教室の実施等、学校と警察が連携して健全育成に取り組んだ。 (III) 継続して実施する。	-
小1グッドスタート配 置事業	(I) 小学1年生において「小1プロブレム」の解消を図る。 (II) 23校80人を配置し、学習面や生活面をサポートした。これまでは、4月～10月(20週)は県が支援員を配置していたが、令和2年度から市への補助事業となり、年間を通じて支援員を配置した。 (III) 1年生にとって学習面や生活面をサポートする支援員がいることで、小学校生活のスタートが心豊かで充実した成長の場となるため、継続して実施する。	87,693
不登校児童・生徒支 援員等配置事業	(I) 学校における不登校問題の未然防止や早期解決を図る。 (II) 教育相談や学習支援を行う支援員を小学校44校中学校全校に、教師カウンセラーを全中学校に配置し、教職員・スクールカウンセラー等との連絡・調整を図り、不登校等の対策として、未然防止や早期解決に向けた取り組みを推進した。 (III) 不登校やいじめ等の問題行動の早期解決に向けた取り組みを推進していくためには、支援員の役割は大きく、連絡・調整を図りながら継続して実施する。	61,759
校種間連携の推進	(I) 子どもの不安を和らげ、期待や安心感がもてる校種間連携を推進する。 (II) 学力向上研修会、英語授業研修会、不登校対策会議を小中合同で実施することにより、校種間連携を図った。また、個別の教育支援計画等の引継ぎなど組織的・継続的な取り組みを実施した。 (III) 校種間連携の推進は重要な取り組みであるため、継続して実施する。	-
ふれあい教室事業 (教育センター事 業)	(I) 不登校児童生徒に対して、集団への適応能力の回復と育成を図る。 (II) 市内5適応指導教室において、78人が利用があった。 (III) 適応指導による支援の必要性が高いため、継続して実施する。	54,275
生徒指導支援員配置 事業	(I) 暴力行為、いじめ等の問題行動の未然防止や状況の改善を図る。 (II) 生徒指導支援員を中学校25校に配置した。 (III) 学校問題の解決には、継続的な支援の必要性が高いため、事業を継続して実施する。	4,965
スクールカウンセ ラー等配置事業	(I) いじめ、不登校をはじめとする児童生徒の学校不適応問題に対応する。 (II) スクールカウンセラーを39小学校及び5高等学校、1特別支援学校、5ふれあい教室(適応指導教室)に配置した。また、専門的な見地から指導助言するスーパーバイザーを1人委嘱し、不登校対策や教育相談の質的な充実を図った。 (III) スクールカウンセラーの研修の充実や効果的な援助するため、継続して実施する。	15,548

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
学校問題支援プロジェクト事業	(Ⅰ) 学校だけでは解決が難しい諸問題に適切に対応し、学校を支援する。 (Ⅱ) 学校問題解決に向けたチーム会議や推進会議を実施。支援スタッフを延べ31校に51人配置した。 (Ⅲ) 学校に対して事業の趣旨の周知に努めるとともに、学校現場のより多くのニーズに応えられるよう、今後も継続して実施する。	12,831
総合舞台芸術鑑賞事業	(Ⅰ) 子どもたちが文化芸術活動に触れる機会を確保する。 (Ⅱ) 新型コロナウイルス感染症対策のため、倉敷市民会館では実施しなかった。動画配信(オンデマンド)で、劇団四季の劇を鑑賞した。 (Ⅲ) 令和5年度は、倉敷市民会館での公演を実施する。	-

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-3	教員の資質が保たれ、教員と子どもが心豊かな人間関係を築き、学校教育が充実している
-----	--

### 市の施策

#### 心豊かな人間関係を育む学校教育の充実を図る

### 基本方針

- ・ 教員の指導力の向上によって、すべての子どもの持ち味を生かした教育を充実させ、確かな学力の向上を図るとともに、心豊かにたくましく生きていく心身ともに健やかな人間の育成に努めます。
- ・ 学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化により働き方改革を進め、教育の質の向上を図り、子どもや保護者と心豊かな人間関係を築き、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ教育を実践します。
- ・ 社会で自立するために必要な知識、技術、能力や態度を育成するため、多様な職業体験やボランティア活動などの機会を提供するなど、キャリア・職業教育を充実します。
- ★ 多様化する学習内容と子どもたち一人ひとりの習熟度に対応するとともに、主体的な学習ができる、ICT活用環境整備、感染症などの脅威に対応できるオンライン学習の導入など情報教育の充実を図り、新しい時代に求められる子どもの資質・能力を育てます。
- ★ 教員の指導力向上やICTの活用などにより、子どもたちが広い視野をもって異文化を理解し、国際共通語とされる英語力を身につける、グローバル化に対応する教育を進めます。
- ★ 学校運営協議会制度等で、地域とともにある学校づくり、地域に根ざした特色ある教育活動の推進や校種間の連携に努め、学校園、家庭、地域が一体となって子どもを守り育てる環境づくりを進めます。
- ・ 老朽施設の長寿命化改修や耐震対策を計画的に実施するとともに、時代の変化を見据えて環境に配慮した、すべての子どもが利用しやすい施設整備を進めます。
- ・ 学校給食調理場の更新や改修を計画的に実施し、安全でおいしい学校給食の安定的な提供に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	「子どもの学校での教育がしっかりできている」と感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、小学生・中学生をもつ人で、「子どもの学校での教育がしっかりできていると感じていますか」という設問に対して、『感じている』『どちらかというと感じている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち小学生・中学生をもつ人の総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ禍により、学校の教育活動が制限されたことが目標値に届かなかった要因と考えられる。 (II) 学校の取り組みが保護者にしっかり伝わるように、懇談会や講演会、ICT等を活用した広報など工夫して取り組む。	

まちづくり指標	困った時、悩みがある時に相談する人がいると答えた子どもの割合	
算出方法	小学生・中学生の児童生徒対象のアンケート調査で、「困った時、悩みがある時に相談する人がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した小学生・中学生の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ禍により、コミュニケーションの制限されたことにより、目標値に届かなかった要因と考えられる。 (II) 児童生徒の悩みに寄り添えるよう、教育相談等の取り組みの一層の充実を図る。	

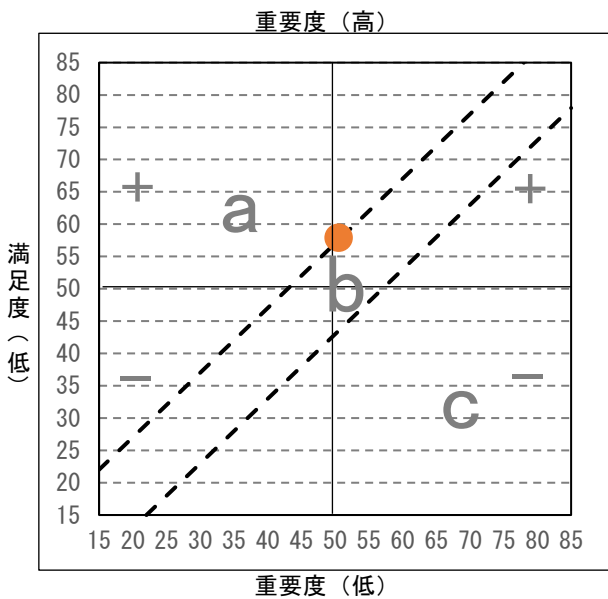
まちづくり指標	学校が楽しいと思う子どもの割合	
算出方法	小学生・中学生の児童生徒対象のアンケート調査で、「学校は楽しいですか」という設問に対して、『とても楽しい』『まあまあ楽しい』と回答した小学生・中学生の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 学力向上の取り組みが成果を上げつつあり、勉強がわかる児童生徒が増えたことが要因と考えられる。 (II) 児童生徒の力を伸ばす授業改善や児童生徒が主役となる特別活動等の充実を一層図る。	

まちづくり指標	小中学校のトイレの洋式化率	
算出方法	市内小中学校のトイレのうち、洋式便器の数／大便器の総数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 工事への学校の協力もあり、順調に工事が実施できたため。 (II) 継続して実施する。	

まちづくり指標	学校給食調理場施設のドライ方式の割合	
算出方法	ドライ方式給食調理場での調理食数／市内学校給食調理場の総調理食数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新たに整備されたドライ方式給食調理場が無いため、児童生徒数の増減による影響にとどまった。 (II) 「倉敷市学校給食調理場整備に係る基本方針」に沿って、引き続き調理場の整備を進めていく。	

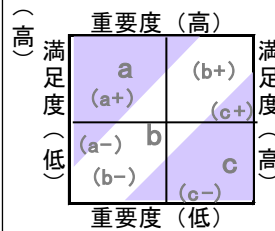


## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	57.90	50.55
重要度に見合った満足度が得られていない領域 (a) 重要度が平均値より高い部分 (+)		

満足度 < グラフの見方 >



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度 決算額 (千円)
非常勤講師等単市加配事業	(I) 学校の教科指導や生徒指導、特別支援教育等の充実を図る。 (II) 小学校2人、中学校23人、特別支援学校6人の非常勤講師を配置し、子どもが生き生きと学べるよう学習指導の充実を図ることができた。 (III) 複式学級解消や生徒指導充実、特別支援学校の教育充実のためには、非常勤講師を配置は必要であり、今後も継続して実施する。	119,518
教師業務アシスタント配置事業	(I) 教員の働き方改革を推進するとともに、学校現場の教育体制の充実を図る。 (II) 小・中学校において、教師業務アシスタント (R2年度より県から市への補助事業へ) 69人、学校サポーターを18人配置し、教員の働き方改革を推進するとともに、学校現場の教育体制の充実を図ることができた。 (III) 教員の働き方改革を一層推進するとともに、学校現場の教育体制の充実を図るために、継続して実施する。	65,281
部活動指導体制推進事業	(I) 部活動における教員の負担を軽減し、教育の質的向上を図るため、体制を構築する。 (II) 延人数運動部31人、文化部7人の38人を各校へ配置した。部活動指導員を配置したことにより、部活動顧問で勤務負担が軽減されたと感じている割合が運動部88.9%、文化部100%だった。 (III) 継続して実施する。	10,717
キャリア教育推進事業	(I) 社会で自立するために必要な知識、技術、能力や態度を育成を図る。 (II) 令和4年度は、中学校20校で職場体験及び職場見学を実施した。その他の中学校では、企業から学校への訪問による出前講座の実施等によりキャリア教育を実施した。 (III) キャリア教育の推進に必要であるため、継続して実施する。	1,997
「確かな学力」学習支援事業	(I) 児童生徒の状況に応じた支援を通じ学力定着や学習意欲の向上を図る。 (II) 小学校4年生の算数非常勤講師を19人、学力向上支援員を小学校43人、中学校14人、放課後学習支援員を小学校79人、中学校29人任用し、学習支援ソフトの活用等と併せて学習支援を行い、学力向上を図った。 (III) 学力向上の取り組みとして必要であるため、継続して実施する。	50,769
GIGAスクール構想に対応したパソコン等整備事業	(I) 児童生徒の情報活用能力を育成する。 (II) 1人1台端末の活用が進むよう、運用面をサポートした。また、緊急時の学ぶ機会を保障するために、モバイルルータの貸出等を行った。 (III) 児童生徒の情報活用能力を育成するために、継続して実施する。	118,855

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 教育用コンピュータ整備事業	(Ⅰ) ICT機器の整備により、学校教育の充実に努める。 (Ⅱ) 小・中・高・特別支援学校に整備しているICT機器が安定して使用できるよう、運用面をサポートした。 更新時期を迎えたICT機器の入替を実施した。 (Ⅲ) 児童生徒の情報活用能力を育成するために、継続して実施する。	233,988
★ 英語教育推進事業	(Ⅰ) 英語での理解力・表現力の向上及び、伝え合う力を育成する。 (Ⅱ) 令和4年度は、中学生英語スピーチコンテストに28校が参加。英語学習の動機付けや表現力の向上につながった。 小学校高学年に導入した学習アプリの積極的な活用を推進し、コミュニケーションの基礎となる学力の向上を図った。 (Ⅲ) 英語教育の推進に必要であるため、継続して実施する。	12,255
★ 学校園支援ボランティア活用事業	(Ⅰ) 学校園の教育活動を支援するボランティア活動の充実に努める。 (Ⅱ) 保育・授業中の支援や放課後学習支援など、学校園の教育活動を支援するボランティアを学生や市民等から募集・登録した。 (Ⅲ) 学校園からのニーズが高いことから、継続して実施する。	142
学校園施設安全対策・防災機能強化事業	(Ⅰ) 教育環境の改善及び避難所としての機能強化を図る。 (Ⅱ) 乙島東小学校他18校園の屋上防水・外壁改修を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,379,164
学校トイレ洋式化改修・校舎照明LED化事業	(Ⅰ) 教育環境の改善及び環境に配慮した学校施設を整備する。 (Ⅱ) 万寿東小学校他11校のトイレ洋式化改修及び校舎照明LED化を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	812,736
箭田小学校上屋付プール建設事業	(Ⅰ) 施設整備費や維持管理費の縮減を図る。 (Ⅱ) 箭田小学校上屋付プール改築工事が完了した。 (Ⅲ) 本事業は令和4年度で完了した。	219,755
市立精思・玉島高等学校統合事業	(Ⅰ) 高等学校を統合し、施設を整備する。 (Ⅱ) 市立精思・玉島高等学校統合整備事業に着手した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	418,163
中学校特別教室エアコン設置事業	(Ⅰ) 夏季の学習環境の改善を図る。 (Ⅱ) 中学校26校の特別教室にエアコンを設置した。 (Ⅲ) 本事業は令和4年度で完了した。	951,107
新共同調理場整備事業	(Ⅰ) 安定的な学校給食運営を実施するため、老朽化した調理場を最新の基準を満たす調理場に速やかに更新する。 (Ⅱ) (仮称)倉敷学校給食共同調理場については、事業者を選定し、事業契約を締結した。(仮称)児島学校給食共同調理場については、事業者選定委員会にて優先交渉権者を選定した。 (Ⅲ) 引き続き調理場の整備に向けて、設計・建設等を進める。	5,929
大高小学校給食調理場・校舎整備事業	(Ⅰ) 安定的な学校給食運営を実施するため、老朽化した調理場を最新の基準を満たす調理場に速やかに更新する。 (Ⅱ) 給食調理場及び校舎の整備工事に着手した。 (Ⅲ) 継続して実施する。(令和5年度完了予定)	1,099,620

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-4 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている

### 市の施策

子どもたちが緑や生き物などの自然に親しみながら、学べる機会を提供する

### 基本方針

- ・ 市民・団体・行政などが連携を図り、家庭・学校・地域など多様な場で、自然とのふれあいや日常生活を通して、子どもの発達段階に応じた環境教育を進めることで、子どもたちの豊かな感性を育み、環境を守り大切にすることを育てます。
- ・ 自然を学ぶ観察会や講座などを充実させ、広報活動に力を入れることで、参加者の増加と参加者層の拡大を図るなど、より多くの子どもたちが自然を学べるように取り組んでいきます。
- ・ 子どもたちの自然体験活動を支援する指導者やボランティアについて、若い世代が気軽に参加でき、やりがいを感じられるような支援や仕組みづくりなどを行うことで、人材育成と資質向上を図ります。
- ・ 子どもたちの自然への興味や関心を高め、自らの学びを支援するため、計画的に施設や設備を充実させるとともに、より魅力的な事業を実施するよう努めます。

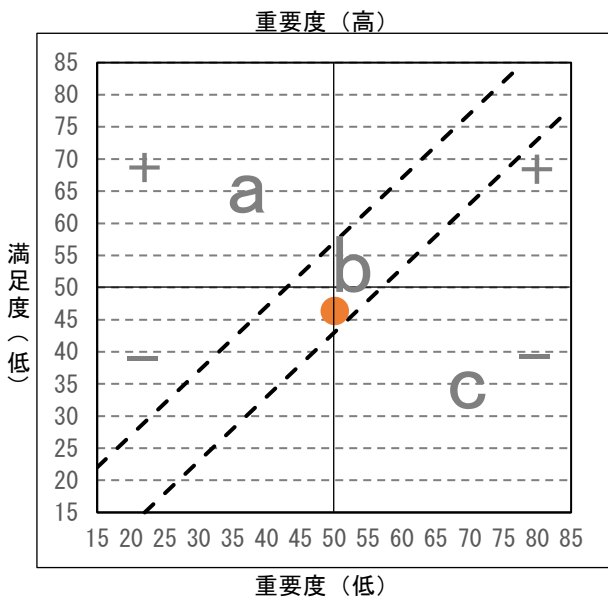
### 数値目標

まちづくり指標	自然にふれたり、学んだりする活動に参加している子どもの数																			
算出方法	自然の家の利用者（乳幼児・小中学生）、自然史博物館主催の自然観察会や講座、冒険遊び場、水辺教室、海辺教室、こどもエコライフチャレンジ、環境学習センター主催の講座への参加児童生徒数																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>11,533</td><td>11,533</td></tr> <tr><td>R3</td><td>11,533</td><td>1,122</td></tr> <tr><td>R4</td><td>11,533</td><td>14,535</td></tr> <tr><td>R7</td><td>14,500</td><td>14,500</td></tr> <tr><td>R12</td><td>18,000</td><td>18,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	11,533	11,533	R3	11,533	1,122	R4	11,533	14,535	R7	14,500	14,500	R12	18,000	18,000
年度	目標値		実績値																	
R1	11,533		11,533																	
R3	11,533	1,122																		
R4	11,533	14,535																		
R7	14,500	14,500																		
R12	18,000	18,000																		
目指す方向性																				
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により参加者が減った事業もあるが、R4. 4. 11に (I) 自然の家がリニューアルオープンしたことなどにより、全体の実績値は増加した。 (II) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。</p>																			

まちづくり指標	自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合																			
算出方法	小学生・中学生の児童生徒対象のアンケート調査で、「自然の中で遊ぶことを楽しいと思いますか」という設問に対して、『とてもそう思う』『そう思う』と回答した小学生・中学生の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>84.4</td><td>84.4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>84.4</td><td>84.6</td></tr> <tr><td>R4</td><td>84.4</td><td>85.5</td></tr> <tr><td>R7</td><td>86</td><td>86</td></tr> <tr><td>R12</td><td>88</td><td>88</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	84.4	84.4	R3	84.4	84.6	R4	84.4	85.5	R7	86	86	R12	88	88
年度	目標値		実績値																	
R1	84.4		84.4																	
R3	84.4	84.6																		
R4	84.4	85.5																		
R7	86	86																		
R12	88	88																		
目指す方向性																				
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>自然の家がリニューアルオープンしたことなどにより、自然体験講座の数が増え、自然の中で遊ぶ経験が増えたと考えられるため。 (II) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。</p>																			



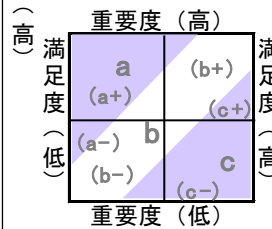
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	46.31	50.10

重要度に見合った満足度が得られている領域(b)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 < グラフの見方 >



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
教育普及事業、自然史博物館まつり事業 (自然史博物館)	(I) 多様な主体と連携して学習機会を提供し、市民の学習意欲を高める。 (II) 自然観察会や各種講座等を開催し、参加者数は4,263人(内中学生以下1,586人)であった。自然史博物館まつりは、3日間の分散開催とし、ワークショップや講座を開催した。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	789
冒険遊び場支援事業	(I) 民間団体が実施する自然体験活動を支援し、活動機会の充実を図る。 (II) プレーパーク活動を延べ14日開催し、参加者は累計で750人(大人308人、子ども442人)となった。 (III) プレーパークが地域に根ざした場となるよう、「遊び場を考える会」の活動支援を継続する。	210
展示事業 (自然史博物館)	(I) 調査研究及び資料収集の成果を展示公開し、教養文化の向上を図る。 (II) 「新着資料展」、「むしむしサロン」、「しぜんしくらしき賞作品展」、「折り紙昆虫展」等の企画展を開催した。また、常設展示の部分的な更新を実施した。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	214
調査研究事業、標本・文献等収集事業 (自然史博物館)	(I) 自然史資料を積極的に収集・保管・調査・研究し、次世代へ継承する。 (II) 標本等約13,400点の受入れと文献等1,746点の登録を行った。自然に関する総合調査研究を行い、研究報告第38号を発行したほか、専門誌等に119件の寄稿を行った。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	3,256
自然史博物館管理運営事業	(I) サービスや社会的価値の向上に努め、より魅力的な博物館をめざす。 (II) 広報紙やホームページのほか、SNS等を活用して569件の広報配信を行った。事業の評価や改善を踏まえ、施設の将来計画に関する調査・検討を行った。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	21,306
自然の家PFI施設整備運営事業	(I) 自然の中での様々な体験活動を提供し、健全育成と豊かな心を育む。 (II) 「山の学習・自然教室」は76校・7,825人、「一般利用」は175団体3,788人、指定管理者の「自主事業」は38回675人が利用した。 (III) 継続して実施する。	215,935

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-5 安心できる環境のもとで出産・子育てができている

### 市の施策

安心して出産・子育てできる環境を整える

### 基本方針

- ★ 妊娠期から子育て期における不安や悩みの軽減を図るための情報提供や相談体制を充実し、切れ目ない子育て支援環境を整えます。また、性に関する正しい知識を身につけられる機会の充実に努めます。
- ★ 地域での子育て支援の充実を図り、親子のふれあいや親同士の交流、子育ての仲間づくりを促進します。
- ★ 保育や医療、教育など、子育て家庭等の経済的負担の軽減、不妊・不育症の支援などにより、安心とゆとりをもって妊娠・出産・子育てができる環境を整えます。
- ★ 関係機関との連携を強化し、ひとり親家庭が抱える悩みや相談ごとに対応できる体制を整えます。また、生活支援や経済的支援を行い、ひとり親家庭の生活の自立と安定を図ります。
- ★ 希望する人が結婚できるよう、出会いの場の創出や相談体制の充実を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【(1) 就学前児童の保護者】																			
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「身近に子育ての相談ができるところがありますか」という設問に対して『ある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【(1) 就学前児童の保護者】</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>82</td><td>79.9</td></tr> <tr><td>R3</td><td>82</td><td>79.5</td></tr> <tr><td>R4</td><td>82</td><td>76.6</td></tr> <tr><td>R7</td><td>82</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>85</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	82	79.9	R3	82	79.5	R4	82	76.6	R7	82	-	R12	85	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	82		79.9																	
R3	82	79.5																		
R4	82	76.6																		
R7	82	-																		
R12	85	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) コロナ禍により、対面による相談が制限されたことが要因と考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 子育てに関する情報発信、子育ての相談体制を継続して充実させていく。																			

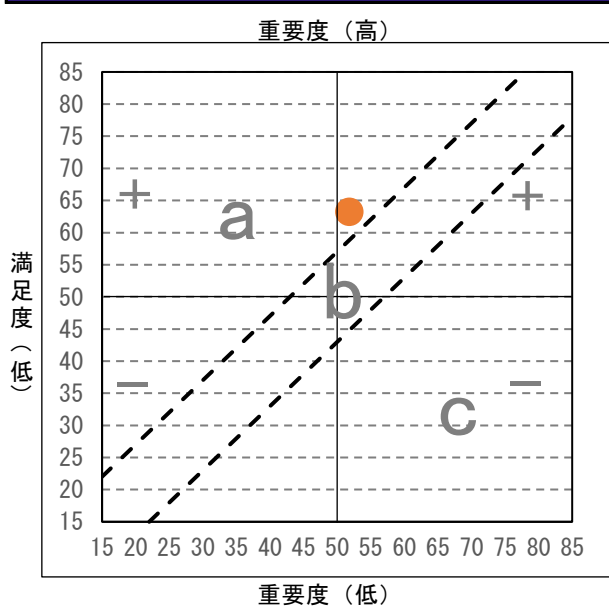
まちづくり指標	身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【(2) 小学生の保護者】																			
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「身近に子育ての相談ができるところがありますか」という設問に対して『ある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【(2) 小学生の保護者】</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>70</td><td>66.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>70</td><td>64.0</td></tr> <tr><td>R4</td><td>70</td><td>67.2</td></tr> <tr><td>R7</td><td>70</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>75</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	70	66.6	R3	70	64.0	R4	70	67.2	R7	70	-	R12	75	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	70		66.6																	
R3	70	64.0																		
R4	70	67.2																		
R7	70	-																		
R12	75	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	B																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) コロナ禍により、対面による相談が制限されたことが要因と考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 子育てに関する情報発信、子育ての相談体制を継続して充実させていく。																			

まちづくり指標	子育てを家族で協力して行っている人の割合【(1) 就学前児童の保護者】																			
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「家族で協力して子育てをしていますか」という設問に対して、『十分協力している』『まあまあ協力している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>子育てを家族で協力して行っている人の割合【(1) 就学前児童の保護者】</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>92</td><td>89.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>92</td><td>90.0</td></tr> <tr><td>R4</td><td>92</td><td>89.1</td></tr> <tr><td>R7</td><td>92</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>95</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	92	89.5	R3	92	90.0	R4	92	89.1	R7	92	-	R12	95	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	92		89.5																	
R3	92	90.0																		
R4	92	89.1																		
R7	92	-																		
R12	95	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) ワークライフバランスへの気運が醸成していると考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 地域での子育て支援の充実を図り、家族が協力して子育てをすることの大切さを継続して啓発していく。																			

まちづくり指標	子育てを家族で協力して行っている人の割合【(2)小学生の保護者】	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「家族で協力して子育てをしていますか」という設問に対して、『十分協力している』『まあまあ協力している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) ワークライフバランスへの気運が醸成していると考えられる。 (II) 地域での子育て支援の充実を図り、家族が協力して子育てをすることの大切さを継続して啓発していく。	

まちづくり指標	倉敷結婚相談所を通じた結婚成立数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) コロナ禍での活動意欲の低下及び競合他者の影響による会員数の減少が成立数低下の主な要因と考えられる。 (II) R3年度導入したマッチングシステムをより利便性の高いものにし、利用満足度向上につなげ会員数の増加を図る。	

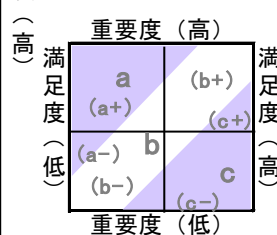
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	63.19	51.83

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 <グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 子育て世代包括支援センター運営事業	(Ⅰ) 妊娠から子育て期にわたり切れ目ない支援を行う。 (Ⅱ) 相談室利用4,583人、相談専用ダイヤル利用1,917人、来所相談2,649人 (Ⅲ) 継続して実施する。	27,574
★ 妊産婦乳児健康診査事業	(Ⅰ) 妊産婦及び乳児の健康増進並びに虐待予防を図る。 (Ⅱ) 妊婦健診(14回)、産婦健診(産後8週までに2回)、乳児健診(満1歳までに3回)の受診を公費負担した。延べ受診者数は、妊婦健診が41,542人、産婦健診が6,534人、乳児健診が10,446人であった。 (Ⅲ) 令和5年度より多胎児を妊娠した妊婦に対し、妊婦健康診査受診票を5枚追加で交付する。	458,260
★ 妊婦面接	(Ⅰ) すこやかな妊娠・出産を迎えられるよう情報提供や状況把握を行う。 (Ⅱ) 面接実施人数3,494人 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ パパママセミナー	(Ⅰ) 安心して出産・育児を迎えられるよう親になる心構えや知識を伝える。 (Ⅱ) 実施回数10回、参加者数420人 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ 幼児健康診査事業	(Ⅰ) 幼児の疾病や発達障がい等の早期発見と虐待の予防を図る。 (Ⅱ) 受診者数は、1歳6か月児健康診査が3,679人、3歳児健康診査が3,609人、2歳児歯科健康診査が2,903人であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	28,798
★ 妊婦歯科健康診査事業	(Ⅰ) 妊婦および生まれてくる子どもの口腔衛生の向上を図る。 (Ⅱ) 妊婦歯科健康診査の受診者数は、1,607人であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	7,260
★ 産後ケア事業	(Ⅰ) 産婦の身体的回復や心理的安定を促進し、母子とその家族を支援する。 (Ⅱ) 宿泊型が262件、日帰り型が161件であった。 (Ⅲ) 令和5年度より多胎児を出産した産婦に対し、助成額の加算を実施する。	3,929
子ども家庭総合支援拠点運営事業	(Ⅰ) 18歳までの子どもと家庭、妊産婦等の身近な相談機関として充実を図る。 (Ⅱ) こんにちは赤ちゃん訪問3,637件、養育支援訪問1,626件、赤ちゃん相談ダイヤル267件、産じよく期ヘルパー派遣138回、ショートステイ延362日など、子育て支援に関する情報提供や必要なサービス提供を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	71,981
性に関する正しい知識の理解促進	(Ⅰ) 性に関する科学的知識と健全な異性観、望ましい行動を身につける。 (Ⅱ) 男女の心身の違いや性別に関わる人権配慮などに関する保健教育を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
家庭教育学級開設事業	(Ⅰ) 保護者等を対象に、健全で明るい家庭づくりと家庭教育力向上を図る。 (Ⅱ) 家庭教育学級は、地域団体と公立幼稚園で合計15学級を開設し、「親育ち応援学習プログラム」を活用した保護者向けワークショップは、17学校園で実施し、543人が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,087
★ 倉敷ファミリー・サポート・センター事業	(Ⅰ) 会員同士による子育ての助け合いを支援する。 (Ⅱ) 依頼会員数1,566人、提供会員数503人、両方会員数141人、活動件数4,316件であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	12,345
★ 子育てサロン推進事業	(Ⅰ) 地域のふれあいの中で子育てを楽しめる環境づくりを推進する。 (Ⅱ) 補助金交付団体は12団体、延べ開催数128回、延べ利用者数1,829人であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	571
子育て力向上事業	(Ⅰ) 地域で子育てを支えている市民・団体間のつながりを促進する。 (Ⅱ) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を中止したが、地域子育て支援拠点を中心に「子育てcafe」でつながりができた団体同士が協働し、継続して地域支援に取り組むなどの成果が見られている。 (Ⅲ) 継続して実施する。	0
子育て広場開設事業	(Ⅰ) 子育ての不安や孤立感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援する。 (Ⅱ) 幼稚園等10カ所で開催。282回実施し、延べ4,264人の親子が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,831
児童館・児童センター運営事業	(Ⅰ) 18歳未満の子どもを心身ともに健やかに育成する。 (Ⅱ) 市内6カ所の児童センター・児童館で、子育て支援事業や児童育成事業、季節行事などを通して児童に健全な遊び場を提供し、年間169,782人の利用があった。また、母親クラブ(16団体)等の地域組織活動の支援を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	166,314



事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 地域子育て支援拠点 事業 子育てカレッジ事業	(Ⅰ) 親子のふれあいや親同士の交流・仲間づくりを促進する。 市内21カ所(令和4年10月より1カ所増)において地域子育て支援拠点を開設し、年間延べ134,536人の利用があった。(玉島児童館内つどいの広場利用者数は除く。)また、13カ所の地域子育て支援拠点においては、地域の (Ⅱ) 子育て支援団体とのつながりを生かした地域支援事業を実施し、地域の課題解決に継続的に取り組んだ。さらに令和4年10月より、1カ所において専門の相談員を設置し、(利用者支援事業の開始)子育て家庭の悩みやサービスの利用等に対し継続的な支援を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	259,846
★ 子ども医療費助成事業	(Ⅰ) 子どもに係る医療費の一部を助成し、子どもの健康保持増進に寄与する。 (Ⅱ) 通院分は小学校6年生まで、入院分は中学校3年生までの子どもを対象に、819,549件・1,852,476,299円の医療費を支給した。 (Ⅲ) 事業の見直し、令和5年7月から通院分の対象を中学校3年生まで拡大。	1,906,792
★ 特定不妊治療助成事業	(Ⅰ) 不妊症のため子どもをもてない夫婦の不妊治療の経済的負担を軽減する。 (Ⅱ) 助成件数221件、うち男性不妊治療を行ったものは1件であった。46,611,744円の助成費を支給した。 (Ⅲ) 令和4年度より保険適用となり、令和5年度以降の治療については助成対象外となる。令和4年度の治療について一部申請期限が令和5年6月末であり、令和5年度は縮小して実施し、令和6年度移行は廃止予定である。	46,651
★ 不育症検査助成事業	(Ⅰ) 不育に悩む夫婦の経済的負担を軽減する。 (Ⅱ) 申請件数2件 (Ⅲ) 助成対象となる検査が令和4年12月より追加されたため、今後も継続して実施する。	100
多子世帯等の保育料の軽減	(Ⅰ) 多子世帯(子どもが3人以上いる世帯)等の保育料負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 国の定める基準額から、県の制度も活用し、市独自に保育料の軽減を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	160,121
★ ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業	(Ⅰ) ひとり親家庭の自立や生活の安定を図るため、学び直しを支援する。 (Ⅱ) 受講終了時給付金1件、合格時給付金1件 (Ⅲ) 継続して実施する。	150
★ 母子・父子自立支援事業	(Ⅰ) 母子・父子自立支援員を配置し、ひとり親家庭等の各種相談に応じる。 (Ⅱ) ひとり親家庭等を対象に身上相談に応じ、その自立に必要な相談指導や情報提供を行った(相談件数:2,321) (Ⅲ) 継続して実施する。	15,855
★ 高梁川流域結婚支援事業	(Ⅰ) 希望する者に対し、結婚を支援するため、出会いの場を創出する。 倉敷・高梁川流域マリッジサポートセンターを運営。R4年度は相談・支援により19組が成婚。また、市主催の婚活イベントを計9回実施し、29組のカップルが成立した。 (Ⅲ) 高梁川流域圏域の市町村との連携を強化し、継続して実施する。	15,385

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-6 仕事と家庭の両立ができ、親が子どもとふれあう時間をもつことができている

### 市の施策

子育てと仕事がゆとりをもって両立できる環境を整える

### 基本方針

- ★ 多様化する就学前保育・教育ニーズに応じて、地域性や年齢などを考慮しながら受入枠の拡大を図り、待機児童対策を進めます。
- ★ 頻発化する自然災害や感染症を見据えて、就学前保育・教育施設において、計画的に子どもの健康や安全確保の対策に取り組めます。
- ★ 保育の内容や方法を、社会情勢に応じた見直しを行いながら、専門家の意見を取り入れるなど保育現場職員の研修の充実により、保育の質の向上を図ります。
- ★ 働きやすい保育の場をめざした環境整備などにより、就労希望者を増やし、保育所や認定こども園等に勤務する職員の確保に努めます。
- ★ 放課後児童クラブの利用ニーズの増加に対応するため、放課後児童クラブの充実を図ります。

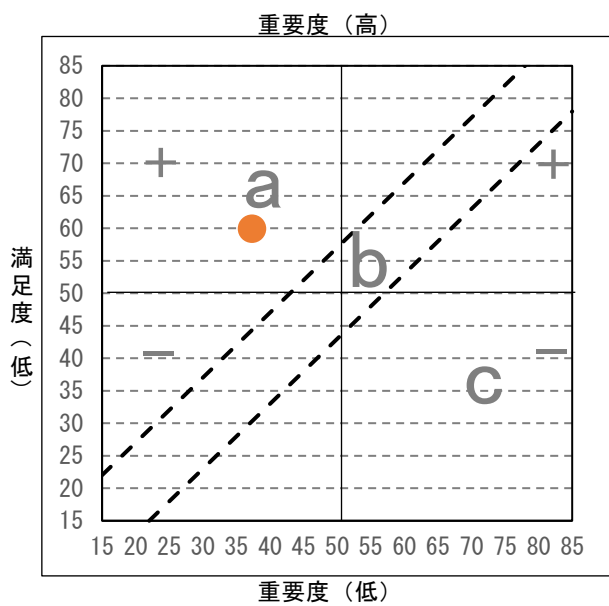
### 数値目標

まちづくり指標	保育所等の待機児童数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	↓	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 施設整備及びAIを活用した入所事務支援システムの運用によるきめ細やかな入所案内が要因と考えられる。 (II) 0~2歳児を受け入れる地域型保育事業の実施促進や、保育所・認定こども園の整備、幼稚園での預かり保育の拡充。	

まちづくり指標	これまで育児休業を取得したことがある人の割合【(1) 就学前児童の父親】	
算出方法	父親が『現在育児休業中』『取得したことがある』と答えた人の数/アンケート回答者のうち父親が『現在育児休業中』『取得したことがある』『勤め先に育児休業制度はあるが取得したことはない』と回答した人の数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	↑	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 企業の制度整備やワークライフバランスへの気運が醸成していることが要因と考えられる。 (II) 育児休業制度などの利用や、子育てと仕事を両立できる子育てしやすい職場環境づくりを促進する。	

まちづくり指標	これまで育児休業を取得したことがある人の割合【(2) 就学前児童の母親】	
算出方法	母親が『現在育児休業中』『取得したことがある』と答えた人の数／アンケート回答者のうち母親が『現在育児休業中』『取得したことがある』『勤め先に育児休業制度はあるが取得したことはない』と回答した人の数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 企業の制度整備やワークライフバランスへの気運が醸成していることが要因と考えられる。 (II) 育児休業制度などの利用や、子育てと仕事を両立できる子育てしやすい職場環境づくりを促進する。	

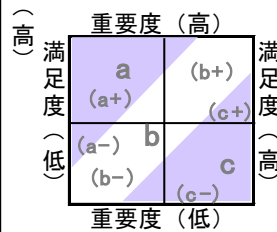
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	59.93	37.34

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 <グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 公立保育所等延長保育事業	(Ⅰ) 公立保育所等の延長保育需要に対応する。 (Ⅱ) 公立保育所(8か所1分園)・認定こども園(2か所)で延長保育を実施し、延長保育需要に対応した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	6,760
★ 公立幼稚園預かり保育・3歳児保育実施事業	(Ⅰ) 未就学児の保護者が、子育てと就労を両立できるよう支援を行う。 (Ⅱ) 保育時間を延長する預かり保育を23園で実施し、3歳児保育のニーズに対応して、33園で3歳児保育を実施している。 (Ⅲ) 保護者の就労や3歳児保育のニーズが増えてきており、今後も公立幼稚園適正配置計画に基づき、継続して実施する。	237,379
★ 民間保育所等特別保育事業	(Ⅰ) 保護者の子育てと就労等の両立を支援する。 (Ⅱ) 民間保育所(59園)・認定こども園(17園)で延長保育を実施した。また、民間保育所(11園)・認定こども園(22園)で一時預かりを実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	230,499
★ 私立幼稚園一時預かり事業助成事業	(Ⅰ) 保護者の子育てと就労等の両立を支援する。 (Ⅱ) 私立幼稚園(9園)では延べ58,723人の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	36,522
★ 施設型・地域型保育給付事業	(Ⅰ) 施設の安定した教育・保育の提供を支援する。 (Ⅱ) 民間認定こども園21園では月初日平均3,766人、私立幼稚園9園では月初日平均902人、小規模保育事業所23園では月初日平均362人、事業所内保育事業所15園では月初日平均120人(地域枠)の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	5,428,856
★ 小規模保育事業等推進事業	(Ⅰ) 小規模保育事業等の推進を図る。 (Ⅱ) 6施設に対して実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,080
児童館・児童センター休日保育事業	(Ⅰ) 保護者の子育てと就労等の両立を支援する。 (Ⅱ) 7月に休日保育を開始した倉敷児童館は延べ51人、11月に開始した倉敷北児童センターは延べ44人の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,993
★ 公立保育所・認定こども園施設整備事業	(Ⅰ) 公立保育所・認定こども園における保育環境の改善を図る。 (Ⅱ) 公立保育園・認定こども園の空調設備改修や、乙島東認定こども園の外壁等改修工事を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	110,211
★ 民間保育所・認定こども園施設整備等助成事業	(Ⅰ) 保育環境の充実を図るとともに、待機児童対策を推進する。 (Ⅱ) 2保育所の改築等について助成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	59,879
★ 子育てのための施設等利用給付事業	(Ⅰ) 子育てに伴う保護者の経済的負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 幼稚園保育料・預かり保育料は延べ14,377人に、認可外保育施設等の保育料は延べ1,860人に給付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	214,685
保健福祉功労事業者表彰	(Ⅰ) 子育てしやすい職場環境づくりを促進する。 (Ⅱ) 市内に本社を置く1事業所に対して、児童福祉功労(事業所)表彰を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ 保育研修・研究事業	(Ⅰ) 保育の質の向上を図る。 (Ⅱ) 倉敷市保育協議会が実施する公開保育部会に147人、研究部会に246人、研修会に341人の参加があった。 (Ⅲ) 職員の資質や保育の質の向上が図られ、また公立・民間保育所等の交流が促進され、保育内容に対する問題の共有化が図られるよう、継続して実施する。	2,745
★ 高梁川流域保育士確保対策事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏の保育士確保を図る。 (Ⅱ) 離職防止対策研修会を42回実施し、延べ725人が参加した。 (Ⅲ) 今後も保育士不足が懸念されていることから、継続して実施する。	6,043



事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 保育対策総合支援事業	(Ⅰ) 保育士の負担を軽減し、保育士の就業継続や離職防止を図る。また、保育における事故防止を図る。 (Ⅱ) 宿舍借り上げ支援事業では14施設22人、保育体制強化事業では40施設59人、保育補助者雇上強化事業では8施設11人、ICT化推進事業では9施設、事故防止推進事業では6施設での利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	71,973
★ 保育士処遇改善事業	(Ⅰ) 保育士の確保を図る。 (Ⅱ) 78施設の保育士に対し、処遇改善を行った。 (Ⅲ) 保育士の就業継続や離職防止を図るため、継続して実施する。	125,416
★ 病児・病後児等保育事業	(Ⅰ) 保護者の子育てと就労等の両立を支援する。 (Ⅱ) 市内4施設で延べ3,804人(うち市外児童388人含む)、市外8施設で延べ175人の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	71,848
★ 放課後児童クラブ実施事業	(Ⅰ) 仕事などで保護者が昼間家庭にいない児童に遊びや生活の場を確保する。 (Ⅱ) 児童数がおおむね40人のクラブ(支援の単位)で事業を実施し、163クラブ5,759人(4月1日現在)の児童を受け入れた。また、利用児童の増加に対応するため、民間施設や余裕教室の活用を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,809,318

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育〈慈〉

### めざすまちの姿

1-7 学校・園、地域、家庭が連携して、子どもたちが困窮することなく、安心して学び、成長できる環境となっている

### 市の施策

学校・園、地域、家庭が連携して子どもたちを見守り、安全・安心に成長できる環境を整える

### 基本方針

- ★ 学校・園、地域、家庭が連携する子育て支援のネットワークづくり、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進めます。
- ★ 学校や地域の活動のなかで、子どもたちが地域の歴史・文化を学んだりスポーツを楽しんだりする機会を増やして、子ども同士や地域住民との交流を深め、子どもの社会性を身につける健やかな学びと成長を支えます。
- ★ 学校・園を支援する地域のボランティアやコーディネーターを育成・支援し、地域で子どもたちが安心して生活できる環境づくりに努めます。
- ★ 様々な困難を抱える家庭の子どもが将来の夢や希望をもち、成長段階に応じた支援ができるよう、家庭に寄り添い、福祉や教育、地域が協働し支える体制をつくります。

### 数値目標

まちづくり指標	様々な場面で困った時に相談できる相手がいる保護者の割合【(1) 就学前児童の保護者】	
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「封筒のあて名のお子さんについて、あなたは、様々な場面で困った時に相談できる相手がありますか」という設問に対し、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 児童を養育しながら、家庭の複合的な課題について、相談する時間や機会の確保が困難なことが要因と考えられる。 (II) 生活困窮者支援におけるアウトリーチ支援を継続するほか、地域子ども・子育て支援事業や幼稚園・保育所等への積極的なつなぎを行う。	

まちづくり指標	様々な場面で困った時に相談できる相手がいる保護者の割合【(2) 小学生の保護者】	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「封筒のあて名のお子さんについて、あなたは、様々な場面で困った時に相談できる相手がありますか」という設問に対し、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 児童を養育しながら、家庭の複合的な課題について、相談する時間や機会の確保が困難なことが要因と考えられる。 (II) 生活困窮者支援におけるアウトリーチ支援を継続するほか、地域子ども・子育て支援事業や就学支援に関する窓口への積極的なつなぎを行う。	

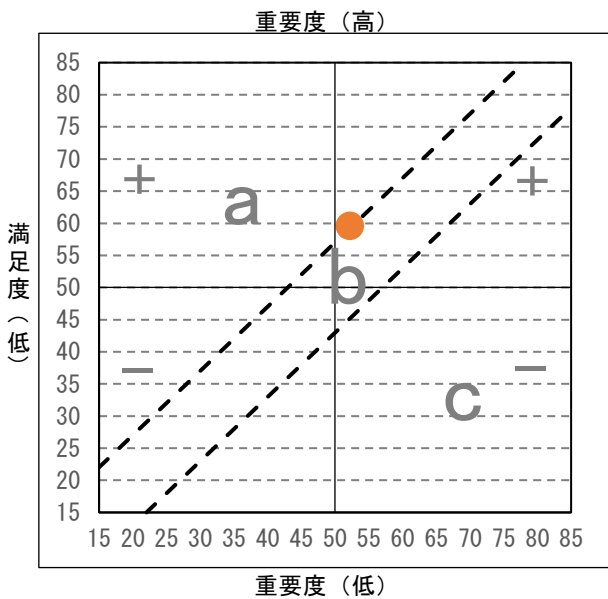
まちづくり指標	学校・家庭・地域が連携した事業に参加した子どもの数	
算出方法	放課後子ども教室へ参加した子どもの数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催数及び参加者数が減少したため。 (II) R5年度の計画では、コロナ前までの参加者数に近づいている。引き続き各教室に対してプログラムの紹介などを行っていく。	

まちづくり指標	地域の人に支えてもらって子育てをしていると思う人の割合【(1)就学前児童の保護者】	
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「地域の人に支えてもらって子育てをしていると思いますか」という設問に対して『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) コロナ禍により、地域における活動が制限されたことが要因と考えられる。 (II) 福祉や教育、地域が協働し、地域の子育て力を高め、総合的な支援体制の充実を図っていく。	

まちづくり指標	地域の人に支えてもらって子育てをしていると思う人の割合【(2)小学生の保護者】	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「地域の人に支えてもらって子育てをしていると思いますか」という設問に対して『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) コロナ禍により、地域における活動が制限されたことが要因と考えられる。 (II) 福祉や教育、地域が協働し、地域の子育て力を高め、総合的な支援体制の充実を図っていく。	

まちづくり指標	子どもと将来の夢や目標について家庭で話をする小学生の保護者の割合	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「封筒のあて名のお子さんと将来の夢や目標について家庭で話をしますか」という設問に対し、『する』と回答した人の数／アンケート回答者数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 生活困窮世帯の場合は、保護者自身に夢や目標を子どもと語る余裕が無いことが考えられる。 (II) 小学生等の子どもをもつ生活困窮世帯の保護者に対しては、就労支援、家計改善支援、ひきこもり支援等を通じて生活を安定させるための支援を行っていく。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	59.57	52.23
重要度に見合った満足度が得られていない領域(a) 重要度が平均値より高い部分(+)		

満足度 (高)  
満足度 (低)  
<グラフの見方>

		重要度 (高)			
満足度 (高)	満足度 (低)	a	(b+)	満足度 (高)	満足度 (低)
		(a+)	(c+)		
(a-)	(b-)	重要度 (低)		(c-)	(c)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 子どもセンター事業	(I) 倉敷市子どもセンターの支援を通じて、親子間の交流の活性化を図る。 (II) 倉敷市子どもセンター協議会を開催した。情報誌「パワフルキッズ」を年4回 (累計38,000部) 発行し、各種イベント情報の周知に努めた。主催イベントを年3回開催し、他団体主催イベントに年2回参加することで、親子で楽しめるものづくり体験活動を提供した。 (III) 今後も継続して実施し、親子間の交流の活性化を図っていく。	2,803
★ 放課後子ども教室推進事業	(I) 地域教育力の向上と子どもが地域社会で健やかに育まれる環境をつくる。 (II) 本事業は延べ2,231日開催し、参加した子どもは144,824人・ボランティアスタッフとして参加したのは15,230人である。コロナ禍の影響で、実施予定が確定できず開催日数・参加児童数・ボランティアスタッフ数が期待数には届いていない。 (III) 継続して実施するが、学校支援事業に統合しての実施を志向していく。	4,206
よい子いっぱい基金運営事業	(I) 倉敷の次代を担う子ども達の心身ともに健やかな成長を図る。 (II) 市内中学校と支援学校で行われる立志式、倉敷っ子なかよし作品展、よい子いっぱい芸術鑑賞、中学生弁論大会、イングリッシュキャンプへ助成し、優秀な成績を収めた児童生徒を表彰する「よい子強い子表彰」では、63件を表彰した。 (III) 新規助成事業を検討しながら、継続して実施する。	2,138
二十歳の集い記念事業	(I) 20歳になる方を対象に門出を祝福し、市民意識の高揚や社会人としての自覚を促す。 (II) 令和5年1月8日 (日) に倉敷スポーツ公園マスカットスタジアムで実施した。参加対象者4,777人のうち2,776人が入場した (参加率58.1%) (III) 継続して実施する。	6,379
こどもまつり実施事業	(I) 子ども達の交流と少年団体の活動の活性化を図る。 (II) 感染症を考慮し、午前部・午後部に分け、人数を制限して開催した。申込者の中から抽選で当選した867人の参加があった。 (III) 継続して実施する。	1,581
「生きる力」支援事業	(I) 不登校やその傾向にある子どもの生きる力を育成し、保護者を支援する。 (II) 「居場所」には延べ337人が、不登校を考える「親の集い」には延べ71人の参加があった。体験の場を提供する「さわやかデー」には、8家族22人の参加があった。 (III) 受託団体と協議しながら、継続して実施する。	1,026

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
子ども会支援事業	(Ⅰ) 倉敷市子ども会連合会の活動を支援する。 (Ⅱ) 健全な子どもの育成を目的とした子ども会の運営のため、補助金の支給などを行うことにより、集団指導者養成講習会や球技大会などの活動を支援した。 (Ⅲ) 地域に密着した自然体験や異世代との交流機会の提供などを行う子ども会活動を継続して支援する。	2,055
青少年健全育成団体支援事業	(Ⅰ) 青少年健全育成関係団体を支援し活動の活性化を図る。 (Ⅱ) 26中学校区青少年を育てる会に補助金を交付した。各中学校区が実施する家庭教育講演会には、11,838人が参加した。また、少年補導委員との合同研修会を実施し、講演会聴講による資質向上の機会を提供できた。 (Ⅲ) 合同研修会の講演会内容の充実を図りながら、継続して実施する。	10,008
青少年健全育成推進大会実施事業	(Ⅰ) 広く市民に青少年健全育成への意欲関心を高める機会を提供する。 (Ⅱ) 令和5年2月26日(日)にライフパーク倉敷で第45回倉敷市青少年健全育成推進大会を実施した。青少年健全育成成功労者市長表彰、「明るい家庭づくり」作文市長表彰受賞者による作文発表及び講演会を実施し、251名が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	429
★ 地域連携による学校支援事業	(Ⅰ) 地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上と地域の活性化を図る。 (Ⅱ) 小学校区50か所、中学校区24か所、支援学校区1か所、高等学校区1か所で事業を実施した。ボランティアとして、6,529人の地域住民が延べ247,620人本事業の活動に参加した。 (Ⅲ) 実施校区の拡大を目指すとともに、継続的な活動ができるよう体制の構築を図る。	45,163
青少年育成センター非行防止活動事業	(Ⅰ) 市内青少年の非行防止及び健全な育成を図る。 (Ⅱ) 補導員による補導件数は896件(小学校183件、中学校289件、高校407件、その他17件)で、電話・来所・メールによる相談件数は552件だった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	57,966
★ 子どもの生活等支援事業	(Ⅰ) 子どもが将来の夢や希望をもち、進学等につながるよう成長段階に応じて支援する。 (Ⅱ) 困難を抱える小学生等世帯を訪問し学習・生活習慣の習得支援を実施し(45世帯・69人)中学生に学習教室「くらすぽ」で高校進学への学習支援を実施した。(96人)支援者向け研修を2回実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	24,902
★ 奨学金給付貸付事業	(Ⅰ) 経済事情により修学が困難な学生等に対して、経済的な支援を行う。 (Ⅱ) 貸付51件22,080千円(うち返還一部免除型貸付21件10,080千円)、給付104件9,105千円を支給した。奨学基金への積立1,944千円。 (Ⅲ) 継続して実施する。	32,289



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-8 障がいの有無にかかわらず、等しく保育・教育を受けることができる

### 市の施策

障がいのある子どもが、適切な保育や教育、支援が受けられる体制を整える

### 基本方針

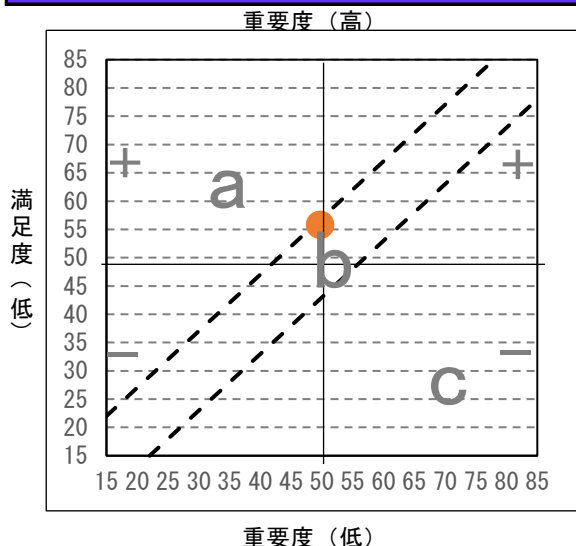
- 障がいの有無にかかわらず、ともに尊重し合いながら協働して生活していくことができるよう、多様化する障がいと障がいのある子どもに対する理解と啓発に努めます。
- 障がいのある子ども一人ひとりに適したきめ細かな対応を行うため、個々の教育ニーズに応じた適切な指導及び支援を受けることができる環境を整備します。
- 教職員や保育者の障がいに対する理解や指導力の向上のための研修などの充実により、多様化する発達障がいに対応できる専門性を備えた相談支援体制の充実を図ります。
- 障がいのある子どもが将来自立して生活していけるよう、関係機関や団体などと連携した進路指導の充実を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	特別支援教育・特別支援保育に関する学習会・研修会等への教職員や保育職員の参加者数																			
算出方法	特別支援教育に関する学習会・研修会へ参加した教職員、特別支援保育研修会に参加した保育職員の数																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>参加者数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>1,969</td><td>—</td></tr> <tr><td>R3</td><td>2,038</td><td>—</td></tr> <tr><td>R4</td><td>1,946</td><td>—</td></tr> <tr><td>R7</td><td>—</td><td>2,050</td></tr> <tr><td>R12</td><td>—</td><td>2,150</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	R1	1,969	—	R3	2,038	—	R4	1,946	—	R7	—	2,050	R12	—	2,150
年度	実績値		目標値																	
R1	1,969		—																	
R3	2,038	—																		
R4	1,946	—																		
R7	—	2,050																		
R12	—	2,150																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 特別支援児保育に対する理解が深まり、積極的な研修への参加が見られている。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 感染症対策を行いながら、研修の継続・内容の検討を進めていく。																			

まちづくり指標	特別支援教育について理解が進んでいると思う人の割合																			
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、小学生・中学生がいる人で、「障がいのある幼児児童生徒を指導・支援する特別支援教育について知っていますか」という設問に対して『知っている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち小学生・中学生がいる人の総数×100																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>理解が進んでいると思う人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>60.4</td><td>—</td></tr> <tr><td>R3</td><td>60.7</td><td>—</td></tr> <tr><td>R4</td><td>61.1</td><td>—</td></tr> <tr><td>R7</td><td>—</td><td>70</td></tr> <tr><td>R12</td><td>—</td><td>80</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	R1	60.4	—	R3	60.7	—	R4	61.1	—	R7	—	70	R12	—	80
年度	実績値		目標値																	
R1	60.4		—																	
R3	60.7	—																		
R4	61.1	—																		
R7	—	70																		
R12	—	80																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	B																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 通常学級における、特別支援教育に関する取り組みが進んできたと思う。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 学校の取り組みが継続していけるよう、研修を今後も継続していく。																			

市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	55.79	49.75

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

<グラフの見方>

重要度 (高)		重要度 (低)	
満足度 (高)	a (a+)	(b+)	(c+)
満足度 (低)	(a-)	b (b-)	(c-)

満足度 (高)

満足度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
障がい者週間記念事業	(I) 障がい者の地域生活を支えるための障がいに対する理解の普及啓発 障がい児 (者) とのふれあいや交流を図ることを目的としたイベントを実施した。絆のひろば (授産品販売) : 来場者約1,000人、ふれあいステージ (WEB開催) : 参加者8団体、ニコニコ子どもひろば (熱気球体験) : 参加者134人 (33組)、ふれあいウォーク in ツーデーマーチ : 参加者108人、障がい者 (児) 作品展 : 出品数82点・来場者数96人、「障がい者週間」ポスター展 : 出品数77点 (II) (III) 引き続き障がい者に対する理解を深める必要があり、継続して実施する。	1,090
通級指導推進事業	(I) 幼稚園及び小中学校における、通級指導の充実を図る。 (II) 通級指導 (幼児指導教室) の充実のために、幼稚園10人、小学校12人、中学校1人の非常勤講師等を配置して、指導にあたった。 (III) 通級指導 (幼児指導教室) の充実のためには必要な配置であり、引き続き、継続して実施する。	56,552
特別支援教育推進事業	(I) 特別支援教育の一層の充実を図る。 (II) 特別支援学校が、センター的機能を果たすために、公開講座を1回 (申し込み人数406人)、巡回相談を7回実施した。看護支援員を3名配置した。 (III) 特別支援教育に携わっている教員の研修、医療的ケア児への支援等が必要であり、今後も継続して実施する。	3,788
教育相談員配置事業	(I) 教育支援に関する相談体制の充実を図る。 (II) 特別支援教育推進室へ就学相談員を配置し、常時相談に対応するとともに、就学相談会を全17回実施し、251組の親子が参加した。 (III) 就学予定者と関わりの深い保健所や総合療育相談センター (ゆめばる)、児童発達支援センター等との連携を強めながら継続して実施する。	2,707
特別支援児保育アドバイザー派遣事業	(I) 保育所・認定こども園に入所している特別支援が必要な児童への適切な対応を図る。 (II) 発達支援員・言語聴覚士・大学教授などの専門家を派遣し、保育所において直接指導方法等のアドバイスを延べ318回を実施した。 (III) 子どもの状況に応じ、継続して実施する。	3,000
学校・園生活支援員配置事業	(I) 障がい等で支援を必要とする幼児・児童・生徒の生活面を援助する。 幼稚園31人、小学校128人、中学校28人、高等学校8人、特別支援学校10人の生活支援員を配置し、教職員と一体となった支援を行うことで教育活動の一層の充実を図ることができた。 (II) 障がい等で支援を必要とする幼児・児童・生徒は、多く在籍しており、今後も教育活動の一層の充実を図るため、継続して実施する。 (III)	202,447
特別支援教育専門家派遣事業	(I) 学校園における特別支援教育の充実を図る。 学校園派遣回数、幼稚園18回、小学校223回、中学校72回、高等学校1回、特別支援学校5回、その他7回で、合計326回 (前年度比27回減)。重篤なケースでの複数回の訪問 (依頼) も増えている。 (II) 学校園からのニーズが高く、年々、重篤なケースも増加傾向にあることから、継続して実施する。 (III)	783
特別支援教育大学連携事業	(I) 障がい理解を深め、特別支援教育の推進を図る。 くらしき作陽大学子ども教育学部の学生 (4回生) 2人を、市内小学校2校に派遣した。派遣した学校の報告書や参加学生の報告会等では、双方にとって有益な事業となったことが多く報告された。 (II) 学生、学校、双方にとって有意義であり、特別支援教育の推進のために継続して実施する。4回生だけでなく、3回生の学生にも参加を促し、事業の充実を図る。 (III)	38

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 子ども・子育て・教育＜慈＞

### めざすまちの姿

1-9 興味があることを、だれもが、気軽に学ぶことができる

### 市の施策

一人ひとりが生涯を通して行う学びを支援するとともに、その学びによる地域の活性化を推進する

### 基本方針

- ・ 多様化する市民ニーズの把握に努め、求められる学習機会の提供と情報発信に努めるとともに、学習した成果を地域で生かせるような仕組みづくりを進めます。
- ★ 長期ひきこもりなど社会的に孤立し、自立に困難を抱えている若者などへの学習機会を提供して、関係機関と連携して支援し、社会参加や就労につなげていきます。
- ・ 優れた市内の学習施設を効果的に活用するとともに、施設の長寿命化も踏まえた施設機能の充実を図り、市民が、学びの場として安全で快適に利用できる学習施設をめざします。
- ★ 大学などの高等教育機関や企業、また市や公的機関などの連携により、様々な専門的な分野において、気軽な学びの機会を提供し、積極的な情報発信を行うとともに、地元大学等の更なる活性化を図ります。
- ・ 地域・家庭における読書活動が進むよう、子どもと家族と一緒に親しむ習慣づくりを支援し、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動の支援を行います。

### 数値目標

まちづくり指標	学校で活動している地域のボランティアの数	
算出方法	「地域連携による学校支援事業」と「放課後子ども教室推進事業」に参加したボランティアの延人数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 感染拡大による緊急事態宣言等の制限がなかったことにより、計画通り事業を実施することができたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 今後も、感染対策を適切に行いながら、地域と学校が連携を図りながら実態に即した事業を進めていく。	

まちづくり指標	自分が参加したいと思う講座や活動があると思う人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「公民館やライフパーク倉敷などに自分が参加したいと思う講座や活動がありますか」という設問に対して、『十分ある』『まあまあある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症拡大により、開講できる講座の内容が限定されていたことによると考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 市民のニーズに応じた講座と、地域課題等に関する講座との兼ね合いを図りながら講座を企画実施する。	



まちづくり指標	公民館、図書館で開催される生涯学習講座への参加者数	
算出方法	市民学習センター、公民館、図書館で開催される生涯学習講座受講者数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症拡大により、生涯学習講座が縮小されたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 市民ニーズに合った講座を継続して実施する。	

まちづくり指標	倉敷市役所でのインターンシップ受入人数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 職員採用PR活動など強化して実施しており、市の仕事に興味のある学生が増加していることなどが考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 継続して職員採用PR活動に取り組むとともに、受入部署を拡大するなど、受入人数の増加につなげる。	

まちづくり指標	市民1人当たりの市立図書館の貸出数	
算出方法	図書の年間貸出点数 ÷ 市の人口 ※図書(視聴覚・雑誌を含む)の年間貸出点数(団体を含む)とは、中央・水島・児島・玉島・船穂・真備の図書館、移動図書館、公民館図書室、ライフパーク倉敷図書室の総貸出点数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響。	
(II) 今後の取組方針	(II) 社会情勢や市民ニーズを把握し、SDGs等時代に合った図書を継続して購入する。	

### 市民の重要度・満足度

領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	41.61	46.46

重要度に見合った満足度が得られている領域(b)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 <グラフの見方>

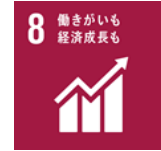
		重要度 (高)			
満足度 (低)	a	b	(a+)	(b+)	(c+)
	(a-)	(b-)	(c-)		
		重要度 (低)		満足度 (高)	

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
生涯学習推進事業	(Ⅰ) 市民へ学習機会を提供するとともに、市政に関する啓発を図る。 (Ⅱ) 市の行政活動を分かりやすく伝えるため、市職員が地域に出向く出前講座を実施し、延べ635講座を開講、33,134人が参加した。また、市職員を対象に生涯学習研修会を2月に実施した。 (Ⅲ) 講座の新規・見直しを検討しながら、継続して実施する。	612
いきいきパスポート事業	(Ⅰ) 市内在住の小中学生へ、子どもの体験活動の場と機会を提供する。 (Ⅱ) いきいきパスポートの提示で、市内社会教育施設28か所で、土・日・祝日・振替休日及び7～8月平日の入館料が免除になるようにした。また、スタンプラリーを実施し、利用拡大を図った。倉敷市在住の小中学生9,334人が利用した。 (Ⅲ) 市内在住の小中学生へ、子どもの体験活動の場と機会を提供するため、継続して実施する。	679
高梁川流域連盟事業	(Ⅰ) 圏域に暮らす人々の連帯意識を育み、圏域全体の文化生活向上を図る。 (Ⅱ) 主催事業として、6つの事業(音楽会、フォトコンテスト等)を実施した。また、広報啓発事業として、高梁川流域連盟ホームページでの情報発信及び流域市町での巡回展示・PR展示を実施した。 (Ⅲ) 流域市町と協議しながら、継続して実施する。	3,867
生涯学習活動推進事業	(Ⅰ) 公民館や市民学習センターで講座を開催する。 (Ⅱ) 市民学習センター及び公民館にて849講座を開講、13,134人が受講した。市民学習センターは、くらしき市民講座の充実を図り、公民館は地域の学習ニーズに対応したものや地域課題解決へのきっかけとなるような学習機会を提供した。 (Ⅲ) 市民学習センターは、くらしき市民講座の充実を図り、公民館は地域の学習ニーズに対応したものや地域課題に関連した学習機会の提供に努める。	254,906
★ 天文王国おかやま事業	(Ⅰ) 天文王国おかやま事業に参加し、高梁川流域関連施設の利用促進を図る。 (Ⅱ) 「天文王国おかやま」の認知度やイメージ向上を図り、アフターコロナの誘客につなげるため、ニュース配信サービスの活用、フェイスブック等SNSの管理・運用、天文情報誌・WEB情報紙等への掲載等によるPR事業に注力した。 (Ⅲ) 「天文王国おかやま」のキャッチフレーズとともに、岡山県の星空の魅力を県内外に広くPRしながら継続して実施する。	200
★ 高梁川流域学び直し支援事業	(Ⅰ) 学び直しにより、社会参画をめざす若者を支援する。 (Ⅱ) くらしきシティプラザ西ビル5階に開設した「まなびばippo」で実施。カウンセリングに延べ104人、学習支援に延べ1,670人、居場所に延べ913人の利用があった。 (Ⅲ) 受託団体と協議しながら、継続して実施する。	8,849
科学センター運営事業	(Ⅰ) 科学に対する夢や憧れを育み、広く一般に科学知識の普及・啓発を図る。 (Ⅱ) プラネタリウムに47,127人、科学展示室に66,599人、各種講座等に10,066人、合計で123,792人の入館者数であった。 (Ⅲ) 青少年を中心に広く一般に対しても科学知識の普及・啓発を図りながら、継続して実施する。	88,146
生涯学習環境整備事業	(Ⅰ) 快適で安全な生涯学習の場を提供する。 (Ⅱ) 多津美公民館および倉敷南公民館の低圧化。ライフパーク倉敷、倉敷西、西阿知、本荘公民館等の事務室のLED化。ライフパーク倉敷下水接続。 (Ⅲ) 計画や点検に基づいて、長寿命化や複合化を実施する。	21,468
ネットワーク・システム整備事業	(Ⅰ) ネットワークやシステムの安定稼働及びセキュリティの確保を図る。 (Ⅱ) 各システムや基幹サーバ、ネットワーク機器やLAN環境が安定して運用できるよう、保守管理について業務委託を行った。 (Ⅲ) 各種ネットワークシステム及びICT機器について、安定した運用ができるよう、継続して実施する。	192,492
★ 高梁川流域大学連携推進事業	(Ⅰ) 大学等と連携して、地域の活性化や生涯学習の推進を図る。 (Ⅱ) 29講座を開催し、延べ650人の参加があった。また、COC事業の継承事業として学生主導型の講座を実施した。 (Ⅲ) 各大学の特色と専門性を生かし、高梁川流域連携中枢都市圏事業の一つとして実施する。	4,497

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 高梁川流域自然史博物館展示事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域での自然に関する教養を高める。 (Ⅱ) 企画展「倉敷動物妖怪展」及び「倉敷にクジラがやってきた！」を開催した。観察会「高梁川流域自然たんけん」を高梁市(参加者32人)及び総社市(43人)と連携して開催した。 (Ⅲ) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	8,001
子ども読書活動推進事業	(Ⅰ) 子ども達が読書に親しむ機会の充実を図る。 (Ⅱ) ボランティアと協働して二人の絵本作家の講演会を開催し、114人の参加があった。こども読書通帳は、令和4年度約1,350部配布している。また、読み聞かせボランティア養成のための講座を4回実施し、21人が参加した。 (Ⅲ) 各課と協力しながら、継続して実施する。	22
図書館図書購入事業	(Ⅰ) 適切な図書の整備により、市民の多角的な学習への支援や課題解決を図る。 (Ⅱ) 収集基本方針に基づき、図書館全体で一般書29,963冊、児童書12,065冊を購入した。特に子育て支援資料を全館で385冊、ビジネス支援資料を中央、水島、児島、玉島図書館で1182冊購入し、充実に努めた。 (Ⅲ) 全図書館で、社会情勢や市民ニーズを把握し、SDGs等時代に合った図書を継続して購入する。	85,121
★ 高梁川流域図書館相互利用推進事業	(Ⅰ) 図書館の利便性向上及び圏域内の文化発展に資する。 (Ⅱ) 令和4年度の本市図書館の利用実績は、本市以外からの利用者延べ2,990人、貸出冊数延べ10,805冊であった。圏域全体では、当該市(町)外からの利用者延べ23,392人、貸出冊数延べ109,856冊となっている。 (Ⅲ) 圏域全体の利用は定着しており、継続して実施する。	721
★ 高梁川流域パスポート事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域在住の小学生へ、市町を越えた体験・交流の機会を提供する。 (Ⅱ) 流域パスポートに高梁川流域圏内社会教育施設66か所を掲載。利用拡大のため、スタンプラリーを実施し、7市3町在住の小学生3,542人が利用した。 (Ⅲ) 小学生に高梁川流域圏域の魅力を発信し、市町の交流を促進するため、継続して実施する。	898

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業＜紡＞

### めざすまちの姿

2-1 生活の中に個性的で魅力的な文化芸術が息づいている

### 市の施策

文化芸術活動を振興する

### 基本方針

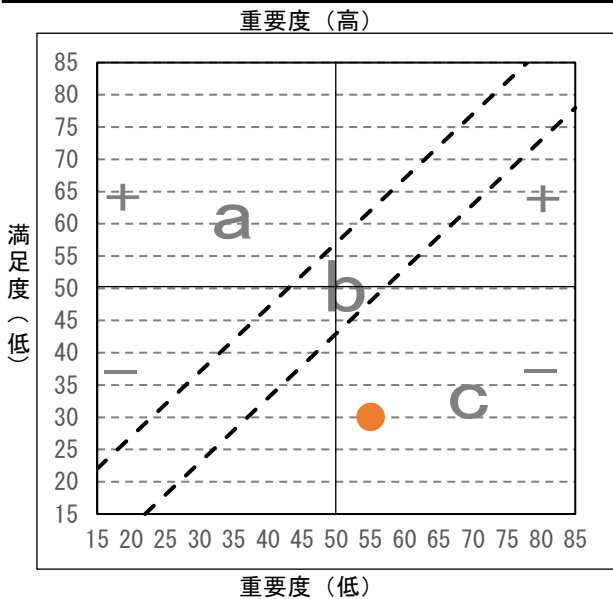
- ★ 各世代の関心やニーズを踏まえ、子どもから高齢者まで多くの市民に、様々なジャンルの優れた文化芸術に親しむ機会を提供することに努めます。
- ★ 市民が身近に文化活動に参加・発表することのできる環境づくりを進めるとともに、文化芸術団体の活動や団体相互間の交流を促進し、文化が育まれる環境づくりを進めます。
- ★ 個々の特性を踏まえて文化施設のあり方を検討するとともに、施設機能・設備の充実により、利用しやすい施設としての運営に努めます。
- ★ 文化芸術に関する情報を収集し、多様な広報媒体による、多言語化も含めたタイムリーで、わかりやすい積極的な情報発信に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	生活の中で文化的活動（鑑賞と実践のどちらでも可）を行っている人の割合																			
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「生活の中で文化的活動（鑑賞と実践のどちらでも可）を行っていますか」という設問に対して、『よく行っている』『ときどき行っている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>生活の中で文化的活動を行っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>30.5</td><td>30.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>30.5</td><td>26.4</td></tr> <tr><td>R4</td><td>30.5</td><td>26.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>40</td><td>40</td></tr> <tr><td>R12</td><td>50</td><td>50</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	30.5	30.5	R3	30.5	26.4	R4	30.5	26.7	R7	40	40	R12	50	50
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	30.5		30.5																	
R3	30.5	26.4																		
R4	30.5	26.7																		
R7	40	40																		
R12	50	50																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C	コロナ影響大																		
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症拡大のため、文化的活動が制限されていたことによると考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) ウイズコロナを意識し、感染症対策を行いながら、文化活動を促す事業の継続・拡大を行う。																			

まちづくり指標	文化施設の利用者数																			
算出方法	倉敷市民会館、芸文館、児島文化センター、玉島文化センター、マービーふれあいセンターの利用者総数																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>文化施設の利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (人)</th> <th>実績値 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>450,793</td><td>450,793</td></tr> <tr><td>R3</td><td>450,793</td><td>215,818</td></tr> <tr><td>R4</td><td>450,793</td><td>389,073</td></tr> <tr><td>R7</td><td>645,000</td><td>645,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>690,000</td><td>690,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (人)	実績値 (人)	R1	450,793	450,793	R3	450,793	215,818	R4	450,793	389,073	R7	645,000	645,000	R12	690,000	690,000
年度	目標値 (人)		実績値 (人)																	
R1	450,793		450,793																	
R3	450,793	215,818																		
R4	450,793	389,073																		
R7	645,000	645,000																		
R12	690,000	690,000																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C	コロナ影響大																		
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症拡大のため、文化的活動が制限されていたことによると考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) ウイズコロナを意識し、感染症対策を行いながら、事業の継続・拡大を進めていく。																			

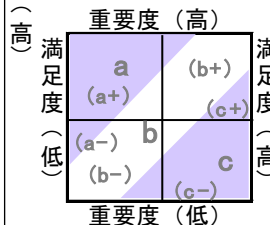
**市民の重要度・満足度**



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	30.02	55.05

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 < グラフの見方 >



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

**施策を推進する主な事業の評価**

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
★ 展覧会事業	(I) 市民に様々なジャンルの優れた美術作品を鑑賞する機会を提供する。 (II) 鉄製恐竜骨格などを展示した「恐竜美術展」や個性的な女性像を描いた2人の作家による「東郷青児・斎藤真一—それぞれの女性像」展など4回の特別展と「池田遙邨名作展」など5回のコレクション展を開催した。(総観覧者数44,816人) (III) より多くの市民に鑑賞していただけるよう企画内容を検討し、広報に力を入れ、継続して実施する。	12,909
★ 文化活動支援事業	(I) 市民の文化活動を支援する。 (II) 新型コロナウイルス感染症の影響で、倉敷市文化連盟主催行事は12事業のうち3事業が中止、学区文化祭は23学区の実施で3,141人の参加にとどまったが、市民の文化活動を支援した。 (III) 各支援のあり方等について検討を行いながら、継続して実施する。	19,487
★ 美術館教育普及事業	(I) 講演会や作品制作などの講座を実施し、市民に学習の機会を提供する。 (II) 初心者対象の講座を中心に実技講座を7講座実施したほか、展覧会関連事業としてワークショップやギャラリートークを開催した。参加総数7,458人 (III) 美術館の建物や収蔵品に関する講演会や身近な素材でのワークショップなど、市民が気軽に参加できる内容を企画し、継続して実施する。	3,151
★ 文化施設管理運営事業	(I) 利用しやすい文化施設運営を行う。 (II) 文化施設(倉敷市民会館、芸文館、玉島文化センター、文化交流会館、大山名人記念館等)の指定管理者制度の継続による利用しやすい施設運営を行った。 (III) 引き続き、各文化施設を維持し、より利用しやすい環境を整備する。	373,599
★ (公財) 倉敷市文化振興財団運営事業	(I) 市民文化を振興するとともに、くらしき文化を全国に発信する。 (II) 各種事業について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらもすべて実施することができ、文化の振興に寄与した。 (III) 引き続き、各種事業を通じて、倉敷文化を全国に発信する。	271,428
★ 美術館広報活動事業	(I) 美術館の展覧会や収蔵作品について広く情報提供する。 (II) 展覧会や講演会などの情報を掲載した催しもの案内を月1回作成・配布するほか、ホームページで情報提供した。また、Instagramに展覧会出品作品の作品解説を掲載して収蔵品に関する情報提供に努めた。 (III) ホームページでの収蔵品解説の充実や、SNSを活用して迅速で広範囲な情報発信を行うなど、継続して実施する。	299
倉敷市文化章表彰事業	(I) 文化の向上発展に功績があった者に対し、その功績を称え、表彰する。 (II) 文化の向上発展に関して功績があった者(1人)に対し、文化章を贈呈した。 (III) 継続して実施する。	717



事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
美術作品収集活動事業	(I) 郷土作家等の作品を収集し、市民の文化的財産を次世代に継承する。 (II) 郷土ゆかりの日本画家・池田遙邨や美術家・高橋秀ら13作家による日本画、版画、陶芸など様々なジャンルの作品27件（寄贈17件、管理替10件）を収集した。 (III) 郷土ゆかりの作家の作品や関連資料の調査・研究を進めて貴重な美術品の保存に努めるとともに、体系的なコレクションの形成を目指して継続して実施。	298
倉敷っ子美術展事業	(I) 次代を担う子どもたちの造形活動を推進し、創造力と情操を養う。 (II) 市内の小中学生が制作した絵画や工作、共同制作を展示する第37回倉敷っ子美術展（令和5年2月3日～2月19日）を開催した。（出品点数9,460点、観覧者数13,303人） (III) より多くの保護者や一般市民に鑑賞してもらえるよう広報に力を入れ、継続して実施する。	613

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業〈紡〉

### めざすまちの姿

2-2 世代を超えて受け継がれてきた歴史文化や伝統が大切に継承され、輝いている

### 市の施策

歴史文化や伝統の保存・継承と活用を図る

### 基本方針

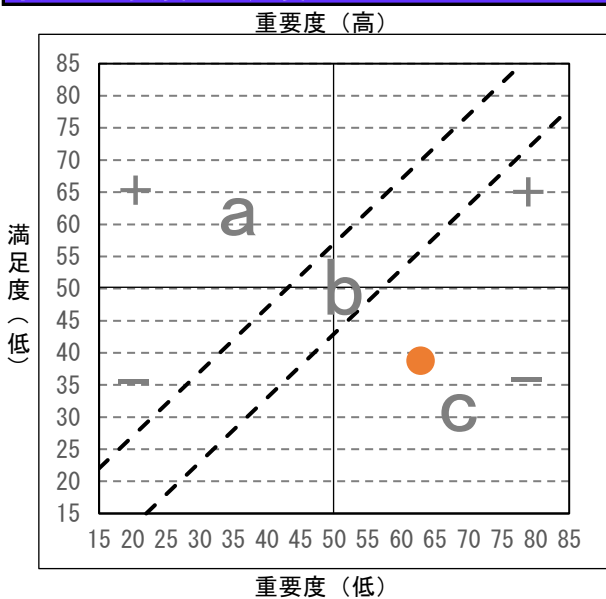
- ★ 地域の歴史的魅力や特色、後世に語り継がれる文化や伝統、そして本市の日本遺産を広く発信するとともに、その活用による地域活性化を図ります。
- ★ 郷土の偉人の研究・顕彰、地域に根ざした文化活動を支援するとともに、その担い手の育成につなげるため、啓発活動や、子どもたちをはじめとして市民が文化財に関わる機会の提供により、地域への愛着と誇りを醸成します。
- ★ 地域の協力のもと、地域に埋もれている文化財の調査を進め、先人達が残した貴重な文化財を後世に引き継ぎます。
- ★ 文化財に関する資料、公文書や古文書などの歴史資料や情報を、市民がより利用しやすくなるよう収集・公開に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	後世に伝えたい歴史文化や伝統が継承されていると思っている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「後世に伝えたいと思う歴史文化や伝統が継承されていると思いますか」という設問に対して、『継承されていると思う』『いくらか継承されていると思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 文化財の適切な保存や環境の維持管理、職員の講師派遣などを実施し、市民意識の向上に一定の効果が見られた。 (II) 貴重な文化財の保存修理、環境整備や保護思想の普及に努め、文化財の保存と活用及び継承に取り組む。	

まちづくり指標	子どもと一緒に地域の伝統行事に参加したことがある人の割合	
算出方法	就学前児童をもつ保護者、小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「子どもと一緒に地域の伝統行事に参加したことがありますか」という設問に対して『ある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ禍により、地域における活動が制限されたことが要因と考えられる (II) 新型コロナウイルス感染症などの社会状況を踏まえつつ、地域の子育て支援施設等の活動において、伝統行事に触れ合う機会の充実に努める。	

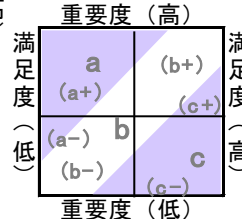
**市民の重要度・満足度**



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	38.76	62.88

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 < グラフの見方 >  
重要度 (高)



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

**施策を推進する主な事業の評価**

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
★ 日本遺産推進事業	(I) 本市が認定された日本遺産を活かした地域の魅力向上と活性化を図る。 (II) 本市日本遺産の魅力発信を目的として、Instagram投稿キャンペーン、リレーシンポジウム開催、日本遺産カルタ・こども名人戦、市職員向けのPRポロシャツ販売、綿花で彩るしめ飾りワークショップなど多岐に渡るプロモーション活動を実施した。 (III) 本市が持つ日本遺産の魅力を発信するため、今後も様々なプロモーションを継続的に実施する。	4,887
★ 郷土文化人顕彰事業	(I) 郷土文化人の顕彰活動を支援する。 (II) 薄田泣菫顕彰会と協働して、泣菫忌茶会、薄田泣菫詩朗読会を開催した。薄田泣菫生家(入館者数2,058人)、大野昭和齋記念資料館(同22人)、横溝正史疎開宅(同4,726人)の管理運営を行った。 (III) 継続して実施する。	6,328
★ 埋蔵文化財教育普及事業	(I) 埋蔵文化財を通して地域の歴史を知り、愛着と誇りを醸成する。 (II) 埋蔵文化財や歴史に関する講座の開催、インターンシップ受入れ、講師派遣など延べ26回実施し、合計910人の参加があった。講座等を含め、埋蔵文化財センターの総利用者数は6,036人。 (III) 事業の企画を工夫しながら継続して実施する。	301
★ 文化財保護事業	(I) 文化財や史跡の保存、活用を図り、後世に継承する。 (II) 文化財や史跡の環境整備を行い、適切な保存及び、利用しやすい環境が維持できた。文化財保護審議会・伝統的建造物群等保存審議会を開催し、文化財の保護に努めた。各種講座等に講師として職員を派遣した。 (III) 継続して実施する。	11,083
国指定重要文化財 井上家住宅保存修理事業	(I) 国指定重要文化財である井上家住宅の保存・活用を図る。 (II) 文化庁とも協議しながら、主屋・三階蔵の復原工事や内部仕上げ(土間叩き、台所竈、建具、畳ほか)、排水路整備を行い、工事が完了した。(令和5年3月19日(日)に一般公開) (III) 令和4年度で終了。	4,604
★ 指定文化財保存事業	(I) 指定文化財の適切な保存活用を図り、後世に継承する。 (II) 指定文化財の環境整備及び調査や修理を行い、適切な保存及び、利用しやすい環境が維持できた。 (III) 継続して実施する。	5,146
★ 埋蔵文化財保護・調査事業	(I) 埋蔵文化財を適切に保護し後世に継承する。 (II) 埋蔵文化財包蔵地内での開発行為の内容に応じて、確認調査を6件、立会調査を32件実施した。内出1号墳(真備町下二万)、西元浜貝塚(玉島黒崎)の確認調査と南山北古墳群の測量調査を実施した。 (III) 法定業務として遺漏なく実施する。	8,220

事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 歴史資料調査研究整備経費	(I) 歴史資料として重要な公文書等の保存と利用を適切に実施する。 所蔵資料に関する来室者、主催講座への参加者、講師派遣などで1,988人の (II) 利用があった。『倉敷の歴史』販売・寄贈冊数は778冊であった。Webサイトアクセス件数は55,401件であった。 (III) より一層市民が利用できる体制となるよう継続して実施する。	9,775
歴史民俗資料館管理運営事業	(I) 歴史民俗資料を広く一般に公開し、文化財に親しむ機会を提供する。 歴史民俗資料館（倉敷・福田）において、収集した郷土の歴史民俗資料を (II) 保存・展示した。施設の管理運営については指定管理者制度により行っている。 (III) 継続して実施する。	2,803

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業＜紡＞

### めざすまちの姿

2-3 生活の中で、日常的かつ気軽にスポーツに親しむことができる

### 市の施策

スポーツ活動を推進する

### 基本方針

- ★ 市民のだれもが、体力や年齢などに応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現をめざします。
  - ・ アスリートの発掘や育成、強化を継続的に行うことにより、本市の競技水準の向上を図ります。
- ★ スポーツを通じて、人と人、地域と地域の交流を促進し、活力ある絆の強い地域社会の実現と地域経済の活性化につなげます。
- ★ 施設の長寿命化などにより、だれもが身近に、気軽に、そして安全にスポーツに親しむことができる環境整備を図ります。

### 数値目標

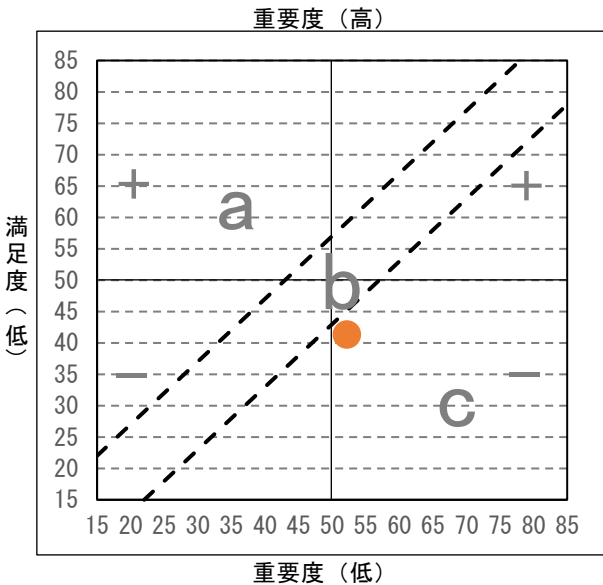
まちづくり指標	週1回以上スポーツをしている成人の割合																			
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「週1回以上スポーツをしていますか」という設問に対して、『している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100 ※ウオーキングや体操など、健康・体力づくりのための運動を含む																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>週1回以上スポーツをしている成人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>42.9</td><td>42.9</td></tr> <tr><td>R3</td><td>42.9</td><td>44.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td>42.9</td><td>41.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>42.9</td><td>50</td></tr> <tr><td>R12</td><td>55</td><td>50</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	42.9	42.9	R3	42.9	44.3	R4	42.9	41.7	R7	42.9	50	R12	55	50
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	42.9		42.9																	
R3	42.9	44.3																		
R4	42.9	41.7																		
R7	42.9	50																		
R12	55	50																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) コロナ禍の外出制限等により、運動の必要性を感じてスポーツを実施していた層が再び実施しなくなったと考える。																			
(II) 今後の取組方針	(II) スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。																			

まちづくり指標	国民体育大会に出場する選手数																			
算出方法	市で集計（年終了時）																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>国民体育大会に出場する選手数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (人)</th> <th>実績値 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>196</td><td>196</td></tr> <tr><td>R3</td><td>196</td><td>21</td></tr> <tr><td>R4</td><td>196</td><td>205</td></tr> <tr><td>R7</td><td>196</td><td>200</td></tr> <tr><td>R12</td><td>220</td><td>200</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (人)	実績値 (人)	R1	196	196	R3	196	21	R4	196	205	R7	196	200	R12	220	200
年度	目標値 (人)		実績値 (人)																	
R1	196		196																	
R3	196	21																		
R4	196	205																		
R7	196	200																		
R12	220	200																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) スポーツ振興協会と連携し、ジュニアアスリートの育成や強化に繋がる取り組みの推進を図ったため。																			
(II) 今後の取組方針	(II) スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。																			

まちづくり指標	倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の閲覧数																			
算出方法	市で集計（年度終了時）																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の閲覧数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (件)</th> <th>実績値 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>438,581</td><td>438,581</td></tr> <tr><td>R3</td><td>438,581</td><td>332,318</td></tr> <tr><td>R4</td><td>438,581</td><td>572,534</td></tr> <tr><td>R7</td><td>438,581</td><td>700,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>1,000,000</td><td>700,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (件)	実績値 (件)	R1	438,581	438,581	R3	438,581	332,318	R4	438,581	572,534	R7	438,581	700,000	R12	1,000,000	700,000
年度	目標値 (件)		実績値 (件)																	
R1	438,581		438,581																	
R3	438,581	332,318																		
R4	438,581	572,534																		
R7	438,581	700,000																		
R12	1,000,000	700,000																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) サイトの更新頻度を上げるとともに、SNSでサイトの存在周知を強化したためだと考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。																			



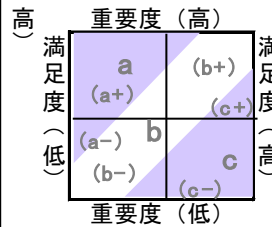
市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	41.31	52.24

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 < グラフの見方 >



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 倉敷市民スポーツフェスティバル実施事業	(I) スポーツに興味をもつ機会を提供し、市民のスポーツ活動を推進する。 (II) 市民参加型イベントやラグビー教室、一般参加型競技会等を開催し、延べ14,529人が参加した。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	11,274
★ 高梁川流域健康スポーツ推進事業	(I) スポーツ活動への取り組みを推進し、圏域内のスポーツ実施率の向上を図る。 (II) 倉敷市、高梁市、里庄町で開催した講演会には延べ78人が、川崎医療福祉大学で開催した大学講座には延べ86人が参加した。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	1,630
スポーツ選手強化事業	(I) 将来、活躍が見込まれるジュニアアスリートの競技力の向上を支援する。 (II) 倉敷市スポーツ振興協会専門部による、「ジュニアスポーツ強化事業」に補助金を交付し、ジュニア選手の競技力向上を図った。 (III) ジュニア選手の競技力向上に資するため、継続して実施する。	4,917
スポーツ医・科学支援事業	(I) 医・科学的な支援により、ジュニアアスリートの競技力向上を図る。 (II) 令和4年度倉敷市ジュニア強化選手として延べ85人を認定し、スポーツ医・科学の見地から、コンディショニングや栄養、心理面の支援を行った。 (III) ジュニア選手の競技力向上に資するため、継続して実施する。	1,305
★ 瀬戸内倉敷ソーデーマーチ実施事業	(I) 自然に親しみながら、体力や健康づくり、心と心のふれあいを図る。 (II) 参加人数に定員を設け、長距離コースを中止するなど、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開催し、2日間で延べ5,167人が参加した。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	3,179
★ 倉敷国際トライアスロン大会実施事業	(I) 大会を通じて、本市を全国に発信するとともに、地域の活性化を図る。 (II) 令和4年9月11日に実施予定であった大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	2,131
★ スポーツ情報発信事業	(I) 本市のスポーツ情報を一元化し広く発信することでスポーツ振興を図る。 (II) 誰もが容易にスポーツライフに役立つ情報を取得できるよう、時代のニーズに合った仕様に改善するとともに、WEBサイトの存在を周知できるよう、SNSでの発信を積極的に行い、閲覧数が前年度より約18%増加した。 (III) 今後も閲覧数の増加に努め、本市のスポーツ情報の発信を継続して実施する。	406
★ 運動公園利活用推進事業	(I) 市民ニーズに沿った、機能的で利用しやすい施設づくりを計画的に推進する。 (II) 水島緑地福田公園サッカー・ラグビー場(人工芝)の整備が完了し、令和4年2月から供用開始した。また、天然芝グラウンドであるサッカー兼ラグビー場の防球ネットを整備した。 (III) 倉敷市運動公園利活用基本構想に基づき、継続して実施する。	715,966
(仮称) 水島緑地福田公園屋内プール整備事業	(I) 市民に安心・安全で快適なスポーツ環境を提供する。 (II) 水島緑地福田公園に新たな屋内プールを整備するため、基本計画及び基本設計を実施した。 (III) 令和5年度は実施設計を継続して実施する。	0

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業<紡>

### めざすまちの姿

2-4 心に充足感やゆとりをもち、家庭と仕事の調和がとれている

### 市の施策

家庭や仕事と生活の調和がとれるよう支援する

### 基本方針

- ★女性をはじめとした多様な人材が、自分の意志で生き方を選択し社会のあらゆる分野に参画し活躍していくために、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現した社会をめざします。
- ★働く人と企業の双方に理解を深めるための情報発信や啓発を推進するとともに、児童・生徒に対して働き方についての意識醸成を図る教育を行い、仕事と生活の調和を考慮した働き方改革への理解を深めます。
- ★就労時間や就労場所に柔軟に対応できる労働環境、多様な就労形態を選択できる環境の整備を促進します。
- ★ハラスメントや障がいのある人、性的少数者、外国人に対する不当な差別の防止など、働く場での人権問題に対して一層の啓発を図るとともに、積極的に改善に取り組む企業を支援します。

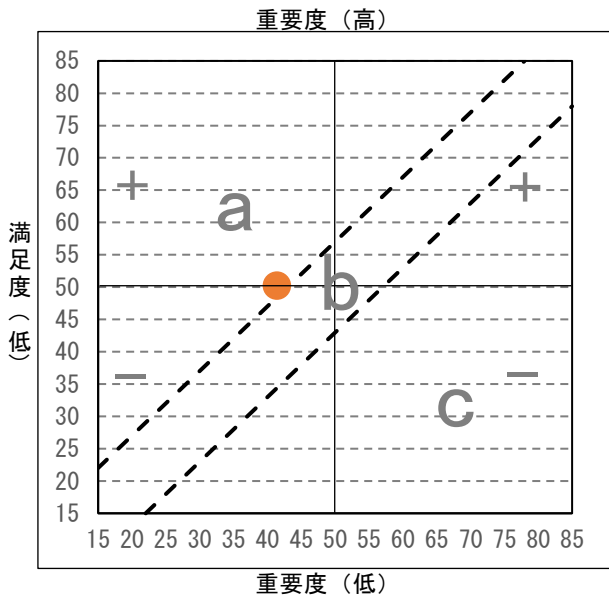
### 数値目標

まちづくり指標	自分や家庭の事情に合った働き方ができていると思っている人の割合																			
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、仕事をしている人で、「自分や家庭の事情に合った働き方ができていますか」という設問に対して、『できている』『どちらかというどできている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち仕事をしている人の総数×100																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>82</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>R3</td><td>82</td><td>75.2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>82</td><td>71.1</td></tr> <tr><td>R7</td><td>82</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>85</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	82	73.2	R3	82	75.2	R4	82	71.1	R7	82	-	R12	85	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	82		73.2																	
R3	82	75.2																		
R4	82	71.1																		
R7	82	-																		
R12	85	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ後を見据え、社会活動が再開されていく中、テレワークの縮小や業務量増大が影響したと考えられる。 (II) 高梁川流域女性活躍推進事業を通じ、各人の事情に応じて多様な働き方を選択できる環境整備等の普及促進を図る。																			

まちづくり指標	余暇時間を有意義に過ごすことができていると思っている人の割合																			
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「余暇時間を有意義に過ごすことができますか」という設問に対して、『できている』『どちらかというどできている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>65</td><td>60.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>65</td><td>55.9</td></tr> <tr><td>R4</td><td>65</td><td>54.9</td></tr> <tr><td>R7</td><td>65</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>70</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	65	60.6	R3	65	55.9	R4	65	54.9	R7	65	-	R12	70	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	65		60.6																	
R3	65	55.9																		
R4	65	54.9																		
R7	65	-																		
R12	70	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 続くコロナ禍で労働環境の変化や収入減少の不安から余暇を楽しむ生活のゆとりが感じづらかったと考えられる。 (II) 休暇を活用してリフレッシュする環境を促進するため、有給休暇取得促進リーフレット等を使用し企業へ啓発する。																			

まちづくり指標	働いている職場が、子育てに対する理解があると思っている人の割合																			
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、仕事をしている人で、「あなたの職場は、子育てに対する理解があると思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというどそう思う』と回答した人の数／アンケート回答者のうち仕事をしている人の総数×100																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>70</td><td>66.1</td></tr> <tr><td>R3</td><td>70</td><td>69.1</td></tr> <tr><td>R4</td><td>70</td><td>71.1</td></tr> <tr><td>R7</td><td>70</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>75</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	70	66.1	R3	70	69.1	R4	70	71.1	R7	70	-	R12	75	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
R1	70		66.1																	
R3	70	69.1																		
R4	70	71.1																		
R7	70	-																		
R12	75	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 育休・時短等の制度整備や男性の育児参画気運醸成により職場全体で協力し合う体制推進へ繋がったと考えられる。 (II) 企業等に対し、多様な人材の活用・働き方を啓発・推進するため、「働き方改革セミナー」を継続実施する。																			

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	50.22	41.40

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
<グラフの見方>

		重要度 (高)		満足度 (高)	
満足度 (低)	a	(a+)	(b+)	(c+)	
	(a-)	b	(b-)	(c-)	
		重要度 (低)		満足度 (低)	

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 女性活躍推進事業	(I) 高梁川流域圏における女性の活躍を迅速かつ重点的に推進する。 (II) 新しいはたらきかたマルシェ：参加者871人、女性のための再就職応援サポートセミナー：参加者50人 (III) はたらきかた発見マルシェを見直して継続実施する。	5,101
★ 男女共同参画推進事業所認定事業	(I) 多様な働き方ができる環境整備を推進する。 (II) 令和4年度に6事業所を認定し、累計で42事業所を認定した。 (III) 継続して実施する。	50
★ キャリア教育推進事業	(I) 中学生に社会人としてのマナーやワークルール等を指導する。 (II) 倉敷市キャリア教育推進事業、基礎講座：参加校14校、生徒2,519人 (III) 継続して実施する。	248
★ 高梁川流域働き方改革啓発事業	(I) 流域内の企業や労働者に対して、働き方改革の内容を普及啓発する。 (II) 働き方改革セミナー参加企業：47社、参加者63人、働き方改革フェア：参加者807人 (III) 継続して実施する。	1,320
★ 人権に関する企業向け啓発活動事業	(I) 労働者が「安心して働き続けられる労働環境づくり」を促進する。 (II) 企業向け人権啓発講座（人権セミナー）：3回実施、参加企業延べ134社 (III) 継続して実施する。	1,498
★ 中小企業勤労者等福祉厚生事業	(I) 中小企業勤労者、事業主等の福利厚生の増進と充実に努める。 (II) 倉敷勤労者福祉サービスセンター：会員7,785人、企業987社 勤労者融資：貸付64件、貸付額58,680千円 (III) 継続して実施する。	260,799
勤労者福祉施設管理運営事業	(I) 勤労者の福祉、健康の増進を図る。 (II) 倉敷労働会館：利用者47,791人、水島勤労福祉センター：利用者23,369人、倉敷勤労者体育センター：利用者9,149人、修繕料：1,208千円 (III) 継続して実施する。	30,755

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業＜紡＞

### めざまちの姿

2-5 産業競争力が高く、多様な人材が働く機会に恵まれ、将来の暮らしに希望をもつことができている

### 市の施策

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて縮小した経済を早期に復興するため、産業競争力の強化と地場産業の振興、雇用の確保・充実を図る

### 基本方針

- ★ 国・県・民と連携して、水島コンビナートの重要な物流拠点であり、中四国を中心とした西日本の物流のハブとなる水島港の整備を促進し、競争力強化を図ります。
- ★ 水島コンビナートの高効率化、高付加価値化、脱炭素化を進めるとともに、企業の研究開発や新規事業創出に向けた取り組みなどを支援し、アジア有数の競争力をもつコンビナートとしての持続的発展をめざします。
- ★ 次世代産業技術を学ぶ人材が活躍できるよう、イノベーション分野を含めた、地域への経済波及効果の高い企業の誘致・育成に取り組み、持続的な産業力の強化を進めます。
- ★ 繊維などの地場産業や、伝統分野における技術を継承するため、地域資源の魅力発信を行うとともに商品開発や販路開拓を支援し、競争力を強化することで次世代の人材確保に努めます。
- ★ 市の経済と雇用の基盤を支える中小企業・小規模事業者の持続的発展に向けた経営体質の健全化、経営基盤の強化、競争力強化、事業承継などの取り組みを支援します。
- ★ 中小企業・小規模事業者について、危機発生時の事業継続の取り組みを支援します。
- ★ 労働力人口の減少が進むなか、就労意欲と能力をもつ人材の就労促進、潜在的労働力の確保を進め、雇用の確保・創出による労働力の安定を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	自分の仕事にやりがいを感じている人の割合																																								
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、仕事をしている人で、「自分の仕事にやりがいを感じていますか」という設問に対して、『感じている』『どちらかというと感じている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち仕事をしている人の総数×100																																								
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>-</td><td>69.3</td></tr> <tr><td>R2</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R3</td><td>-</td><td>65.9</td></tr> <tr><td>R4</td><td>-</td><td>65.2</td></tr> <tr><td>R5</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R6</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R7</td><td>75</td><td>-</td></tr> <tr><td>R8</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R9</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R10</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R11</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>80</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	-	69.3	R2	-	-	R3	-	65.9	R4	-	65.2	R5	-	-	R6	-	-	R7	75	-	R8	-	-	R9	-	-	R10	-	-	R11	-	-	R12	80	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																																						
R1	-		69.3																																						
R2	-	-																																							
R3	-	65.9																																							
R4	-	65.2																																							
R5	-	-																																							
R6	-	-																																							
R7	75	-																																							
R8	-	-																																							
R9	-	-																																							
R10	-	-																																							
R11	-	-																																							
R12	80	-																																							
目指す方向性	➡																																								
進捗状況	C																																								
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 続くコロナ禍の制限ある働き方で、労力に見合う成果や貢献度などを体感できる機会が減少したためと考えられる。																																								
(II) 今後の取組方針	(II) 企業等に対し、ワークエンゲージメントを高める働き方を推進するため、「働き方改革セミナー」を継続実施する。																																								

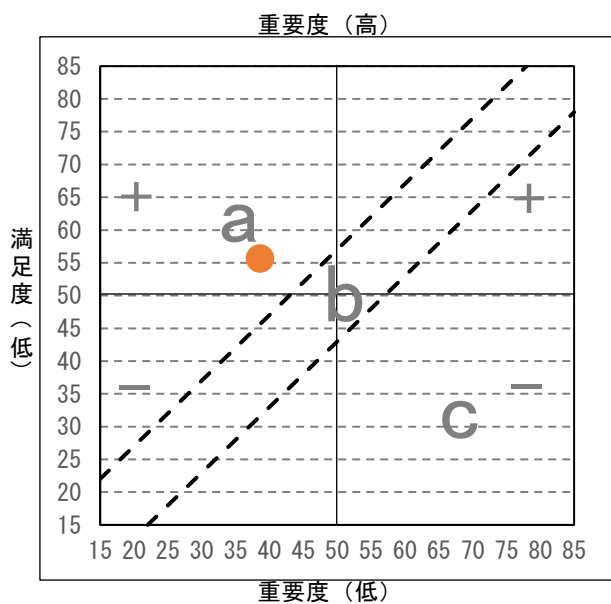
まちづくり指標	市内製造業粗付加価値額																																								
算出方法	経済構造実態調査※による（H30までは工業統計調査） ※経済センサス-活動調査の実施年は経済センサス-活動調査による																																								
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (億円)</th> <th>実績値 (億円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>-</td><td>6,420</td></tr> <tr><td>R1</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R2</td><td>-</td><td>5,597</td></tr> <tr><td>R3</td><td>-</td><td>7,055</td></tr> <tr><td>R4</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R5</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R6</td><td>6,495</td><td>-</td></tr> <tr><td>R7</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R8</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R9</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R10</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R11</td><td>7,171</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (億円)	実績値 (億円)	H30	-	6,420	R1	-	-	R2	-	5,597	R3	-	7,055	R4	-	-	R5	-	-	R6	6,495	-	R7	-	-	R8	-	-	R9	-	-	R10	-	-	R11	7,171	-
年度	目標値 (億円)		実績値 (億円)																																						
H30	-		6,420																																						
R1	-	-																																							
R2	-	5,597																																							
R3	-	7,055																																							
R4	-	-																																							
R5	-	-																																							
R6	6,495	-																																							
R7	-	-																																							
R8	-	-																																							
R9	-	-																																							
R10	-	-																																							
R11	7,171	-																																							
目指す方向性	➡																																								
進捗状況	A																																								
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 統計方法の変更によるところもあるが、コロナ後、徐々に経済活動が活発になったものと思われる。																																								
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き企業に対し、適切な支援等を行っていく。																																								



まちづくり指標	市内高等教育機関（大学・短期大学等）卒業生の市内就職率	
算出方法	市内高等教育機関（大学・短期大学等）の卒業生のうち市内就職者数／卒業生の数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルスの影響により、倉敷市へ愛着・定着に繋がる取り組みが開催できなかったためと考える。 (II) 市内10大学等と連携し、在校生の倉敷市への愛着・定着に繋がるよう努める。	

まちづくり指標	市内情報通信業売上	
算出方法	経済センサス-活動調査による	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が停滞したためと考えられる。 (II) 商工団体や金融機関等と連携し、事業者支援を行っていく。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	55.61	38.64

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)  
<グラフの見方>

		重要度 (高)			
満足度 (低)		a	(b+)	c	
		(a-)	b		
		重要度 (低)			

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域



施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 水島コンビナート・水島港競争力強化支援事業	(I) 水島コンビナートの競争力強化を図る。 (II) 県と連携した取り組みを進め、総合特区において、規制の特例措置等の提案のうち、平成30年度に新たに1項目、現在合計19項目で国との合意が図られるなど、一定の成果が挙げられた。 (III) 総合特区計画の次期認定を受け、継続して実施する。	85,111
★ 企業誘致推進事業	(I) 地域経済の活性化や雇用の維持・創出、税収の増加を図る。 (II) 企業立地促進奨励金3件、企業誘致促進奨励金1件、設備投資促進奨励金62件の助成を行った。 (III) 事業内容を見直ししながら、継続して実施する。	520,762
★ せんいのまち倉敷人材確保・育成事業	(I) 繊維産業の人材確保及び人材育成を目的とする。 (II) 繊維関連事業者と全国の1,155人の学生を繋ぐオープンファクトリー事業を実施した。また、繊維関連事業者312人を対象にした技能研修や繊維マイスターの認定19人を実施した。 (III) 事業内容の一部見直ししながら、継続して実施する。	17,701
★ 人「財」育成支援事業	(I) 専門人材の育成支援により、中小企業の競争力を図る。 (II) 専門人材育成のための研修受講費及び試験等の受験経費の一部を支援した。補助金上限10万円、補助率4/5、申請件数5件 (III) 専門人材の確保と競争力強化を目指す企業支援を目的に補助対象等を見直ししながら継続して実施する。	293
★ 繊維産業「産地連携」推進事業	(I) 繊維産地の人材確保や認知度向上を図り、繊維産業の活性化を推進する。 (II) 創業者向けジーンズ縫製実践講座14名、小学生対象のジーンズをテーマにした出前講座2,516名、繊維関連事業者の首都圏での大規模商談会への出展支援9社等を実施した。 (III) 高梁川流域圏域と備後圏域にまたがる「三備産地」の産地間連携を推進する事業を継続して実施する。	11,749
★ 暮らしき地域資源情報発信事業	(I) 市内5商工団体と連携し、地域資源を広く情報発信することを目的とする。 (II) 倉敷みらい公園で「～至極の逸品～暮らしきフェア」を開催し、市民をはじめ県内外の方々に、暮らしき地域資源の魅力を発信した。また、大正10年以前に創業した老舗企業7社に、市民ホールで感謝状プレートを贈呈した。 (III) 老舗、特産品などの地域資源の魅力を情報発信を継続して実施する。	8,167
★ 金融機関連携型中小企業支援事業	(I) 中小企業者の持続的な成長を促進する。 (II) 中小企業が金融機関と連携して行う持続的な成長への取り組みに係る経費の一部を支援した。補助金上限100万円、補助率2/3、採択件数10件 (III) 機運を醸成し中小企業の競争力を高めるため広報等工夫しながら継続して実施する。	7,477
★ 経営力向上セミナー開催事業	(I) 新たな経営手法等の普及啓発により、経営者の経営力向上を図る。 (II) 中小・小規模製造業のDX：受講者22名、会場倉敷、人的資本経営：受講者37名、会場玉島、デザイン経営：受講者25名、会場児島をテーマに計3回セミナーを実施した。 (III) 開催テーマ等を吟味した上で継続して実施する。	1,156
★ 新分野展開チャレンジ支援事業	(I) 事業環境の急速な変化に対応する、新分野への事業展開を支援する。 (II) 急速な環境変化への対応を目指す中小企業の新分野への事業展開に係る経費の一部を支援した。補助金上限200万円、補助率2/3、採択件数10件 (III) 広報等工夫しながら継続して実施する。	15,423
★ 高梁川流域経済成長戦略推進事業	(I) 産業支援人材の育成及び中小企業の脱炭素の取り組みを推進する。 (II) 産業支援人材育成産学官協働事業として「びっちゅう未来塾」を開校し、計9回開催した(塾生数18人)。また、「脱炭素社会に向けた経営支援セミナー」を開催し、225人が参加した。 (III) 事業内容を見直ししながら、継続して実施する。	2,637
★ 高梁川流域未来人材育成事業	(I) 産業人材の育成、確保のため、キャリア教育の推進を図る。 (II) 高梁川流域圏域の産業人材の育成、確保を目的に、高梁川流域圏の高校と商工団体、金融機関、農協等が連携して地域経済活動等にかかわるアクティブラーニングや教育に資する活動に補助金を交付した。(補助金交付実績：13校) (III) 事業内容を見直ししながら、継続して実施する。	3,829

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ キャリア教育指導者育成事業	(Ⅰ) キャリア教育に関わる人材を育成し、地域を担う産業人材の育成に繋げる。 (Ⅱ) キャリア教育に関わる人材の育成を図り地域を担う産業人材の育成に繋げることを目標に、全4回の指導者塾(高梁川流域未来キャリア教育セミナー)を開催し、延べ59人が参加した。 (Ⅲ) 事業を拡充し、継続して実施する。	699
★ ふるさと就職促進事業	(Ⅰ) 市内への就職希望者の就業促進及び雇用の確保を推進する。 (Ⅱ) 倉敷地域就職フェア：企業等36社、参加者51名 (Ⅲ) 継続して実施する。	594
★ 高梁川流域就職面接会等開催事業	(Ⅰ) 高梁川流域内での新卒者、UIJターン就職希望者の就職を促進する。 (Ⅱ) 合同企業説明会・就活セミナー：企業等延100社、参加者延161人。合同就職面接会：企業等56社、参加者100人。学校・企業就職情報交換会：企業等124社、学校39校 (Ⅲ) 継続して実施する。	8,000
★ ぐらしき地域資源販路開拓支援事業	(Ⅰ) 地場製品の販路開拓支援及び地域ブランド化を目的とする。 (Ⅱ) 海外販路開拓セミナー・ワークショップ年2回開催し約100人参加した。また、米国企業との商談会を実施し、4事業者20商品(越境ECサイト)との取引が成立した。 (Ⅲ) 地域内での販売促進強化のための特産品ノベルティの紹介サイトを構築する。	10,837
★ 高梁川流域アルチザン(職人)支援事業	(Ⅰ) 圏域全体の工芸・民芸・クラフト等のブランド力底上げを目的とする。 (Ⅱ) 高梁川流域のアルチザン(職人)が2者以上、連携・共同で自身の作品展示販売する際の経費の一部を支援した。補助金上限20万円、補助率2/3、申請件数5件 (Ⅲ) 圏域のアルチザンの活動を支援し、工芸・民芸等のブランド力の底上げを継続して実施する。	360
★ 高梁川流域クロッシング事業	(Ⅰ) 流域圏内企業の異業種間連携の取り組みを支援する。 (Ⅱ) 企業間連携やオープンイノベーションの好事例や支援策等の紹介する専用WEBの開設や、アイデアソン(全2回、のべ45名参加)、高梁川流域オープンイノベーションフォーラム(286名参加)を開催した。 (Ⅲ) ビジネスプランの実現を支援する補助金(上限100万円、補助率2/3)を実施し、流域内での新産業創出を図るため、継続して実施する。	5,687
★ 高梁川流域次世代経営者塾事業	(Ⅰ) 高梁川流域の次世代経営者の経営能力向上・資産価値増加を図る。 (Ⅱ) 高梁川流域圏内事業者の事業承継支援のため、意欲喚起策及び事業承継に関するセミナーを実施した。意欲喚起策：絶対に残したい!「あの味、あの技、あの店」募集・発信事業：応募633件、発信20事業者、セミナー開催4回 (Ⅲ) 令和4年度事業で応募のあった事業者について、事業承継意向の調査と、セミナー等による承継施策の情報提供を行う。	2,300
★ 高梁川流域地域資源活用推進事業	(Ⅰ) 圏域地域資源を活用し、経済の循環・活性化を図ることを目的とする。 (Ⅱ) 流域圏域の地域資源のプロモーション事業、個別相談会及びバイヤー等による商談会等を開催し、圏域地域資源の知名度を向上させるとともに、販路開拓・拡大等を支援した。また、流域圏域の事業者が共同で実施する展示会等に補助金を支給し、販路開拓・拡大等を支援した。 (Ⅲ) 圏域事業者の販路開拓・拡大を支援し、圏域地域資源の活用による経済の循環・活性化を継続して実施する。	21,774
★ 中小企業融資事業	(Ⅰ) 市内中小企業者の経営の安定と設備の近代化又は合理化を図る。 (Ⅱ) 中小企業者の経営の安定化を図るため、必要な資金の融資を行った。415件、1,485,325千円の融資利用があった。 (Ⅲ) 事業内容を見直しながら、継続して実施する。	41,494
★ 高梁川流域ふるさと協力隊推進事業	(Ⅰ) 地域おこし協力隊による圏域の地域資源活性化を推進する。 (Ⅱ) 地域おこし協力隊1名を委嘱し、玉島みなと朝市を活用し、流域内資源の販売などを行った。 (Ⅲ) 引き続き地域資源の発掘・活用を図る。	5,641
★ 商工業活性化推進事業	(Ⅰ) 市内商工業者の競争力強化と活性化を図る。 (Ⅱ) 商工団体の経営改善普及事業に対して支援を行うとともに、商工団体主催イベント4件について支援を行った。また、若手技能者の全国大会等の出場に対して奨励金を15件交付した。 (Ⅲ) 商工業の活性化を図る観点から継続して実施する。	40,879

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業＜紡＞

### めざすまちの姿

2-6 商業の活性化が地域に活力を生み、時代の流れに対応したビジネスの創出や起業が進んでいる

### 市の施策

商業振興による地域の活性化を図るとともに、新分野への進出・起業がしやすい環境を整える

### 基本方針

- ★ 市中心部において、JR倉敷駅を中心とした南北の回遊性向上による一体化を促進し、更なる賑わいと活力の創出を図ります。
- ★ 地域の消費や雇用を支えるとともに、まちの拠点や地域コミュニティ形成として重要な商店街の活性化を図ります。
- ★ 経済情勢や社会情勢を踏まえ、感染症などの新たな課題に対応し、事業者が自らの強みを生かしていく多種多様な取り組みを支援します。
- ★ 起業を地域経済の活性化にとって重要な経済活動と捉え、起業を志す人を継続して支援し、起業機運を醸成します。
- ★ 次代の先端技術や地域資源・特産品の活用、農工商連携の促進などにより、新商品・新技術の開発につなげ、新たなビジネスの創出を図ります。

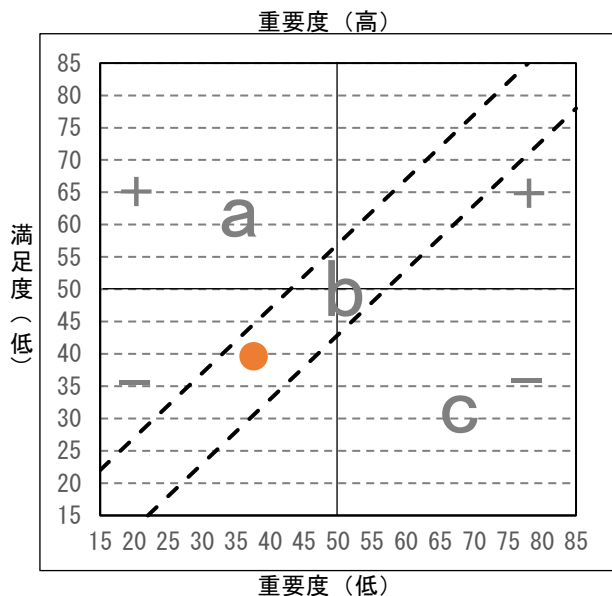
### 数値目標

まちづくり指標	商店街の休日1日当たりの歩行者・自転車通行量	
算出方法	倉敷市商店街等通行量調査（隔年実施）による ※倉敷（調査地点No14～No22）、児島（調査地点No1～No14）、玉島、水島各地区の合計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和5年12月に調査予定。	

まちづくり指標	創業サポートセンターを活用した創業件数	
算出方法	創業サポートセンター構成団体からの報告をもとに市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 従来起業に関心があった層がコロナ禍による生活の変化を受け活発に相談に来たと考えられる。 (II) センター構成団体と連携しながら、継続して実施していく。	

まちづくり指標	商業年間商品販売額	
算出方法	経済センサス活動調査による（卸売業及び小売業の合計）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業者が休業したためと考えられる。 (II) 商工団体や金融機関等と連携し、事業者支援を行っていく。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	39.63	37.59

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
<グラフの見方>

重要度 (高)		重要度 (低)	
満足度 (高) a (a+)	b (b+)	c (c+)	
(a-)	b (b-)	c (c-)	満足度 (高)
			満足度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
★ 高梁川流域「倉敷三斎市」	(I) 地域資源推進と駅南北の回遊性向上による中心市街地の活性化を目的とする。 (II) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した8月を除き、毎月第3日曜日に実施した。(のべ出店者443店、来場者48,000人) (III) 継続して実施する。	7,900
★ パワーアップ商業振興事業	(I) 商店街の活性化を図る。 (II) 商店街の空き店舗における新規出店や、商店街施設の改修などを対象に14件の補助を行った。 (III) 継続して実施する。	6,712
★ 事業継続相談・「新しい生活様式」普及啓発事業	(I) 市内事業者の感染症対策を支援する。 市内商工会議所・商工会と連携し、「新型コロナウイルス対策取組宣言」の認定業務(247件) コロナ禍における景況感調査(6回)、相談対応(9,890件)、ウィズコロナ・ポストコロナに向けた成長戦略事業(セミナー11回、交流会1回)を実施。 (II) 令和4年度で完了。	22,145
★ 立ち上がろう!「まち活」応援事業	(I) 地域経済の活性化を目的とする。 地域経済活性化を目的にイベントを開催する事業者グループや商工団体に補助金を交付。(事業者)補助率2/3、上限50万円、申請件数4件。(商工団体)補助率9/10、上限300万円、申請件数4件 (II) コロナ禍の外出自粛等事業背景にあった課題が収束し、事業目的を果たしたとして、令和4年度で完了。	4,781
★ 買って応援!「Made inくらしき」応援事業	(I) 製造・販売元が市内である商品の流通拡大を目的とする。 大規模小売店舗と連携し、メイドインくらしき応援キャンペーンを年2回開催。13事業者164店舗が参加し、延べ143事業者の商品を特設売場で販売した。展示商談会には市内48事業者が出展。 (II) 「メイドインくらしき応援キャンペーン」のみ継続して実施する。	62,276
★ 高梁川流域創業サポートセンター広域連携事業	(I) 高梁川流域圏域の創業者支援を行う。 創サポ窓口では延べ2,101件の創業相談を実施するとともに、「起業塾」を2期開催し、56人が受講した。くらしきベンチャーオフィスには、令和4年度末現在5人が入居している。 (II) 事業内容を見直しながら継続して実施する。	7,611
★ 創業者支援融資事業	(I) 市内新規創業者の自立企業としての成長と活発な事業活動を支援する。 低金利、保証料補給付き融資により、新規創業を支援する。令和4年度は創業サポート特別資金について30件、81,250千円、創業等支援資金について53件、182,200千円の融資利用があった。 (II) 事業内容を見直しながら継続して実施する。	6,152
★ 先端技術を活用した実証実験サポート事業	(I) 時代の流れに対応した新ビジネスの創出や起業を促進する。 (II) 県外から3件の実証実験(うち補助金申請1件)を誘致した。 (III) 地域課題、行政課題の解決につながるよう事業内容を見直し、継続して実施する。	278
★ データで紡ぐ高梁川流域連携事業	(I) データ活用を通じた地域課題の解決および経済活性化 (II) オープンデータの更新・追加及びビジュアルライズコンテンツの追加(データセット新規18件・更新186件、推奨データセット整備支援8件) (III) 防災オープンデータの整備・公開の支援やSDGsオープンデータの推進等、継続して取り組みを実施する。	10,458



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業<紡>

### めざすまちの姿

2-7 将来にわたり持続可能な魅力ある農業や漁業が営まれている

### 市の施策

活力ある農業や漁業を守り、豊かな資源を次世代に継承する

### 基本方針

- ★ 農業が魅力とやりがいのあるものとなるよう、生産基盤の拡充を図り、担い手の確保・育成に努めて、効率的かつ安定的な農業経営の育成を図ります。
- ★ 農地を維持しつつ地域農業の持続的発展を図るため、農地の集積・集約化を進めます。
- ★ 水田の効率的活用や高収益作物への転換を図るとともに、6次産業化への支援などにより、農業所得向上につなげます。
- ★ 農産物の供給力を強化するとともに品質を均等に高める取り組みを進め、市特産の農産物のブランド力の維持・強化を図ります。
- ★ 消費者が地元農林水産物を消費できる機会を増やし、地産地消に対する市民の理解を深めて、消費拡大を図ります。
- ★ つくり育てる漁業を推進し、水産資源の維持・増大に努めるとともに、新規就業者の確保と漁業施設の近代化を図り、漁獲物の商品価値向上と漁業経営の安定化をめざします。

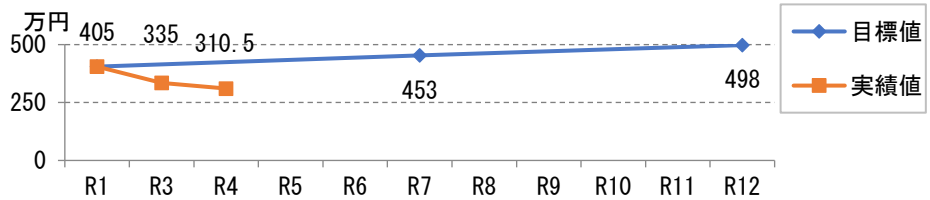
### 数値目標

まちづくり指標	新規就農者数																			
算出方法	毎年の新規就農者調べ（県依頼）による																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>新規就農者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>R3</td><td>18</td><td>18</td></tr> <tr><td>R4</td><td>33</td><td>33</td></tr> <tr><td>R7</td><td>60</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>120</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	15	15	R3	18	18	R4	33	33	R7	60	-	R12	120	-
年度	目標値		実績値																	
R1	15		15																	
R3	18	18																		
R4	33	33																		
R7	60	-																		
R12	120	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 県等の関係機関との連携により新規就農希望者向け支援を新規就農者に円滑に提供できたことが要因と考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 関係機関との連携により新規就農者向け支援に継続して取り組む。																			

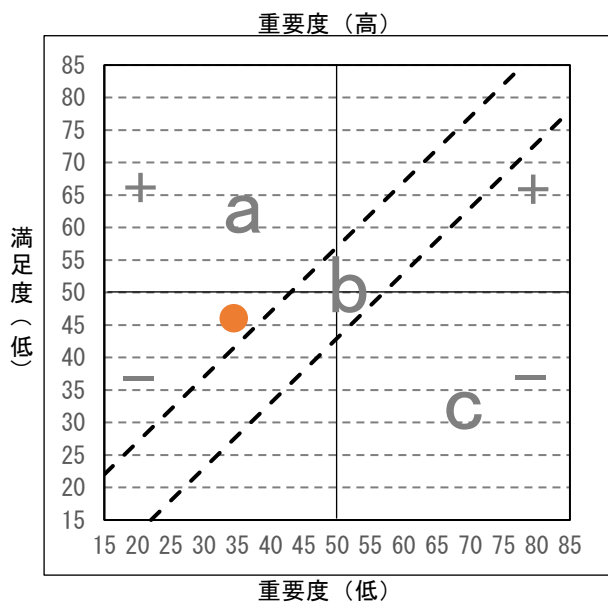
まちづくり指標	担い手の農地利用集積率																			
算出方法	担い手の農地利用集積状況調査（農林水産省）に基づく認定農業者等担い手への農地利用集積率																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>担い手の農地利用集積率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>21.3</td><td>21.3</td></tr> <tr><td>R3</td><td>24.3</td><td>24.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td>25.0</td><td>25.0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>32.1</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>43</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	21.3	21.3	R3	24.3	24.3	R4	25.0	25.0	R7	32.1	-	R12	43	-
年度	目標値		実績値																	
R1	21.3		21.3																	
R3	24.3	24.3																		
R4	25.0	25.0																		
R7	32.1	-																		
R12	43	-																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	B																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 人・農地プランの取り組みや農地利用最適化推進委員による最適化活動により、担い手への農地集積が進んだと考えられる。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き、認定農業者等担い手への農地の集積に取り組む。																			



まちづくり指標	漁業所得
算出方法	岡山県地域水産業再生委員会倉敷市地区部会が浜の活力再生プラン策定時に調査する漁業所得者の平均所得
みらい創生戦略	★
目指す方向性	➡
進捗状況	C
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、魚価が低迷していること及び漁獲量の減少に伴い収入が減少したことが要因として考えられる。</p> <p>(II) 引き続き、関係機関との連携により浜プランの推進に努め、漁業者の所得向上を目指す。</p>



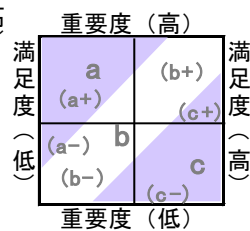
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a-	46.01	34.50

重要度に見合った満足度が得られていない領域 (a)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
水路新設改良事業	(Ⅰ) 倉敷市内の水路改良を行い、農業基盤整備を推進する。 (Ⅱ) 倉敷61号水路など53地区の水路整備等を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	656,595
★ ほ場整備事業	(Ⅰ) ほ場整備を行い、農業生産性の向上、担い手への農地利用集積を図る。 (Ⅱ) (玉島陶中地区) 区画整理工事0.7ha (Ⅲ) (玉島陶中地区) 令和4年度完了	26,009
★ 新規就農サポート事業	(Ⅰ) 意欲ある新規就農者の確保と育成 (Ⅱ) 経営開始した青年農業者に対し、国の給付金制度を活用して支援し、多くの中心的農業者の育成を図った。農業次世代人材投資資金事業29件、経営開始資金5件 (Ⅲ) 国や県の補助制度を活用し、継続して実施する。	46,046
★ 農地耕作条件改善事業	(Ⅰ) 耕作条件向上による担い手への農地集積・集約化の推進 (Ⅱ) 経営改善をめざす地域の担い手に、農地の畦畔除去による区画拡大(対象面積:137a)を委託実施した。 (Ⅲ) 国の制度を活用し、継続して実施する。	548
★ 地産地消推進事業	(Ⅰ) 地産地消の更なる推進と、地域農業の維持・拡大 (Ⅱ) 関係機関と連携し、イベントを通して市内農産物のPRを実施した。(スイートピーJR倉敷駅展示、いちご共進会など) (Ⅲ) 関係機関と連携し、継続して実施する。	179
★ 産地供給力・競争力強化支援事業	(Ⅰ) 産地の主体的な生産・供給体制の整備支援による供給力・競争力強化 (Ⅱ) 国の環境保全型農業や産地パワーアップ事業、県の園芸総合対策事業等を活用し、13件の補助金を交付し、産地振興を図った。 (Ⅲ) 国や県の補助制度を活用し、継続して実施する。	48,860
★ ぼっけーうめえ農林水産品事業	(Ⅰ) 地産地消の更なる推進と、地域農業の維持・拡大 (Ⅱ) 広く高梁川流域圏域の魅力を発信するため、産地PR動画の制作や公式インスタグラムの運営等を行った。漁業体験を実施し、域内の水産物の理解を深めるきっかけづくりを行った。 (Ⅲ) 関係市町・機関と連携し、継続して実施する。	4,900
多面的機能支払交付金事業	(Ⅰ) 自然環境の保全や農地・農業用施設等がもつ多面的な機能を維持する。 (Ⅱ) 19地区で790.5haの農地を対象に、法面の草刈りや水路清掃、植栽や外来種駆除、施設の補修及び長寿命化の取り組みが行われた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	51,087
自走式草刈機貸出事業	(Ⅰ) ため池等の維持管理の負担軽減を図る。 (Ⅱ) ため池管理組合等7団体に自走式草刈機の貸出を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,906
農業用水管理の省力化・高度化計画策定事業	(Ⅰ) 農業用水管理の省力化・高度化を図る。 (Ⅱ) 玉島・船穂地区で試行調査を実施し、農業用水管理の省力化・高度化に関する計画策定を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	10,500
★ 地域担い手育成総合支援事業	(Ⅰ) 地域農業の担い手となるべき農業経営者の確保・育成 (Ⅱ) 倉敷市地域農業担い手育成総合支援協議会を通じて補助事業を実施した。(学童農業体験事業(市内の15小学校)、農産物PR事業(JA晴れの国岡山の各アグリセンター4件)) (Ⅲ) 関係機関と連携し、継続して実施する。	1,859
★ 農業担い手育成支援事業	(Ⅰ) 農業経営力強化に取り組む担い手の育成 (Ⅱ) 農地利用効率化等支援交付金(強い農業・担い手づくり総合支援交付金から制度変更)、担い手確保・経営強化支援事業を活用し、2件の補助金を交付し、農業用機械の導入支援を行った。倉敷市農業後継者クラブなど地域農業の次代の担い手となる団体を支援した。 (Ⅲ) 関係機関と連携し、継続して実施する。	6,334
農作物等鳥獣害防止対策事業	(Ⅰ) 鳥獣による農作物への被害の防止・軽減 (Ⅱ) 市有害鳥獣駆除班協議会に委託しイノシシ1,255頭などを捕獲。またパンフレット配布等により被害防止対策への意識向上に努めた。農作物を守る防護柵について農地4.6haへの設置を助成した。 (Ⅲ) より効果的な駆除・防除対策を検討しながら、継続して実施する。	28,008

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
中山間地域等直接支払事業	(Ⅰ) 生産条件が不利な中山間地域における農業生産活動の継続 (Ⅱ) 国の中山間地域等直接支払制度(第5期対策)に基づき、4集落29農家(対象面積:101,452㎡)に交付金を交付した。 (Ⅲ) 県の制度を注視しつつ、継続して実施する。	1,575
耕作放棄地対策事業	(Ⅰ) 農業生産における基礎的な資源である農地の確保 (Ⅱ) 耕作放棄地対策事業実施者(8件)からの申請に基づき補助金を交付した。 (Ⅲ) 県の制度を注視しつつ、継続して実施する。	791
★ 人・農地問題解決加速化支援事業	(Ⅰ) 持続可能な地域農業を実現するため地域の合意形成の推進 (Ⅱ) 地域における人・農地プランの実質化の機運が高い地区のプランを新たに作成・実質化を完了した。 (Ⅲ) 未実質化地域のプラン実質化に向けた取り組みを継続して実施しつつ、既実質化地域のプランについては、法定化(R5)による見直しを継続して実施する。	2,464
★ 農業経営基盤強化促進事業	(Ⅰ) 地域の農業者に対する支援による効率的な農地利用の促進 (Ⅱ) 集積した229,386㎡の農地を担い手に貸し付けた。また、営農が困難な農家から、215,230㎡の農地について、農作業の受託を受けた。 (Ⅲ) 倉敷市船穂農業公社を通じて、継続して実施する。	46,906
市民農園事業	(Ⅰ) 農業と食の重要性に対する理解度の向上や地域交流の場の提供 (Ⅱ) 令和5年3月31日現在での区画稼働率は96.25%(616/640)、農園内では野菜等を親子で協力で栽培したり、利用者同士での情報交換等のふれあいや交流が行われている。 (Ⅲ) 市民の利用要望は多いことから、当面は市直営で事業を継続予定だが、将来的な民間運営への移譲も検討していく。	4,275
★ 赤ワイン用新ブドウ品種開発事業	(Ⅰ) ふなおワイナリーの生産性と売上の向上 (Ⅱ) 交雑種の栽培を継続し、22個体から果実を得た。そのうち、8系統の個体から得た果実でワインの試験醸造及び成分分析を行った。結果、2系統の個体は赤ワインの醸造に適していることが示唆された。 (Ⅲ) 引き続き、多くの交雑種から果実を得て新品種候補となるものの選抜を進める。	2,391
★ 漁業経営近代化施設整備事業	(Ⅰ) 漁業者の作業効率や漁獲物の商品価値の向上 (Ⅱ) 漁業協同組合等が共同利用施設を整備する経費(5件)に対し補助金を交付した。 (Ⅲ) 県の補助制度を活用し、継続して実施する。	7,227
★ 稚魚等放流・栽培漁業振興事業	(Ⅰ) 漁獲量を増加させ、漁業経営の安定化を図る。 (Ⅱ) メバルやキジハタなどの稚魚を放流するとともに、漁業協同組合等が行う種苗の育成、放流事業を支援した。 (Ⅲ) 漁業資源回復を目指し、継続して実施する。	5,400

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 文化・産業<紡>

### めざすまちの姿

2-8 倉敷の魅力を国内外にPRし、たくさんの人が訪れるようになっている

### 市の施策

倉敷の魅力を発信し、受入環境を整備して交流人口の増大を図る

### 基本方針

- ★ 多様な情報媒体を効果的に活用し、市の魅力を国内外へ積極的に情報発信します。
- ★ 二次交通の充実など、周遊性を高める観光インフラの整備を推進します。
- ★ 多様化する観光客のニーズや特性を捉え、市全域にひろがる日本遺産の物語も活用し、様々な観点からの観光資源の創出や観光イベントの魅力向上を図り、観光客数と観光消費額の増加をめざします。
- ★ 高梁川流域圏の観光力の強化を図るとともに、新たな地域との連携など更なる広域連携の推進により、周遊性を高めます。
- ★ コンベンション、文化芸術、スポーツなどのイベントを活用した誘客や、オンラインなども含めた国内外の旅行博や商談会への出展等による誘致活動の強化を図ります。また、新型コロナウイルス感染症の流行下においては県内・近県へのプロモーションを強化するとともに、収束後の外国人観光客の誘客に向け、東アジアやヨーロッパ圏などの現地での情報発信を強化します。
- ★ 観光客のニーズや特性を踏まえ、災害時の安全確保や多言語対応、新しい生活様式への対応など、外国人を含めた観光客の受入体制の充実を図ります。
- ★ 活力あふれ、持続可能なまちづくりを実現するため、移住定住を促進します。

### 数値目標

まちづくり指標	市内主要観光地の観光客数	
算出方法	岡山県観光客動態調査での市内主要観光地の入り込み数（暦年）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルスの影響が弱まったことや、中止していたイベントの復活等が要因と考えられる。 (II) 引き続き、アフターコロナ反転攻勢を強め、解禁されたインバウンドに向けた施策も実施していく方針。	

まちづくり指標	市内宿泊客数	
算出方法	倉敷観光コンベンションビューロー加盟宿泊施設からの報告数（暦年）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルスの影響が弱まったことに加え、全国旅行支援の影響も大きいと考えられる。 (II) 引き続き、アフターコロナ反転攻勢を強め、解禁されたインバウンドに向けた施策も実施していく方針。	

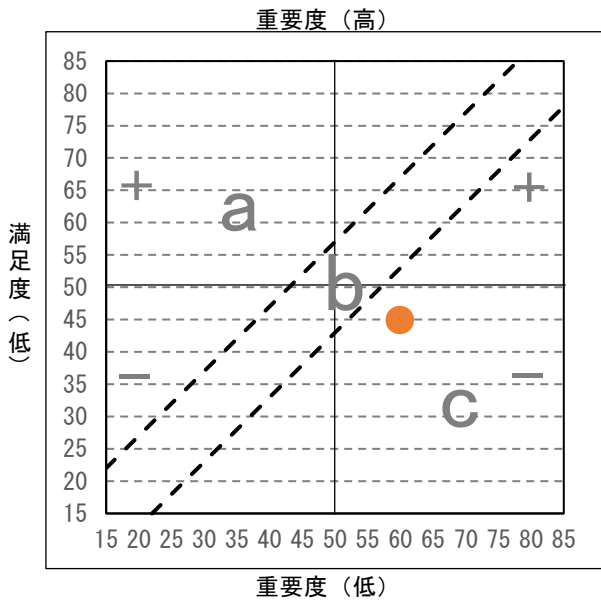
まちづくり指標	シティセールス・観光・日本遺産関連ウェブサイトへの訪問回数（セッション数）と、シティセールス・観光関連フェイスブックの投稿が届いた人数（リーチ数）の合計																			
算出方法	シティセールスサイト「クラシキ文華」・倉敷観光WEB・市日本遺産サイトへのユーザーの年間訪問回数（年間セッション数）と、市公式フェイスブック・倉敷観光情報フェイスブックの投稿が届いた年間ユーザー人数（年間リーチ数）の合計																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>目標値と実績値の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>4,340,259</td><td>2,712,984</td></tr> <tr><td>R3</td><td>4,340,259</td><td>3,046,041</td></tr> <tr><td>R4</td><td>4,340,259</td><td>3,046,041</td></tr> <tr><td>R7</td><td>4,340,259</td><td>4,578,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>5,180,000</td><td>4,578,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	4,340,259	2,712,984	R3	4,340,259	3,046,041	R4	4,340,259	3,046,041	R7	4,340,259	4,578,000	R12	5,180,000	4,578,000
年度	目標値		実績値																	
R1	4,340,259		2,712,984																	
R3	4,340,259	3,046,041																		
R4	4,340,259	3,046,041																		
R7	4,340,259	4,578,000																		
R12	5,180,000	4,578,000																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	C	コロナ影響大																		
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症でイベント中止が相次いだことに伴い、例年より各サイトへの投稿が減少したため。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続きウェブコンテンツを充実させるとともに、効果的な情報発信を行い、各サイトへの誘導を行う。																			

まちづくり指標	シティセールスに関するタグづけをされている投稿回数																			
算出方法	市公式インスタグラムにおける、シティセールスに関するタグづけ（#クラシキブンカなど）をされている投稿回数の累計																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>目標値と実績値の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>33,200</td><td>9,200</td></tr> <tr><td>R3</td><td>33,200</td><td>22,475</td></tr> <tr><td>R4</td><td>33,200</td><td>29,987</td></tr> <tr><td>R7</td><td>33,200</td><td>33,200</td></tr> <tr><td>R12</td><td>63,200</td><td>63,200</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	33,200	9,200	R3	33,200	22,475	R4	33,200	29,987	R7	33,200	33,200	R12	63,200	63,200
年度	目標値		実績値																	
R1	33,200		9,200																	
R3	33,200	22,475																		
R4	33,200	29,987																		
R7	33,200	33,200																		
R12	63,200	63,200																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 要件を満たす秀逸な投稿を積極的にリポストすることにより、フォロワー獲得とともに間接的な拡散が図れたため。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 今後もリポスト運用を継続するとともに、本市への観光誘客や移住等を促進するための魅力発信に積極的に努める。																			

まちづくり指標	移住促進施策を通じた移住世帯数																			
算出方法	お試し住宅利用者のうち、利用後のアンケートなどで移住が確認できた世帯数、就労支援利用者で就労が決定した世帯数等の合計																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>目標値と実績値の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>120</td><td>20</td></tr> <tr><td>R3</td><td>120</td><td>24</td></tr> <tr><td>R4</td><td>120</td><td>91</td></tr> <tr><td>R7</td><td>120</td><td>120</td></tr> <tr><td>R12</td><td>300</td><td>300</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	120	20	R3	120	24	R4	120	91	R7	120	120	R12	300	300
年度	目標値		実績値																	
R1	120		20																	
R3	120	24																		
R4	120	91																		
R7	120	120																		
R12	300	300																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 積極的な情報発信等に加え、補助金メニューの拡充や新たなお試し住宅の整備等により目標を上回る値となった。																			
(II) 今後の取組方針	(II) テレワークの普及等で高まる移住への関心を本市へ向けられるよう地域団体等と連携を図り効果的な施策を行う。																			



市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	44.92	59.96

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
重要度 (高)  
重要度 (低)  
<グラフの見方>

満足度 (高)	a (a+)	b (b+)	満足度 (高)
満足度 (低)	a- (a-)	b- (b-)	満足度 (低)
			重要度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
★ マスメディアによる広報事業	(I) 市外を含めた広域を対象に、市政情報・観光情報を広報する。 新聞は市政広告を30段掲載。テレビは地元5局で番組を制作・放送するとともに一部をYouTubeで配信、CATV2局では市政情報の24時間放送を実施。FMは市長や各課からのお知らせの他、60秒広告を年600回放送。 (II) 市域によらず広く周知できる媒体であり、市の個性と魅力を視覚的に訴えることができるため、制作コンテンツの活用拡大も含めて、継続して実施する。 (III)	31,253
★ シティセールス推進事業	(I) 都市イメージを向上させ、市と交流する人や倉敷ファンを増やす。 市の個性と魅力をPRするウェブサイトを経営するとともに、サイト上に掲載する特集記事を6本制作・公開。R4から、メディアへの情報提供を紙媒体からプレスリリース配信サービスに切り替え、効率的・効果的な周知を図った。 (II) 同ウェブサイトは注目度も高く反響も良好であることから、Instagram等のSNSを併用した市の個性と魅力の発信を、継続して実施する。 (III)	2,335
★ ふるさと納税推進事業	(I) ふるさと納税を通じて、倉敷の魅力を広く発信する。 (II) 令和4年8月より、共通返礼品を新たに加えることにより、協賛事業者の開拓及び返礼品の拡充を図った。また、メルマガの配信によるリピーター獲得にも努めた。その結果、当初予算見込額を上回る4億4千8百万円を超える寄附を頂いた。 (III) 運営代行業者等との連携、「ふるさと納税推進検討会」の活用等により、リピーターを含む寄附者及び新規協賛事業者の獲得と返礼品の充実を図り、寄附金額の増加、地場産業の活性化及び本市の魅力発信等、事業の拡充に努める。	213,005
★ ビジット・くらしき・キャンペーン事業	(I) 海外への情報発信を通じて誘客を図る。 岡山桃太郎空港直行便の再開を見据え、台湾市場へのプロモーションを重点的に行った。多言語版パンフレット、WEBのリニューアルを実施し、アフターコロナの受入体制充実を図った。 (II) アジア市場では、現地旅行博への出展などプロモーションの強化を図る。 (III) 2025大阪・関西万博を見据え、欧米市場の新規開拓を目指し、デジタルでのプロモーションを行う。	20,502
★ マスメディア等によるPR事業	(I) マスメディアを活用し、国内外からの多数の観光客誘致を図る。 新聞・雑誌広告4件、WEB等のメディア広告3件の掲載、Instagram投稿キャンペーン、大阪駅ピールオフ広告を実施した。また、岡山駅地下道及び新溪園地下道のカラーコルトンに観光情報を掲載した。 (II) 誘客の狙えるタイミングにターゲットに届く媒体を選択し効果的な情報発信を継続して実施する。 (III)	6,528
★ 観光客誘致事業 (政策事業)	(I) 観光客数を増加させ、町の賑わい創出や、地域経済の活性化を図る。 周遊型観光キャンペーン (134,131人) や倉敷～児島・玉島間の周遊バスツアー (283人)、瀬戸内国際芸術祭の会期に合わせ、児島観光港で施設装飾や飲食・物販を出店した「KOJIMA BLUENESS」を開催した。 (II) 実施事業の見直しを行い、効果性の高いものについて「アートのまち倉敷」事業として集約し継続実施する。 (III)	52,391

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 日本遺産推進事業	(Ⅰ) 日本遺産をコンテンツとした観光資源を創出し観光客数の増加をめざす。 (Ⅱ) 流域自治体間の相互情報発信を目的とし、本市日本遺産パンフレット増刷、くらしき日本遺産検定を実施した。 (Ⅲ) 今後も高梁川流域圏における日本遺産認定自治体との連携を模索しながら、継続して実施する。	3,157
★ 観光イベント事業	(Ⅰ) イベントを通じた観光客の誘致と、地元の魅力を発信する。 (Ⅱ) コロナにより一部のイベントは中止となったが、密を避けるため開催時期や内容を見直したハートランド倉敷をはじめ、感染症対策を実施した上で、児島フェス #せんいさい、玉島まつり、倉敷シティロゲイニング、倉敷春宵あかりなどのイベントを実施した。 (Ⅲ) 市内外からの集客を図り、地域の魅力発信につなげるため、事業内容の見直しを行いながら各種イベントを継続的に実施する。	72,440
★ 高梁川流域観光誘客事業	(Ⅰ) 高梁川流域への観光誘客と、圏域内周遊を促進する。 (Ⅱ) 高梁川流域圏の観光素材集の制作や高梁川流域圏を周遊する旅行商品を造成した旅行会社に助成金を交付する事業や旅行博「ツーリズムEXP02022」で首都圏の観光客や旅行会社へ高梁川流域圏の観光素材のPRを実施した。 (Ⅲ) 旅行会社への旅行商品造成及び観光客へのPRを継続して実施する。	2,984
★ 高梁川流域地域間観光連携事業	(Ⅰ) 高梁川流域がもつ様々な魅力を地域間連携により発信し、誘客に繋げる。 (Ⅱ) 金田一事業ではコスプレイベントやスタンプラリーを実施し、山田方谷では、スタンプラリーや雑誌の記事掲載を実施。食事業では、あんこに関するスタンプラリーを実施。また、夜景をテーマとしたインスタグラムキャンペーンを開催。 (Ⅲ) 圏域の観光地・自然・食・ゆかりの人物などに焦点を当て、テーマ別に観光振興施策を継続して実施する。	8,926
★ 高梁川流域誘客環境Wi-Fi整備事業	(Ⅰ) 観光客の利便性を向上させ、観光満足度と再来訪意欲を高める。 (Ⅱ) 既設のアクセスポイント(市内116ヶ所)の維持管理を実施した。また、Wi-Fi利用時の認証方法の変更に伴い、案内用HPを改修した。 (Ⅲ) 観光客の利便性及び満足度向上のため、設備の維持管理、情報発信等を継続して実施する。	10,603
★ 他連携中枢都市圏との観光連携事業	(Ⅰ) 近隣圏域と相互に観光誘客を図り、観光交流人口を拡大させる。 (Ⅱ) 両圏域に跨る井原市美星天文台までバスを運行する「星空特等席」行きバスツアー及び両圏域を宿泊して周遊する「古墳・史跡めぐり」と「瀬戸内海の島の牡蠣」をテーマにした宿泊ツアーを実施した。 (Ⅲ) 令和4年度に造成したツアーを旅行会社で造成してもらうために助成金事業等を実施。	1,500
★ 「倉敷観光プレミアムクーポン」旅行商品造成支援事業	(Ⅰ) 倉敷市への旅行意欲と観光消費意欲を高める。 (Ⅱ) 市内の飲食店や土産物店等で使える20%のプレミアムが付いたクーポン券を旅行会社や旅行サイトを通じての販売を実施した。 (Ⅲ) 令和5年度についてもプレミアムクーポンの販売を継続的に実施する。	3,137
★ 岡山DC等と連携した観光客誘致推進事業	(Ⅰ) 多様な主体と連携し、岡山DC(デスクティネーションキャンペーン)等を通じた観光誘客効果を最大化させる。 (Ⅱ) JR西日本から「倉敷市 岡山DC・観光推進マネージャー」として管理社員を派遣、体験型コンテンツ等観光素材の発掘や観光誘客に繋がる商品造成などを行った。JAL・ANAとの連携では、ワーケーションへの取り組みやモニターツアー、講演会などを実施した。 (Ⅲ) 令和5年度は岡山DCアフターキャンペーンが実施されるため、継続して実施する。	28,000
★ 観光ウェブサイト情報発信事業	(Ⅰ) WEBやSNS等を活用した情報発信を通じて、観光誘客を図る。 (Ⅱ) 倉敷市観光(公式)インスタグラムのフォローキャンペーンや特集ホームページの制作等を実施した。 (Ⅲ) 倉敷への来訪意欲を向上させるため、旬の素材やイベント、キャンペーン情報の発信を継続的に実施する。	2,995
観光コンベンションビューロー補助事業	(Ⅰ) 公益社団法人倉敷観光コンベンションビューローに補助を行う。 (Ⅱ) 地方創生臨時交付金を活用した夜型観光コンテンツ造成等に取り組む事業者に対する補助を行ったほか、観光案内マップ等印刷物の作成や観光案内所の管理運営に対する補助を行った。 (Ⅲ) 国内外から観光客やコンベンション誘致を行うため、情報発信事業や、観光案内所の管理等に対する補助を継続して行う。	141,331
★ コンベンション誘致・フィルムコミッション事業	(Ⅰ) 地域経済の活性化、交流人口の増加、知名度向上を図る。 (Ⅱ) コンベンションに誘致については、補助金の交付やMICEエキスポへの出展や学会主催者へのプロモーション活動を実施した。フィルムコミッションについてはロケ等の受入支援を実施した。 (Ⅲ) コンベンション誘致についてはG7開催実績をもとに積極的にセールス等を実施。フィルムコミッション事業についても継続的に実施する。	16,996
★ 移住交流推進事業	(Ⅰ) 活力あふれるまちづくりを実現するため移住定住を促進する。 (Ⅱ) 都市圏での相談会を15回実施。新たに整備した下津井地区含め99世帯がお試し住宅を利用。ウェブサイトやSNS等で情報発信を行い移住体験ツアー等も実施。各種補助事業を含め移住施策を利用した移住者は48世帯73人。 (Ⅲ) 移住者助成や情報発信等、継続して実施する。	58,062

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-1 自然環境が守られ、環境と経済・社会とのバランスが保たれている

### 市の施策

地域の環境と経済・社会が調和した、持続可能なまちづくりを推進する

### 基本方針

- ★ 自然とふれあえる場を整え、機会を提供するなど、自然とのふれあいを促進するとともに、多くの市民が身近なところで、環境学習や環境活動の場や機会が得られるよう充実を図ります。
  - ・ 自然保護への意識啓発を推進するとともに、地域固有の生態系の確保、野生動植物の種の保存など生物多様性の確保を図ります。
- ★ まちの緑化を推進し、潤いと安らぎのある生活空間の充実を図ります。
- ★ 環境をよくすることが経済・社会を発展させ、地域が活性化することによって環境もよくなるといった環境と経済・社会の好循環の創出に努めます。

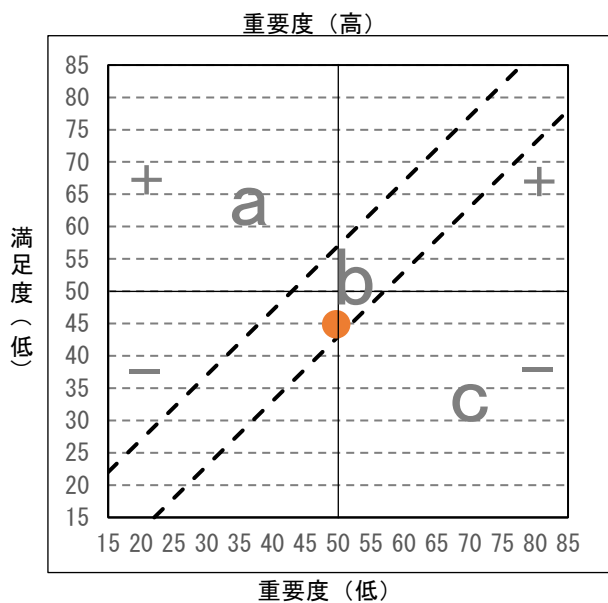
### 数値目標

まちづくり指標	環境学習満足度	
算出方法	体験型講座、出前講座、施設見学の3区分の環境学習アンケートで、『楽しかった』『まあ楽しかった』または『わかりやすい』『まあわかりやすい』など、5項目のうち上位2項目を回答した人の割合を各区分で算出し、平均した値。 ※1区分の満足度は、実施した講座（見学）ごとに満足度を算出し、それらを平均した値	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 講座の内容について随時見直し等を行っている。	
(II) 今後の取組方針	(II) 新型コロナウイルスの感染状況などを勘案しながら、継続して実施する。	

まちづくり指標	身近なところで、生き物（動物、昆虫や植物など）にふれあえる場や機会（イベントを含む）があると考える人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「お住まいの地域（地区）で、生き物（動物、昆虫や植物など）にふれあえる場や機会（イベントを含む）があると思いますか」（※生き物は、ペットや庭木など、家庭内で飼育、植樹・栽培しているものを除く）という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100（現状値は市民モニターアンケートによる）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、イベントの中止や講座の縮小など、生き物にふれあえる機会が減少したことが影響したものと考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 新型コロナウイルスの感染状況などを勘案しながら、生き物にふれあえる機会の確保に努めるとともに、その周知を行う。	

まちづくり指標	身近な地域の緑の量が多いと感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査で「あなたがお住いの身近な地域の緑の量についてどのように感じていますか」の設問に対して、『非常に多い』『多い』と回答した人の数/アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 毎年一段の規模を有する緑地の面積を算出しており、面積は微増しているが、緑の量が多いと感じるまで至っていないため。 (II) 引き続き公共施設の緑化を推進して行くとともに、民有地緑化の補助金を拡充して、緑化の推進を図っている。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	44.85	49.71

重要度に見合った満足度が得られている領域(b)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)

<グラフの見方>

重要度 (高)	a (a+)	(b+)	満足度 (高)
満足度 (低)	(a-)	b (b-)	c (c-)
	重要度 (低)		満足度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域



施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
身近な自然と水辺の 保全事業	(I) 身近な自然と水辺の保全	1,207
	(II) 種松山野草保護移植地の管理及び自然保護監視員の連絡会議・研修、環境配慮型公共事業研修及び探鳥コース維持管理を実施した。	
	(III) 野草園、探鳥コース等の維持管理や、自然保護監視員の研修を継続する。	
★ 生物多様性エコツ アー支援事業	(I) 生物多様性の保全を実践する担い手・リーダーの育成	449
	(II) 生物多様性エコツアーを高梁市で実施し、流域圏域における担い手・リーダーの育成を図った。	
	(III) 高梁川流域圏域でエコツアーを行い、流域圏内で活動する人材育成を図る。	
環境フェスティバル 実施事業	(I) 市民への環境意識啓発	4,376
	(II) ゼロカーボンとSDGsと題して、9月24日(土)水島愛あいサロン実施：参加者約1,200人	
	(III) 事業を見直し、来年度はリサイクルフェアと統合し、くらしき環境フェアとして実施する。	
希少野生生物の生息・生育環境の保全 事業	(I) 希少野生生物の生息・生育環境の保全	593
	(II) 公共事業、民間開発におけるスイゲンゼニタナゴ、カワバタモロコ、ナゴヤダルマガエル等希少野生生物の保護対策、ミズアオイ自生地の保護管理を実施した。	
	(III) 希少野生生物の生息状況の把握に努め、必要に応じて保護を実施する。	
★ 花と緑あふれるまち づくり事業	(I) 市民による緑化活動の推進	29,398
	(II) 緑化推進員や花の銀行、地区花いっぱい団体等を通して、地域の道路緑化(フラワーロード)やもてなし花壇の植栽等の市民の緑地活動を支援した。	
	(III) 継続して実施する。	
★ 緑化推進事業	(I) 市民の緑化意識の向上	3,870
	(II) くらしき都市緑化フェア等のイベントを開催した。また記念樹の配布や緑のリサイクルを実施した。更に小・中学生を対象とした緑化ポスターコンクールを実施し、優秀作品を表彰した。	
	(III) 継続して実施する。	
★ ふれあい収集事業	(I) ごみ出しの支援、環境・社会の相乗効果を狙う。	2,957
	(II) 一般家庭の廃棄物を自らごみステーションまで持ち出すことが困難である世帯を対象に戸別収集及び希望者の安否確認を実施した。(令和4年度末現在110世帯が対象)	
	(III) 継続して実施する。	
★ 環境意識啓発事業	(I) 環境意識啓発、環境・経済・社会の好循環の創出	-
	(II) 環境イベントにおいて市内の大学と連携し、絵本の読み聞かせを実施した。	
	(III) 継続して実施する。高梁川流域の公共施設に配布する。	
★ 高梁川流域河川ごみ 等調査啓発事業	(I) 海ごみの発生抑制等	14
	(II) 高梁川流域の4市1町で環境イベントへの参加、パネル展示で啓発活動を行った。	
	(III) 引き続き、高梁川流域市町で、パネル展示等の啓発活動を実施する。	
★ 環境学習推進事業	(I) 市民への環境学習の推進	4,454
	(II) 環境NPO・企業等と連携・協力し、座学形式・体験形式など各種講座を52講座実施し、1,670人の参加があった。	
	(III) 継続して実施する。	



事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
環境学習センター運営事業	(Ⅰ) 環境学習の拠点運営	14,020
	(Ⅱ) 環境関連図書・環境学習用機材の貸し出し、会議室の貸し出し等、環境学習センターを本市の環境学習の拠点施設として運営し、施設利用者は4,093人であった。	
	(Ⅲ) 継続して実施する。	

## 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



### 生活環境・防災・都市基盤<繋>

#### めざすまちの姿

3-2 水と空気と大地がきれいで、環境負荷の少ないまちがつけられている

#### 市の施策

安心と安らぎがあり、環境負荷の少ない美しく快適な生活環境の確保を図る

#### 基本方針

- ・ 大気環境、水環境などの状況を的確に把握し、市民へのわかりやすい情報提供や生活排水対策の啓発を行うとともに、排出事業者等への指導を強化することにより汚染物質の排出を抑制します。
- ・ 下水道、合併処理浄化槽などの汚水処理施設の整備や既存施設の維持管理などを適切に行い、公共用水域における良好な水環境を継続的に実現します。
- ・ 全市一斉ごみ0（ゼロ）キャンペーンなど、市民や市民公益活動団体、事業者による自主的な地域の環境美化活動を支援します。
- ・ 不法投棄監視員による巡回・監視活動を強化し、未然防止や早期発見により不法投棄のないきれいなまちをめざします。

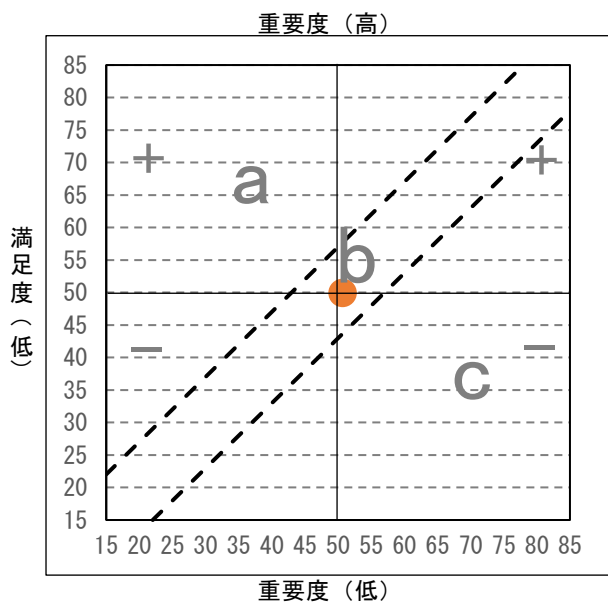
#### 数値目標

まちづくり指標	大気環境基準達成率	
算出方法	基準値達成局数／有効測定局数（二氧化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、二酸化窒素、微小粒子状物質、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、ダイオキシン類）×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 大陸の大気環境が改善傾向にあることから、越境するPM2.5が減少したと推測される。	
(II)今後の取組方針	(II) 引き続き大気環境を的確に把握し、市民にわかりやすい情報提供を行う。	

まちづくり指標	汚水処理人口普及率	
算出方法	(公共下水道処理区域内人口＋農業集落排水処理区域内人口＋浄化槽汚水処理人口)／住民基本台帳人口×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 浄化槽設置基数は微増しているが、世帯当り人口の減少の方が上回っているため、浄化槽汚水処理人口が減少した。	
(II)今後の取組方針	(II) 下水道、浄化槽共に継続実施する。	

まちづくり指標	清掃活動に参加している人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「清掃活動に参加していますか」という設問に対して、『積極的にしている』『義務的にしている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性		
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、全市一斉ごみ0キャンペーン等の各種清掃活動が規模縮小となったため。 (II) 倉敷市環境衛生協議会と連携し、参加を呼びかけるなどの活動によって参加意思のある人々の掘り起こしを図る。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	49.94	50.71

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
満足度 (低)

重要度 (高)  
重要度 (低)

<グラフの見方>

満足度 (高)	a (a+)	(b+)	満足度 (高)
満足度 (低)	(a-)	b (b-)	c (c-)
	重要度 (低)		

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
大気調査事業	(Ⅰ) 大気環境の監視、市民へのわかりやすい情報提供 市内23地点の測定局で常時監視を行い、情報提供を実施した。7地点で有害 (Ⅱ) 大気汚染物質調査を実施した。光化学オキシダントを除く大気汚染物質と 有害大気汚染物質は、環境基準を達成した。 (Ⅲ) 今後も大気汚染物質の常時監視及び有害大気汚染物質の調査を実施し、大 気の汚染状況を把握する。	96,733
水質調査事業	(Ⅰ) 水環境の監視、市民へのわかりやすい情報提供 (Ⅱ) 河川(18地点)、海域(21地点)の公共用水域の水質監視を実施し、環境 基準適合率は、河川で98.5%、海域で91.1%であった。 (Ⅲ) 今後も工場等の排水の測定及び公共用水域等の水質監視を実施し、水質 の汚濁状況を把握する。	26,474
大気汚染対策事業	(Ⅰ) 大気汚染の発生抑制 工場及び事業場に対し、ばい煙発生施設の届出状況等の確認のため、延べ (Ⅱ) 105事業場に立入調査を実施した。このうち、排出ガス等の測定を延べ18事 業場で実施し、全ての施設で排出基準を満足していることを確認した。 (Ⅲ) 今後も継続して工場及び事業場に対して立入調査を実施し、大気汚染物質 の排出状況を把握する。	4,936
ダイオキシン類対策事業	(Ⅰ) ダイオキシン類対策 大気2地点、公共用水域等26地点で環境調査を実施し、地下水の1地点を除 (Ⅱ) き、環境基準を満足していることを確認した。発生源に対して立入測定を 実施し、5検体全てにおいて排出基準を満足していることを確認した。 (Ⅲ) 今後も継続して環境調査及び発生源に対する立入調査を実施し、ダイオキ シン類の実態を把握する。	7,390
水質汚濁防止対策事業	(Ⅰ) 水質汚濁の防止 工場や事業場に立入し、120事業場、392検体について排水の調査を実施し (Ⅱ) た。また、児島湖流域清掃大作戦や環境保全推進員制度等により、水環境 保全の啓発活動を推進した。 (Ⅲ) 今後も継続して工場及び事業場への立ち入り調査を実施するとともに、生 活排水対策の実施を推進することにより公共用水域の汚濁防止を図る。	3,842
騒音・振動・悪臭対策事業	(Ⅰ) 騒音・振動・悪臭対策 8地点で実施した自動車騒音測定結果を基に面的評価を実施した。生活環境 (Ⅱ) 及び発生源の騒音振動悪臭を測定するとともに、市民からの相談に対し て、発生源への調査指導を行った。 (Ⅲ) 今後も継続して調査を実施し、生活環境及び発生源の騒音振動悪臭の状況 を把握する。	4,456
合併処理浄化槽設置 費助成事業	(Ⅰ) 公共用水域の水質汚濁の防止、生活環境・公衆衛生の向上 (Ⅱ) 合併処理浄化槽230基の設置に対して補助金を交付した。 (Ⅲ) 今後も継続して公共下水道未整備区域において、合併処理浄化槽設置に対 して補助金を交付し、浄化槽設置を推進する。	97,930
下水道事業	(Ⅰ) 公共用水域の水質汚濁の防止、生活環境・公衆衛生の向上 (Ⅱ) 面積21haを対象に下水道管整備を行い、下水道人口普及率は、81.8%（令 和3年度末）から82.0%（令和4年度末）へ0.2%アップした。 (Ⅲ) 今後も引き続き下水道未普及地区の整備を継続して実施する。	8,240,684
地域社会ボランティ ア「アダプト・プロ グラム」事業	(Ⅰ) ボランティア活動を通じて公共施設への愛着を深め協働の機運を高める。 (Ⅱ) 道路、水路、公園などの公共施設の清掃美化活動を年4回以上行うボラン ティア団体に対し、ほうき・ごみ袋などの消耗品の支給やボランティア活 動保険加入などで活動を支援した。（令和4年度末時点で55団体1,535人の 登録） (Ⅲ) 消耗品の支給やボランティア活動保険加入等、活動の支援を継続して実施 する。	940
環境美化啓発事業	(Ⅰ) 環境美化の促進 市内全域から倉敷市地域美化推進員181人を選任している。犬のふん放置対 (Ⅱ) 策「イエローカード作戦」を市内10団体が実施した。また、9月の第1日曜 日を「清掃祭日」として、「全市一斉ごみ0キャンペーン」を行っている。 (Ⅲ) きれいで快適なまちづくりを推進するため、市民や地域の団体と連携し、 様々な環境美化推進を継続して実施する。	3,616

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
用排水路の清掃委託事業	(Ⅰ) 農業用水路が適正に維持管理されるため、地域の清掃活動を支援する。 (Ⅱ) 市内全地域で農業土木委員会を中心とした管理組合等285の団体が、町内会とも連携し、年に1～3回、用排水路の清掃活動を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	115,108
不法投棄対策事業	(Ⅰ) 不法投棄物の情報収集、回収及び防止対策 市内一円の不法投棄要注意箇所に重点を置き、監視パトロールを実施し、 (Ⅱ) 年間27,623kgの投棄物を回収した。また、不法投棄の未然防止を図るため、移動式監視カメラを不法投棄多発箇所へ設置している。 (Ⅲ) 不法投棄の総合窓口として、情報の収集、防止のための啓発等を関係部署と連携を図りながら不法投棄対策を継続して実施する。	1,830
不法投棄監視事業 (不法投棄防止対策事業)	(Ⅰ) 不法投棄の早期発見、未然防止 (Ⅱ) ヘリコプターによる上空監視を市内全域で年間4回、休日夜間監視パトロールを年間164回(平日夜間50回、休日昼間100回、指定日14回)実施。 (Ⅲ) 今後も継続して、上空監視や監視パトロールにより不法投棄の未然防止を図る。	12,887
リフレッシュ瀬戸内事業	(Ⅰ) 美しい瀬戸内海を守るため、地域環境美化意識の向上を図る。 (Ⅱ) 新型コロナウイルスの影響により蔓延防止の観点からリフレッシュ瀬戸内を実施することができなかった。 職員で沙美海岸の海の健康診断を実施。 瀬戸内海沿岸の全市町村が加盟する「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」(平成3年設立)に参画する本市は、今後も他自治体と連携し、実施する。 (Ⅲ)	-



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-3 リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（ごみの再生利用）が徹底され、環境に配慮した循環型社会が形成されている

### 市の施策

資源を有効に活用し、環境に配慮した循環型社会の実現を図る

### 基本方針

- 環境教育を推進するとともに、市民・事業者・行政のそれぞれが相互に連携・協働してその役割を果たしながら、3R（リデュース、リユース、リサイクル）に徹底して取り組み、なかでもリデュース、リユースを優先し、環境に配慮した循環型社会の形成をめざします。
- 生ごみの水切りやごみの分別などの徹底を啓発することにより、家庭ごみの更なる減量化・資源化を進めます。
- 事業者への指導強化などにより、事業活動で生じるごみの減量化・資源化及び適正処理を進めます。
- 環境に配慮し、安全で安定したごみ処理施設の整備を推進します。

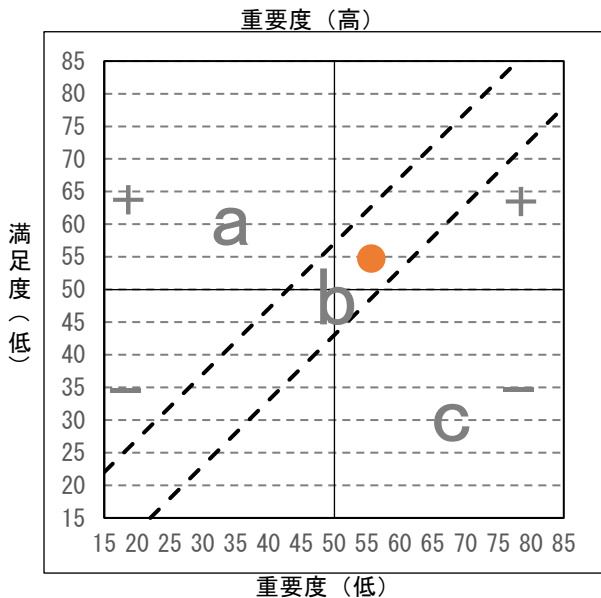
### 数値目標

まちづくり指標	1人1日当たりの家庭ごみ排出量	
算出方法	家庭ごみ総排出量（集団回収量と資源ごみを除く家庭ごみの総排出量）／年度末人口／年度内日数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 広報くらしきや各種チラシ等による周知啓発により、ごみ減量に向けた住民意識が醸成されたものとする。 (II) 引き続き、広報くらしきや各種チラシ、ホームページ等を活用してごみの減量化に向けた意識の醸成を図る。	

まちづくり指標	事業ごみ（一般廃棄物）年間排出量	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症拡大防止による飲食店や商業施設等の経済活動の停滞による影響と考えられる。 (II) 事業ごみ排出状況がどう変化していくのかということにも着目し、効果的な事業ごみ減量化の取り組みを進める。	

まちづくり指標	リサイクル率	
算出方法	総資源化量／ごみ総処理量×100 総資源化量とは、資源ごみ量+使用済乾電池量+施設資源化量+集団回収量+小型家電回収量	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↑	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、協力団体の活動が停滞し、資源ごみの集団回収量が減少したため。 (II) 引き続き、様々な媒体を活用した広報やイベント等を通じて分別の徹底を推進し、リサイクル率向上に努める。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	54.71	55.70

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)  
<グラフの見方>  
重要度 (高)

満足度 (高)	重要度 (高)	満足度 (低)	重要度 (低)
a (a+)	(b+)	(c+)	
(a-)	b	c	(c-)
(b-)			

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
ごみの適正処理・減量・リサイクル啓発事業	(I) ごみの減量、適正処理、リサイクルの啓発 (II) クルクルセンターや市立美術館などで「リサイクルフェア」、「暮らしとごみ展」の開催や出前講座などによりごみ減量について、啓発を行った。 (III) 規模を拡大し、より多くの市民に啓発する。	14,529
ペットボトル回収事業	(I) ペットボトルの回収、資源化 (II) 協力店のスーパー等に設置した回収箱から回収したペットボトルや、資源ごみとしてごみステーションから回収したペットボトル667tを資源化した。 (III) 事業を継続し、資源としての排出を啓発する。	79,241
ごみ減量化対策事業	(I) 家庭ごみの減量化・資源化 (II) ごみ減量化協力団体906団体が報奨金制度を活用し、8,250tの資源ごみを回収した。また、260基の生ごみ処理容器等の購入費に対して補助金を交付した。 (III) 事業を継続し、引続き資源回収の協力、ごみ減量を啓発する。	68,965
事業ごみ適正処理指導事業	(I) 事業ごみの適正処理の指導 (II) 清掃工場での搬入検査を年50回行い、また、一般廃棄物減量資源化計画書の提出があった170事業者の内、43事業者に対して現地での個別訪問指導を行い、適正処理の指導を行った。 (III) 事業者へ指導強化などにより、事業活動で生じるごみの減量化・資源化及び適正処理を進めていく。	-
(仮称) 倉敷西部クリーンセンター整備事業	(I) ごみ処理施設等の整備 (II) 地階から地上階における建築工事の監理及びプラント機器の承諾行為を行った。 (III) 継続して建築工事及びプラント工事の監理を行う。	1,922,689
水島環境センターストックヤード整備事業	(I) ごみ処理施設等の整備 (II) 既存のストックヤードの解体撤去を行い、新たにストックヤードを整備した。 (III) 令和4年度で完了した。	56,751
(仮称) 白楽町汚泥再生処理センター等整備事業	(I) 汚泥再生処理センター等の整備 (II) 設計施工一括発注の建設工事にて、新施設の実設計、本工事、付帯工事、場内不用施設の撤去工事及びその監理業務を実施した。 (III) 継続して工事及び工事の監理を行う。	456,357

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-4 脱炭素社会の実現に向け、だれもが地球温暖化対策を推進している

### 市の施策

脱炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策を推進し、地域特性に応じた適応策を実施する

### 基本方針

- 事業者の省エネルギー機器・設備や、太陽光発電システムをはじめとした再生可能エネルギーの導入などを促進します。
- 暮らしの中での省エネルギーへの取り組みや、公共交通機関や徒歩・自転車によるエコ移動など、脱炭素型ライフスタイルへの転換を促進します。
- 再生可能エネルギーや環境性能に優れた自動車などを行政が率先導入します。また、電力の地産地消を推進するため、ごみ処理施設等で自家発電した電力を他の公共施設で消費できる仕組みを構築します。
- 気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応策）について、市民・事業者などの理解を深めるため、情報提供や普及啓発を行います。また、本市の地域特性に応じた適応策を効果的に推進します。

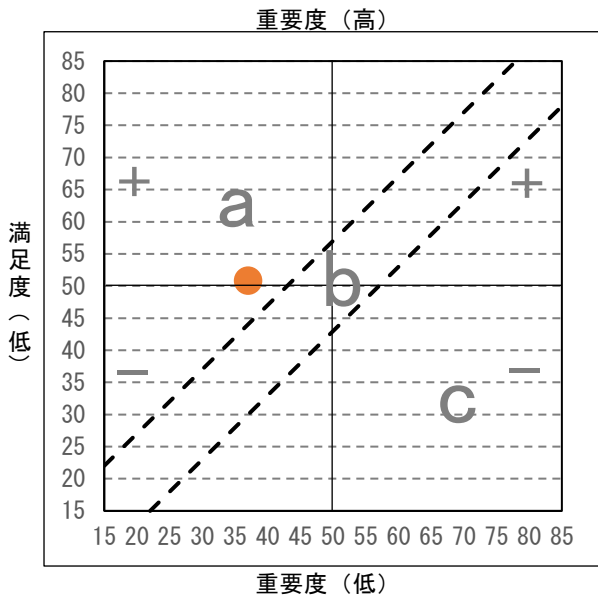
### 数値目標

まちづくり指標	市全体から排出される温室効果ガスの削減割合（平成25年度34,519千t-CO2比）	
算出方法	「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき毎年度公表する市全体からの温室効果ガス排出量で、（平成25（2013）年度の排出量-その年の排出量）／平成25（2013）年度の排出量×100 ※3年前の実績値となる	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 鉄鋼業や化学工業など産業部門における排出量の減少が大きく寄与したと考えられる。 (II) 再生可能エネルギー設備や環境性能に優れた自動車の導入促進を進め、温室効果ガス排出量の削減に努める。	

まちづくり指標	世帯当たりの年間温室効果ガス排出量	
算出方法	「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき毎年度公表する市全体からの温室効果ガス排出量より、家庭における温室効果ガス排出量を算出 ※3年前の実績値となる	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	⬇️	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 暖冬による暖房時のエネルギー需要の低減が大きく寄与したと考えられる。 (II) 再エネ設備の導入を促す補助事業の実施とともに、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発を行う。	

まちづくり指標	太陽光発電システムの導入件数（10kW未満）	
算出方法	市内の戸建住宅に導入された太陽光発電システムの件数（10kW未満）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 太陽光発電への理解が広がることに加え、当市の補助事業における導入促進効果も大きく寄与したと考えられる。 (II) 引き続き、補助事業を進めていく。	

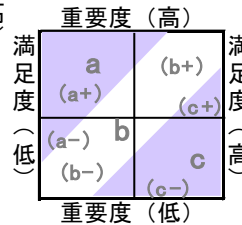
市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	50.80	37.04

重要度に見合った満足度が得られていない領域 (a)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
重要度 (高)  
重要度 (低)



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
中小企業への省エネ設備導入促進事業	(I) 事業者の省エネ設備導入促進 (II) CO <sub>2</sub> 削減効果が一定以上見込まれる設備更新への補助を7件実施した。 (III) 継続して実施する。	12,409
地球温暖化対策実行計画推進事業	(I) 市全域からの温室効果ガス排出量の削減 (II) 国の削減目標見直しを契機として、市の実行計画 (区域施策編) の改定作業を進めるため審議会を5回開催した。 (III) 継続して実施する。	6,872
エコアクション21推進事業	(I) 中小企業の環境経営システムの推進 (II) エコアクション21を認証取得している市内事業者2社に対して、認証更新のための費用を補助した。 (III) 継続して実施する。	147
道路照明維持管理事業	(I) 道路照明等のLED化により電気使用料削減を図る。 (II) 石の塔トンネル・新扇の峠トンネル照明のLED化を行い96台をLEDに更新。 (III) 継続して実施。R5は、倉敷地区・水島地区2トンネル照明をLED化予定。	100,685
脱炭素型ライフスタイル普及啓発事業	(I) 環境に配慮したライフスタイルの普及啓発 (II) イベント、出前講座での、グリーンくらしエコアクションの配布など、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発を行った。 (III) 継続して実施する。	-
ZEH・太陽光発電等導入促進事業	(I) ZEH・太陽光発電等の導入促進 戸建住宅を対象とした、太陽光発電システム297件、太陽熱利用システム13件、次世代エコハウス14件、燃料電池システム29件、定置型リチウムイオン蓄電池401件に対する補助をそれぞれ実施した。 (II) 継続して実施する。	67,044
高梁川流域カーボンニュートラル研究事業	(I) 高梁川流域圏域でのカーボンニュートラルの実現 「高梁川流域カーボンニュートラル研究会」を設立し、各市町での再生可能エネルギー導入可能性や省エネ教育の進め方、また断熱改修による省エネ効果を現場で学ぶワークショップの開催など調査研究を行った。 (II) 継続して実施する。	12,422
(仮称) 倉敷西部クリーンセンター整備事業	(I) 電力の地産地消の推進 (施設の整備については44頁に掲載) (II) 自営線供給方式について検討を行った。 (III) 継続して具体的な自営線供給の設計を行う。	-
電気自動車等導入費補助事業	(I) 電気自動車等の導入促進 (II) 電気自動車 (EV) 350件、プラグインハイブリッド自動車 (PHV) 100件の購入補助、V2H充放電設備等の設置補助を20件実施した。 (III) 継続して実施する。	64,051
エネルギー使用量削減推進事業	(I) 市の施設のエネルギー使用量と温室効果ガスの排出量の削減 (II) 市役所から排出された令和3年度の温室効果ガス排出量は、基準年度 (平成25年度) と比較して、26.7%減少した。 (III) 継続して実施する。	9,422
適応策普及啓発事業	(I) 適応策の普及啓発 (II) 適応策についての情報提供、普及啓発を行ったほか、市が実施している適応策についての調査を実施した。 (III) 継続して実施する。	-



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-5 行政と市民、企業などが連携し、防災・減災対策や感染症対策などを積極的に進めるとともに、だれもが命を守る意識をもっている

### 市の施策

防災・減災意識を高め、災害に強いまちをつくる

### 基本方針

- ★ 平成30年7月豪雨災害からの1日も早い復興に取り組むとともに、災害での経験を踏まえ、行政と市民、企業などが連携して、将来の災害に備えるための防災・減災対策に努め、市全体の防災力の向上をめざします。
- ★ 国や県と連携し、河川や水路及び排水機場の改修や急傾斜地の対策を行うとともに、総合的な浸水対策を推進し、避難場所となる公共施設の防災機能の充実、無電柱化の推進、公共施設や住宅等建築物及び大規模盛土造成地の耐震化の推進など、災害に強いまちづくりを進めます。
- ★ 消防体制や、備蓄・配送などの防災拠点の充実を図ることで、災害発生時の的確で迅速な対応をめざし、市民が安心して住み続けられるまちづくりを進めます。
- ★ 「自助」「共助」「公助」の防災理念のもと、防災訓練や防災教育などを通じて、市民の更なる防災・減災意識や知識の向上を図ります。市民一人ひとりが災害に備え、まずは自分の命を守る「自助」の意識を高めるとともに、近隣や地域において市民が助け合い、かつ、支え合う「共助」の取り組みに参加します。
- ★ 市民に防災情報を迅速かつ的確に知らせるとともに、災害時の情報を集約して的確な判断ができるように災害対応機能の充実強化を図り、防災力の向上をめざします。
- ★ 災害時における鉄道輸送の経路を維持することで、安全・安心に人や物が輸送できるまちをめざします。
- ★ 新たな感染症や、大規模災害などの緊急時に市民の健康被害が最小限に抑えられるよう、健康危機管理体制の強化を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	自主防災組織カパー率	
算出方法	自主防災組織の組織されている地域の世帯数／管内全世帯数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 継続的な出前講座等の啓発事業により自主防災組織の必要性への理解が進んでいるものと考えられる。 (II) 出前講座等を活用して自主防災組織のさらなる結成促進と活動活性化を支援するため、継続して啓発を行う。	

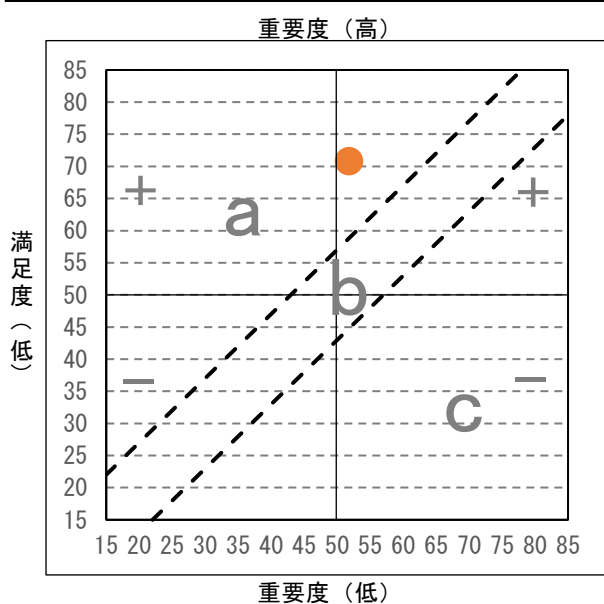
まちづくり指標	地区防災計画の取組件数	
算出方法	自主防災組織等が地区防災計画の策定に着手している件数＋策定済の件数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 地区防災計画の作成は、住民同士が集まり意見を交換する必要があるが、コロナ禍により困難であったため。 (II) 参考となる事例の紹介や地域に向いて、話し合いに参加するなど、作成支援を行う。	



まちづくり指標	災害発生時のために、日頃から家族で備えをしている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「災害発生時のために、日頃から家族で備えをしていますか」という設問に対して、『している』『いっくらかしている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座等の地域での啓発を行う機会が減少しているため。 (II) 出前講座などを行うとともに、防災普及・啓発イベント「くらしき防災フェア」を実施し、防災意識の向上を図る。	

まちづくり指標	防災訓練や防災教育の実施件数	
算出方法	自主防災組織等が実施した出前講座及び防災訓練等の件数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座や防災講演会、防災訓練について中止や規模縮小したため。 (II) 引き続き、地域の防災力強化を目的に、防災訓練や防災教育を実施する。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	70.77	51.80

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)  
 <グラフの見方>

	重要度 (高)		満足度 (高)
満足度 (高)	a (a+)	(b+)	(c+)
満足度 (低)	(a-)	b	c
	重要度 (低)		満足度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 地域集会所災害復旧 費助成事業	(Ⅰ) コミュニティ活動の拠点となる施設の整備を促進する。 (Ⅱ) 町内会・自治会またはコミュニティ協議会の活動拠点となる被災集会所の新築等の相談があったが、スケジュールの変更により、次年度となった。 (Ⅲ) 被災集会所の再建に当たり、地域の負担を軽減するため、補助率を6分の5とする特例を当面は継続し、引き続き支援を実施する。	0
災害特別融資利子補 給金	(Ⅰ) 災害の復旧に必要な融資を受けた被災者の金利負担軽減を図る。 (Ⅱ) 復旧に必要な融資を受けた金利負担の軽減を図るため利子補給金を交付した。令和4年度補助金交付件数：222件。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,963
被災者見守り・相談 支援等事業	(Ⅰ) 被災者がそれぞれの環境の中で安心した日常生活を送ることができる。 (Ⅱ) 平成30年10月以降、延べ約47,130世帯を訪問（令和5年3月31日現在） (Ⅲ) 令和5年度は継続して実施する。	47,074
★ 真備地区産業復興推 進事業	(Ⅰ) 真備地区の産業復興に向けた支援を行う。 (Ⅱ) 地域おこし協力隊1名を委嘱し、真備地区の地域資源の発掘・活用への取り組みを行った。また、地域おこし協力隊のうち、1名が起業するための経費の一部を補助した。 (Ⅲ) 引き続き、地域おこし協力隊による地域資源の発掘・活用の取り組みを行う。	7,867
住宅災害復旧等資金 利子補給金	(Ⅰ) 被災した住宅の復旧等のために受けた融資の金利負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 利子補給金交付件数512件 (Ⅲ) 被災者の申請に基づき、利子補給金を交付する。	9,629
災害復興推進事業	(Ⅰ) 真備地区復興計画を推進する。 (Ⅱ) 懇談会、委員会の開催およびパブリックコメント等の実施 真備地区復興計画の改定・公表 (Ⅲ) 令和5年度で完了	619
道路橋りょう災害復 旧事業	(Ⅰ) 被災した公共土木施設の早期復旧を図る。 (Ⅱ) 岡橋（真備町有井6号線）の舗装工、大日橋（真備町有井25号線）の取付道路工を実施した（県施工）。 (Ⅲ) 令和4年度で完了	12,430
被災高齢者向け住宅 再建支援事業	(Ⅰ) 被災高齢者世帯の持家再建を支援する。 (Ⅱ) 確認書交付件数4件 (Ⅲ) 令和6年3月31日まで申込み受付	18,878
応急仮設住宅運営経 費	(Ⅰ) 住居が全壊等の被害を受けた被災者に仮設住宅を提供する。 (Ⅱ) 建設型仮設住宅については全入居者が退去完了（令和4年度末時点） (Ⅲ) 令和4年度で完了	1,525
民間賃貸住宅家賃助 成事業	(Ⅰ) 災害公営住宅等の抽選に外れた世帯の住まいの確保を支援する。 (Ⅱ) 15世帯分の補助金を交付した。 (Ⅲ) 新規の申請受付は終了したので、現在補助を受けている世帯を対象として今後も継続して実施する。	4,623
★ 復興防災公園整備事 業	(Ⅰ) 小田川沿いにおける災害時の防災拠点や一時避難所の確保 (Ⅱ) 復興防災公園の敷地造成工事及び用地取得等を行うとともに、公園及び建屋の基本・実施設計業務委託が完了した。 (Ⅲ) 公園・建屋の整備を継続して実施する。	129,147
スクールカウンセ ラー配置事業	(Ⅰ) 真備地区の児童生徒等を支援し、心のケアを図る。 (Ⅱ) 真備地区の児童生徒の心のケアのため、研修会やカウンセリング等を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	707
海岸堤防等総合対策 事業	(Ⅰ) 浸水被害から、市民の生命・財産を守る。 (Ⅱ) 小原漁港堤防について、耐震対策工事を実施した。 (Ⅲ) 小原・勇崎・通生漁港海岸について、順次工事を実施していく。	88,106
★ ため池防災減災事業	(Ⅰ) 農業用水の確保と決壊による災害への防災・減災を図る。 (Ⅱ) 荒神池改修、別曾池改修などの工事・業務委託を実施した。 ため池ハザードマップを9地区で作成。水位計を6池に設置し、ため池の安全確保を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	225,802

事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 田んぼダム普及啓発事業	(I) 大雨時での内水被害の軽減を図る。 (II) 協力農家に対し、排水樹の取替や堰板の配布、畦畔補強を支援し、新たに24haの水田で田んぼダムの取り組みを実施した。 (III) 継続して実施する。	5,798
★ 宅地耐震化推進事業	(I) 宅地耐震化事業を推進し、災害に強い都市づくりをめざす。 (II) 令和3年度に計画した簡易地盤調査(13箇所)及び擁壁点検(3箇所)を実施し、その結果に基づき第二次スクリーニング計画を作成した。 (III) 令和5年度は早期に第二次スクリーニングを実施すべき盛土造成地1箇所について地元調整を行い、令和6年度詳細調査を実施する。	8,567
★ 真備緊急治水対策事業	(I) 小田川の安全性向上及び災害時等の緊急車両の通行等を確保する。 (II) 小田川の堤防強化に伴う、樋管補強工事の詳細設計および用地取得・物件補償を行った。 (III) 継続して実施する。	44,793
★ 真備緊急治水対策事業(有井橋の架け替え)	(I) 浸水被害から市民の生命を守る。 (II) 県が実施する有井橋架け替え費用の一部を負担した。 (III) 継続して実施する。	40,630
避難経路等確保事業	(I) 避難時に支障となる狭あい道路を解消し、安全な避難道路等を確保する。 (土木課) 真備町有井6号線の拡幅工事を行った。 (II) (災害復興) 岡田小、復興防災公園(仮称)のアクセス路等の整備を行った。 (III) 令和4年度で完了(真備町有井6号線) 令和5年度(R4→R5線)で完了(その他)	213,453
無電柱化推進計画事業	(I) 無電柱化による市内の防災力の強化、安全かつ円滑な交通の確保、及び景観の向上を図る。 (II) 駅前古城池霞橋線の事業を推進している。 (III) 継続して実施する。	12,159
水江橋梁(仮称)新設事業	(I) 外水による浸水被害を防止する。 (II) 負担金を拠出し、国直轄事業である水江橋梁新設事業を推進した。 (III) 令和4年度で完了	141,242
★ 建築物耐震診断等助成事業	(I) 建築物の耐震診断を促進することによって、地震による人的被害及び経済的被害を軽減する。 (II) 木造住宅、その他の建築物の耐震診断に要する費用の一部を補助した。交付件数：木造住宅耐震診断72件(内、現況診断44件、補強計画28件)、一般建築物耐震診断5件 (III) 耐震化の必要性や補助制度の内容について、広報活動を頻繁に行い継続して実施する。	9,569
★ 建築物耐震改修等助成事業	(I) 建築物の耐震改修を促進することによって、地震による人的被害及び経済的被害を軽減する。 (II) 木造住宅、その他の耐震改修等に要する費用の一部を補助した。交付件数：木造住宅15件(全体改修)、危険ブロック除去23件、要安全建築物除却工事1件、要緊急建築物耐震改修工事1件 (III) 耐震化の必要性や補助制度の内容について、広報活動を頻繁に行い継続して実施する。	68,041
★ 浸水対策事業	(I) 浸水被害から、市民の生命・財産を守る。 (土木課) 排水ポンプの修繕を実施した。これより、内水排除の能力が増している。 (II) (耕地水路課) 大西排水機場、松江生姫第2排水機場などの工事・業務委託を実施した。 (III) 継続して実施する。	369,666
★ 浸水対策事業(内水)	(I) 施設整備等により、浸水被害の予防及び軽減を図る。 (II) 吉岡川第1ポンプ場の整備事業を推進している。 (III) 令和6年度供用開始に向けて吉岡川第1ポンプ場の建設工事を進めていく。	66,900

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 災害備蓄品整備事業	(Ⅰ) 防災協定や災害時備蓄品の充実等により防災体制の一層の強化を図る。 (Ⅱ) 備蓄の在り方等の基本的な方針を示した「倉敷市備蓄計画」に基づき、避難所開設時における避難生活用品(水、アルファ化米、乾パン、生理用品等)や、災害対応資機材(パーテーション、テント、非常用発電機等)を購入し、各避難所や防災倉庫等へ配備した。また、災害時等における物資提供に関する協定を新たに締結した。 (Ⅲ) 引き続き、「倉敷市備蓄計画」に基づき、避難生活用品、災害対応資機材を整備する。また、防災体制の強化を図るため、協定の見直し、新規防災協定の拡大に努める。	33,162
★ 水防センター整備事業	(Ⅰ) 高梁川流域の大規模水害発生時に、水防活動等を円滑に行う。 (Ⅱ) 水防センターの建設工事に着手した。 (Ⅲ) 令和5年度完成に向けて、水防センターの建設工事を進めていく。	90,503
★ 備中地区消防相互支援事業	(Ⅰ) 高梁川流域6消防本部全体の消防力を高める。 (Ⅱ) 消防資機材の相互貸借に関する調整を実施した。花火大会主催者対象保安講習会を行い、42団体42人が受講した。屋外タンク貯蔵所の建替工事見学及び完成検査立ち会いを実施し、5消防本部40人が参加した。 (Ⅲ) 備中地区6本部の消防力強化を図るため、継続して実施する。	-
消防団機庫建設事業	(Ⅰ) 消防団施設の強化 (Ⅱ) 児島方面隊琴浦西分団第3部の地質調査及び機庫新築工事(令和5年度へ繰越)を行った。 (Ⅲ) 令和5年度で完了	17,777
★ 災害予防事業 (防災推進課分)	(Ⅰ) 市民の防災意識向上を図る。 (Ⅱ) 日頃から自宅や職場付近の災害危険性を認識し、災害の発生が予見される場合には迅速で適切な避難行動を行えるよう「令和5年度版 洪水・土砂災害ハザードマップ」を作成した。また、地区防災計画作成については、地域が主催する会合や訓練などに参加し、地域が自主的に作成できるよう支援を行った。その結果、4地区で計画を策定した。 (Ⅲ) 新たに「高潮ハザードマップ」を作成し、広報くらしき8月号とともに配布する予定。地区防災計画作成については、参考となる事例の紹介や地域に出向いて、話し合いに参加するなど、作成支援を実施する。	14,191
★ 自主防災組織育成事業	(Ⅰ) 自主防災組織の結成促進と活動の活性化を図る。 (Ⅱ) 出前講座を7件実施するとともに、自主防災組織の活動に必要な資機材を11団体に交付した。また、地域の集会所等を届出避難所(4施設)として認定し、備蓄品を配布した。 (Ⅲ) 自主防災組織のさらなる結成促進と活動活性化を支援するため、事業を継続して実施する。	4,590
★ 高梁川流域防災力強化事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域の一体性を醸成し、圏域内の防災力強化を図る。 (Ⅱ) 高梁川流域圏の住民を対象に、防災知識を身に付けるための啓発事業として、くらしき防災フェアを実施した。また、防災科学技術研究所から講師を招聘し、一般向けと自主防災組織対象とした防災講演会を実施した。 (Ⅲ) 引き続き、流域圏域の防災力強化を目的に、住民の自主的避難を促すための防災講演会等を計画します。	6,041
★ 要配慮者避難支援事業	(Ⅰ) 災害に備えた避難支援体制を整え、配慮を要する方の支援の充実を図る。 (Ⅱ) 避難行動要支援者名簿を更新し、避難支援等関係者へ情報提供を行った。自主防災組織を対象とした個別避難計画の講習会を実施するとともに、ケアマネージャー等に制度についての説明会を適宜実施した。 (Ⅲ) 継続して実施予定。また名簿掲載者について、個別避難計画の作成を推進していく。	1,284
★ 学校防災教育推進事業	(Ⅰ) 防災に関する知識や実践力を身につけるとともに防災意識の向上を図る。 (Ⅱ) 小学校で避難行動を考えるマイ・タイムライン検討ツールの逃げキッドを作成したり、小中学校においてハザードマップを活用して地域の災害リスクを学習することができた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,834
★ 高梁川流域データ活用による防災力強化事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域で共同利用できるシステムの活用推進を図る。 (Ⅱ) 防災関連オープンデータを活用した防災マップ作成支援システムを整備し、今年度は、市内の自主防災組織とともに、防災マップ作成支援システムを用い、防災マップを作成した。 (Ⅲ) 令和4年度で完了	2,400



事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 災害予防事業 (危機管理課分)	(Ⅰ) 頻発する災害に備えるため、災害対策本部機能を強化する。 (Ⅱ) 災害時の被害情報、避難情報及び気象情報を集約し、災害対策本部の迅速な意思決定を支援する総合防災情報システムの運用や、情報伝達の多様化等を実施した。 (Ⅲ) 災害対策本部機能の充実強化を継続して実施する。	33,951
★ 緊急情報提供無線システム管理運営事業	(Ⅰ) 災害時、緊急情報を迅速・確実に市民提供する。 (Ⅱ) 災害発生時に緊急情報を迅速・確実に提供する緊急情報提供無線システムの維持管理のほか、LTE化対応、設置箇所の建て替え工事等に伴う拡声塔の再整備等を行った。 (Ⅲ) 代替手段が充実してきたため令和7年度末で廃止する。	38,741
★ 安全・安心な施設情報の発信事業	(Ⅰ) 安全・安心な施設情報を利用者に発信することで安全体制を確立する。 (Ⅱ) 「安全、安心な施設情報の一覧」として、ホームページ上で倉敷市内の施設7か所を紹介している。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ 鉄道施設緊急耐震対策事業	(Ⅰ) 大規模な地震発生時に、安心・安全な鉄道輸送を確保する。 (Ⅱ) 緊急輸送道路と交差する水島臨海鉄道の千鳥町架道橋及び中畝架道橋の6橋脚の耐震補強工事に対して補助金を交付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	9,833
★ 地域健康危機管理体制推進事業(関係機関との調整)	(Ⅰ) 緊急時に迅速かつ有効な対応ができるよう健康危機管理体制を強化する。 (Ⅱ) 新型コロナウイルス感染症に関して、診療体制検討会議やwithコロナ体制連絡会議等に参加し、関係機関との連携強化を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	374
★ 新型コロナウイルスワクチン接種事業	(Ⅰ) 新型コロナウイルスワクチンの接種体制を構築する。 (Ⅱ) 新型コロナワクチン接種を実施し、新型コロナウイルス感染症の感染予防及び重症化予防を図った。 (Ⅲ) 令和5年度末まで実施する。	3,955,248



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-6 常に安全でおいしい水が届き、安心して暮らすことができる

### 市の施策

安全でおいしい水を安定的に届ける

### 基本方針

- ・ 水質管理体制を強化し、新たな浄水処理方法の検討なども進めることで、水道水の更なる水質向上を図り、「おいしい水道水」をめざします。
- ・ 水道施設などの効率化や耐震化を含めた整備を進めるとともに、広域での連携強化も含めて多発する自然災害への対応を強化し、災害時の水道被害を最小限に食い止めることをめざします。
- ・ 健全な水環境を守るため、啓発活動を進めるとともに、水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの利用にも取り組み、自然環境に配慮した事業運営を行います。
- ・ 様々な媒体を利用した新たな情報発信、情報収集に取り組み、水道利用者の求めるニーズを的確に捉え、水道事業サービスの向上を図ります。

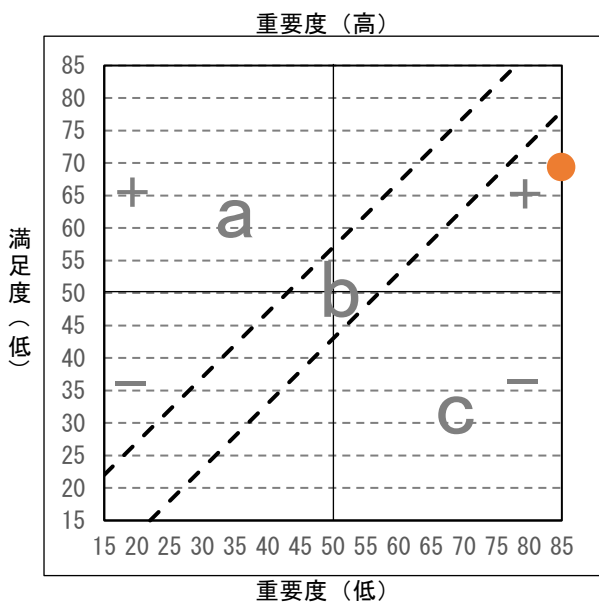
### 数値目標

まちづくり指標	水道基幹管路の耐震適合率	
算出方法	$(\text{基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長} / \text{基幹管路延長}) \times 100$	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 重要給水施設への管路の更新を優先的に行ったことによるものとする。 (II) ダウンサイジングによる施設規模適正化や管路DB方式の導入を検討し、効率的な管路耐震化の向上を図る。	

まちづくり指標	水道水を飲料水として直接飲んでいる人の割合（直接飲用率）	
算出方法	水道週間アンケート調査で、「ご家庭ではどのようにして水道水を飲んでいますか」という設問に対して、『そのまま飲んでいる』『冷やしたり、沸騰させたりして飲んでいる』『お茶やコーヒーなどで飲んでいる』『浄水器を利用して飲んでいる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 小学校での貯水槽を経由しない水飲み場の整備、出張授業等継続して実施したことによるものとする。 (II) 貯水槽を経由しない水飲み場を中学校でも整備し、引き続き水道水の安全性やおいしさの広報活動を実施する。	

まちづくり指標	残留塩素濃度のばらつき（標準偏差）	
算出方法	毎日検査で測定した残留塩素濃度の年間データから算出した標準偏差 ※注：数値が小さいほど毎日検査の対象となっている末端給水栓の残留塩素濃度のばらつきがなく、一定の濃度範囲内になっていることを示す	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	⬇	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 毎日検査のデータを基に塩素注入量の調整を行ったが、やむを得ず1箇所測定地点を変更した影響によるもの。 (II) 残留塩素濃度のばらつきを解消するために、塩素を追加する装置の設置を行う。	

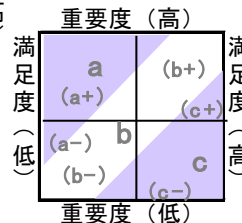
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c+	69.38	84.93

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
残留塩素濃度の適正管理	(I) 安全な水を送り届ける。 (II) 毎日検査のデータを基に塩素注入量の調整を行ったが、やむを得ず1箇所測定地点を変更した影響により、残留塩素濃度のばらつき(標準偏差)は基準値から0.010ポイント上昇し0.082となった。 (III) 残留塩素濃度のばらつきを解消するために、塩素を追加する装置の設置を令和5年度に発注する。	21,881
管路の計画的更新と耐震化	(I) 災害による被害を最小化する。 (II) 重要給水施設への管路の更新を優先的に行ったため、管路全体での耐震適合率は1.1ポイント上昇の23.9%となったことに対し、基幹管路の耐震適合率は42.3%となり、前年度比で0.8ポイント上昇となった。 (III) 効率的な管路の耐震化のためにダウンサイジングによる施設規模適正化や管路DB方式の導入を検討していく。	3,093,834
環境負荷の低減	(I) 省エネルギー化の推進等による環境負荷の低減 (II) 片島浄水場において、PPA事業による太陽光発電設備約480Kwを設置し令和5年2月より運用を開始。それにより、片島浄水場では新たに設置した太陽光発電設備から、昼間の電力を賄えるようになった。 (III) 太陽光発電設備に限らず更なる再生可能エネルギーの導入の可能性を検討し、ゼロカーボンシティに向け、電力の地産地消と脱炭素社会の実現に取り組む。	7,095
(仮称)水循環イベントの開催	(I) 水循環の大切さを利用者とともに考える気運の醸成を図る。 (II) 水道水の水源や水循環を考えるイベントとして8月1日水の日にあわせて、小学4年生を対象として小阪部川ダム見学を中心とした啓発活動を実施した。また、小阪部川ダムや高梁川の清掃活動に参加した。 (III) ダム見学に限らず水循環の啓発活動を検討していくとともに、水源の清掃など保全活動にも引き続き取り組む。	213
水道水の利用促進事業	(I) 直接飲用率の向上 (II) 出張授業を小学校8校、幼稚園1園で行い、貯水槽を経由しない水飲み場を小学校4校で整備した。また、Web版広報くらっぴいの公開など水道水の安全性についてPRを行い、直接飲用率は前年度より0.5ポイント上昇し98.3%になった。 (III) 小中学校で貯水槽を経由しない水飲み場を令和5年度に4校程度整備予定。また、小学校や幼稚園への出張授業を継続して実施する。	6,850

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-7 だれもが安全で快適に移動できる道路環境となっている

### 市の施策

安全で快適な道路環境を確保する

### 基本方針

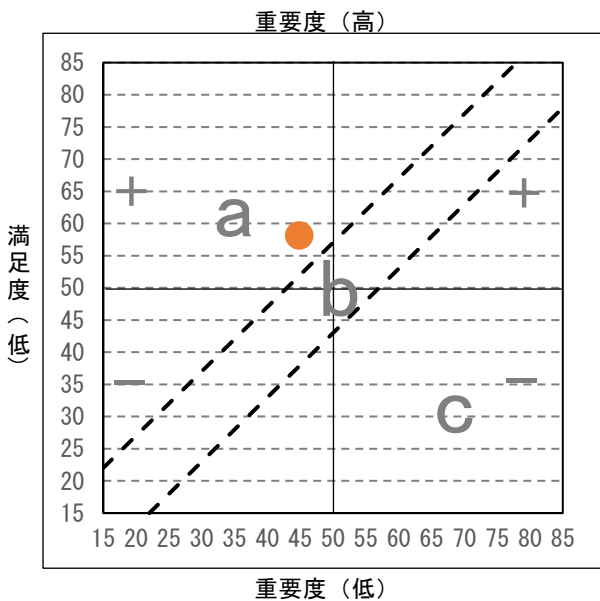
- ・ 交差点、水路沿いの道路などの危険個所で、交通安全施設の整備の充実に努めます。また、歩道のバリアフリー化を進め、道路の安全で快適な通行を確保します。
- ・ 市民一人ひとりが交通ルールを守り、正しい交通マナーを実践できるよう、幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージに合わせて交通安全教育を行うなど啓発活動の充実に努めます。
- ・ 橋りょう・トンネル・横断歩道橋・道路などの道路ストックの点検や補修による長寿命化を図り、維持管理費の縮減に努めるとともに、道路利用の安全・安心の確保を推進します。
- ・ 啓発活動や街頭指導などの継続により、通行の妨げとなる車の路上駐車や放置自転車の防止を推進します。

### 数値目標

まちづくり指標	交通事故（人身）発生件数	
算出方法	市町村別交通事故（人身）発生状況（岡山県警察本部交通部交通企画課）（暦年）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 基準年はコロナの影響があり、比較は難しいが、影響の少ない昨年度よりは減少しており、啓発の成果と考える。 (II) 警察等関係機関・団体とも連携し、交通安全運動や交通安全教室等を実施し、交通安全活動を推進していく。	

まちづくり指標	歩道のバリアフリーが進んでいると思う人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「市内の歩道のバリアフリーが進んでいると思いますか」という設問に対して、『思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↑	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 道路の新設及び既存の歩道部分の修繕について、順次バリアフリー化の工事を行っているため。 (II) 引き続き歩道のバリアフリー化を進め、高齢者や障がい者など誰もが安全で快適な通行を確保できるよう努める。	

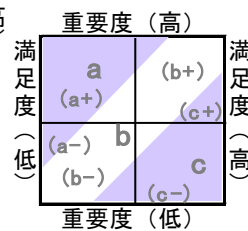
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	58.12	44.89
重要度に見合った満足度が得られていない領域(a) 重要度が平均値より高い部分(+)		

満足度 (高)

<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
カーブミラー整備事業	(I) 道路の安全な通行を確保し、快適な交通環境づくりを行う。 (II) 市民及び交通安全団体等からの要望により119基を新規に設置し、257基を修繕した。 (III) 継続して実施する。	37,325
障がい者や高齢者にやさしい公共施設改修事業	(I) すべての人々が暮らしやすいまちづくりの推進を図る。 (II) 味野第2公園入口の段差の解消を行った。 (III) 継続して実施する。	654
交通安全施設整備事業	(I) 交差点等での交通事故や用水路等の転落事故の減少を図る。 (II) 上東77号線外1線防護柵設置工事ほか42本の交通安全施設整備の工事を実施した。 (III) 継続して実施する。	382,466
交通安全対策関連事業	(I) 交通安全意識の普及と高揚により、交通事故防止の徹底を図る。 (II) 交通安全教室を566回(34,466人)実施し、また、警察や交通安全関係団体等と連携して啓発活動等を実施し、交通安全意識の普及・高揚を図り交通事故防止に努めた。 (III) 継続して実施する。	38,721
道路ストック長寿命化事業	(I) 効果的な老朽化対策の推進を図る。 (II) 橋梁点検1,174橋、橋梁設計26橋、橋梁補修工事79橋、トンネル補修工事1本を実施した。 (III) 継続して実施する。	473,711
違法駐車対策事業、 放置自転車対策事業	(I) 円滑で安全な通行を確保し、快適な生活環境の保持を図る。 (II) 倉敷駅前交差点から倉商東交差点までの区間において、年間206日街頭指導を実施し、1,069台を指導した。倉敷駅周辺の自転車放置禁止区域において月2回撤去作業を行い、54台の自転車等を撤去し、7台を返還した。 (III) 継続して実施する。	20,742

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-8 市中心部の拠点性が高まるとともに、各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりが行われている

### 市の施策

各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりを推進する

### 基本方針

- ★ 各地域・地区の拠点の役割に応じた都市機能の集積強化や官民連携での土地の有効活用などを図ることにより、暮らしを支え、活気を生み出す魅力的な市街地を形成します。
- ★ 国道2号や主要地方道、都市計画道路などの幹線道路網の整備を進め、拠点間相互の連携により、まち全体としての総合力を強化します。
- ★ 市中心部の都市基盤整備を推進するとともに、地域の実情に応じた市街地整備を図ります。また、まちなかを車中心からひと中心の魅力ある空間へと転換していきます。
- ★ 倉敷駅付近の鉄道を連続して高架化し、交通円滑化を図るとともに、安全性や防災性の向上、市街地の分断解消を図ることにより、市中心部の拠点性を高めます。

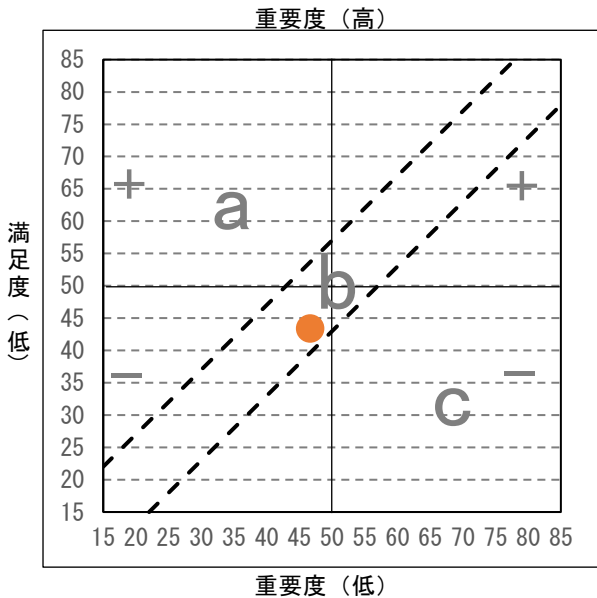
### 数値目標

まちづくり指標	倉敷駅を中心とする中心市街地における歩行者・自転車通行量	
算出方法	中心市街地エリア内27か所における、休日1日の午前10時から午後6時までの歩行者及び自転車通行量（人／日）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客等の人出が減少したため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 町家・古民家の再生整備やイベント開催など、中心市街地内の賑わい創出、回遊促進に繋がる取り組みを支援する。	

まちづくり指標	自分の住んでいる地域に魅力があると感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「自分の住んでいる地域・地区に魅力を感じていますか」という設問に対して、『感じている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100※「地域・地区」とは、倉敷・水島・児島・玉島・庄・茶屋町・船穂・真備の各地域・地区をさす	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の特色を活かした、魅力創出に繋がるイベントが自粛されたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) まち歩きやワークショップなど、地域の魅力発掘に繋がる事業を展開し、SNS等を活用した情報発信も行う。	



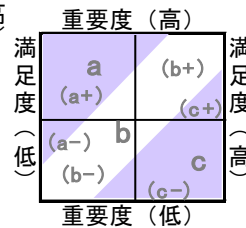
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	43.36	46.65

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 都市計画道路整備事業	(I) 幹線道路のネットワークの強化、渋滞緩和による利便性や安全性の向上 (II) R4. 8に矢柄西田線 (4工区) を部分供用開始。 R4. 12に柏島道越線を部分供用開始。 (III) 継続して実施する。	318,068
★ 倉敷駅周辺第二土地区画整理事業	(I) 都市基盤整備を着実に進め、都市的土地利用への転換を図る。 (II) 移転計画に基づき、補償算定のための建物調査及び建物の除却等に係る補償を行い、道路改良工事及び宅地造成工事を実施。 (III) 継続して実施する。	2,812,044
★ 中心市街地活性化事業	(I) JR倉敷駅南北の回遊性を向上させ、中心市街地内の賑わい創出を図る。 (II) JR倉敷駅南北エリアでのイルミネーション装飾やまち歩き等のイベント開催、市民の主体的なまちづくり活動に対する支援 (3件) 等、賑わい創出や回遊性向上に繋がる事業に官民連携して取り組んだ。 (III) 令和3年度から令和7年度までを計画期間とする倉敷市中心市街地活性化基本計画 (第3期計画) に掲げる目標の達成に向けて、継続して実施する。	21,387
まちづくり基金事業	(I) 貴重な町並みを守るとともに、市民主体のまちづくり活動を支援する。 (II) 平成26年度から事業を実施し、令和4年度までに83件の採択を行い新たなにぎわい創出の支援を行ってきた。 (III) 倉敷市中心市街地活性化基本計画 (第3期計画) の達成に向け、継続して事業を実施する。また、ホームページ等を活用して本制度の周知を図っていく。	28,620
★ 倉敷駅付近連続立体交差事業	(I) 交通の円滑化、安全性や防災性の向上、市街地の分断解消を図る。 (II) 岡山県事業評価監視委員会での再評価に向けて、県等と協力し協議、検討、調査を行った。 (III) 事業主体である岡山県及び鉄道事業者等と連携し、継続して事業推進に取り組む。	1,027

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-9 便利に公共交通が利用でき、その周辺に住まいや生活に必要な施設が集まっている

### 市の施策

公共交通を便利に利用することができる環境をつくる

### 基本方針

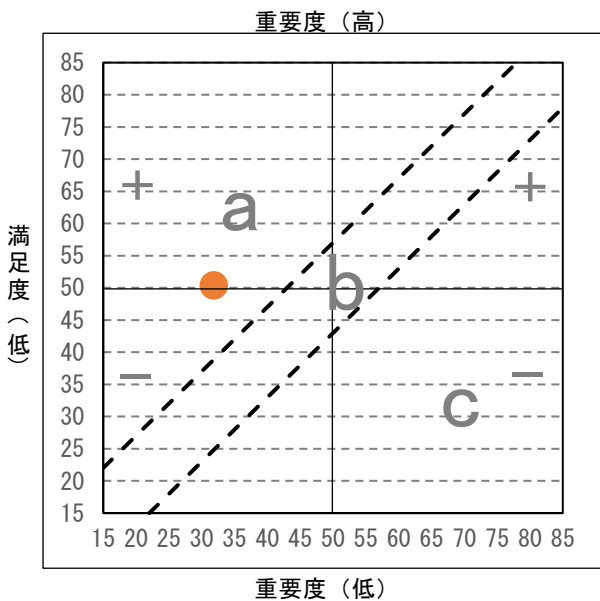
- 公共交通により、各地域・地区の拠点にアクセスできる環境を整備していくとともに、その沿線での暮らしを支える日常生活サービス施設や居住を誘導します。
- 主要な駅とその周辺の病院・福祉・商業施設などのあるエリアについて、一体的にバリアフリー化を推進することで、高齢者や障がい者など、すべての人が便利で快適に利用できる環境整備を進めます。
- 公共施設などの最適な配置の実現に向け、コンパクトなまちづくりの取り組みと併せて、総合的な管理運営を進めます。

### 数値目標

まちづくり指標	水島臨海鉄道・井原鉄道・路線バス・コミュニティタクシーの年間利用者数	
算出方法	①と②の合計①鉄道の年間利用者数：年間乗降客数÷2（乗って降りるため）②路線バス、コミュニティタクシーの年間利用者数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者が外出を控えたことに伴い、公共交通の利用も低調となったため。 (II) 回復傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受けて、更に利用者増が期待されるため継続する。	

まちづくり指標	交通弱者（移動手段がない人）が不便なく移動できていると思っている人の割合	
算出方法	「公共交通について」の市民モニターアンケートで、「過去3か月間の主な外出手段は」（複数回答）という設問に対して、『市内の鉄道、路線バス、コミュニティタクシー、介護・福祉タクシー、福祉有償運送の車両』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者が外出を控えたことに伴い、公共交通の利用も低調となったため。 (II) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受けて、徐々に人々の活動が再開されつつあることから継続する。	

## 市民の重要度・満足度

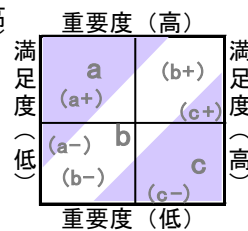


領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	50.34	31.85

重要度に見合った満足度が得られていない領域 (a)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)

<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度 決算額 (千円)
バス路線維持費補助事業	(I) バス路線の維持及び幹線等の利便性を確保する。 (II) 市内を運行する路線バス事業者に対し運行経費の一部を補助することで、バス路線の維持及び幹線等の利便性が確保された。 (III) 継続して実施する。	68,542
地域公共交通計画策定事業	(I) 持続可能な公共交通を確保する。 (II) 倉敷市地域公共交通会議で協議を重ねるとともに、パブリックコメントを行い、令和5年3月に地域公共交通計画を策定した。 (III) 計画策定は令和4年度に完了した。今後計画に基づき各種事業を推進する。	4,246
交通バリアフリー推進事業	(I) 改正バリアフリー法に対応した駅のバリアフリー化を促進する。 (II) 関係機関との協議を継続しながら、バリアフリー化の実現可能性を模索した。 (III) 関係機関との協議を継続する。	-
コミュニティタクシー事業	(I) 交通不便地域の解消を図る。 (II) コミュニティタクシーを運行する自治会等に対し補助金を交付することで、交通不便地域の移動手段が確保された。 (III) 継続して実施する。	29,188
井原線補助事業	(I) 井原鉄道の安定した運行を確保する。 (II) 井原鉄道が行った線路や車両など輸送のための施設管理費 (インフラ部分) に対し補助金を交付することで、安定した運行が確保された。 (III) 継続して実施する。	28,750

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-10 地域の特色が生かされ、自然と調和した、だれもが住みやすい生活環境となっている

### 市の施策

地域の特色が生かされ、だれもが住みやすい生活を支援する

### 基本方針

- ・ 各地域・地区の拠点や公共交通沿線での便利な暮らしから郊外部でのゆとりある暮らしまで、様々なライフスタイルやワークスタイルに合わせて、居住地が選択できるまちづくりを進めます。
- ★ 市内全域での活性化を推進するため、まちづくりに取り組む組織への支援を行い、各地域の個性や魅力、資源などを生かしつつ、それぞれの実情に応じたまちづくりを進めます。
- ・ 生活の基本となる住環境整備に向け、身近な道路や橋りょう、公園などの整備・維持管理に努め、安全性と利便性の向上を図ります。
- ・ 市営住宅の効果的な長寿命化を計画的に進めるとともに、高齢者や被災者など、住まいの確保に配慮が必要な方向への住宅の供給を促進します。
- ・ 空き家などの発生を抑制するとともに管理不十分な空き家などを減らし、生活環境の保全を図ります。

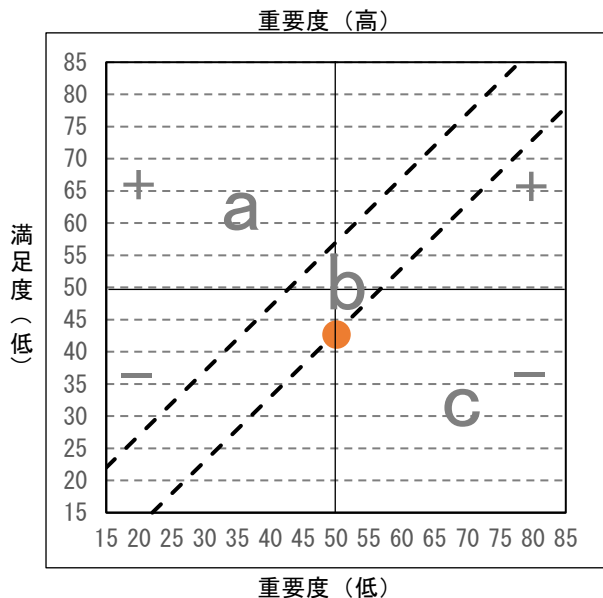
### 数値目標

まちづくり指標	現在住んでいるところが住みやすいと感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「現在住んでいるところが住みやすいと感じていますか」という設問に対して、『感じている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 生活環境の向上に繋がる各事業の効果が現れていると考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 生活環境の向上に繋がる事業を今後も継続する。	

まちづくり指標	地域の歴史やまちづくりに関心をもっている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「あなたの住んでいる地域の歴史やまちづくりに関心をもっていますか」という設問に対して、『もっている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の特色を活かした、関心向上に繋がるイベントが自粛されたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 新たな日常に対応しつつ地域の特色を活かす、市民主体のまちづくり活動を支援する。	

まちづくり指標	身近な都市公園等に歩いて行ける地域の割合	
算出方法	都市公園等（遊園・街区公園・近隣公園・地区公園・子ども広場）の各公園を中心とした半径250m（一般的な徒歩圏域）の円で囲まれた区域の合計面積／工業専用地域を除く市街化区域の面積×100。基準値はH30の値。令和元年度は79.2%。	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 街区公園をはじめとした都市公園等の整備を着実に進めてきたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 今後も同様に都市公園等の整備を進めて行く。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	42.66	50.08

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
<グラフの見方>

重要度 (高)		重要度 (低)	
満足度 (高) a (a+)	b (b+)	c (c+)	
(a-)	b (b-)	c (c-)	満足度 (高)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
★ 児島のまちづくり	(I) 児島地域内に新たな集客拠点を整備し、賑わいと活力の創出を図る。 (II) 「鷺羽山・下津井まちづくり推進協議会」において、アーティストインレジデンス事業(松島)などを通じてエリアの魅力向上を図った。 (III) 協議会が中心となり、鷺羽山・下津井地区と松島を一体として活用することで地域の賑わいと活力の創出に繋げていく。	1,344
★ 玉島のまちづくり	(I) お茶文化と町並みを玉島地域の魅力として賑わいと活力を創出する。 (II) 「玉島湊まちづくり推進協議会」において、お茶文化の継承・育成のため、お茶栽培を開始したほか、お茶会初心者用パンフレットや玉島の旬カレンダーを作成するとともに、SNSを活用した情報発信を行った。 (III) お茶文化と町並みを玉島の魅力として、今後も協議会を中心に、賑わいと活力を創出する取り組みを継続して実施する。	523
★ 水島のまちづくり	(I) 水島地区の新たな魅力を発掘し、賑わいや活力を創出する。 (II) 住民や地元団体、事業者など地域の多様な担い手で組織する「水島まちづくり協議会」にて、テーマごとに部会を設置し、活動を開始した。 (III) 協議会がまちづくりのプラットフォームとなり、持続可能なまちづくりにむけて活動を継続する。	441
町家・古民家で紡ぐ ★ 魅力拠点づくりと技術伝承事業	(I) 高梁川流域圏域内の町家・古民家を活用し、新たな魅力拠点を創出する。 (II) 圏域内の町家・古民家を会場に、伝統的修理技術を伝えるワークショップや利活用を考えるシンポジウムを開催し、町家・古民家の保存・再生・活用を図るとともに、必要な技術伝承、魅力発信を行った。 (III) 町並み保存の意識付けを行うとともに、町家・古民家の持続的な活用策や保全策を検討する場を提供するため、今後も継続して実施する。	4,696
公園整備事業	(I) 心身の健康維持・増進に寄与する緑とオープンスペースの確保 (II) グリーンパーク真備ほか3公園の施設改善等を進めた。 (III) 継続して実施する。	116,261
都市公園長寿命化再整備事業	(I) 公園における安全・安心の確保と維持管理費の平準化 (II) 戸島公園ほか7公園35施設の更新を完了するとともに、堀南公園ほか2公園10施設の更新に着手した。 (III) 継続して実施する。	105,985
市営住宅長寿命化維持管理事業	(I) 市営住宅等の延命化を図るとともに、施設の維持管理コストを削減する。 (II) 市営中庄団地21棟給水設備修繕などを行った。 (III) 倉敷市営住宅等長寿命化計画に基づき、市内の老朽化した市営住宅等に対し、計画的な修繕及び改修工事を今後も継続して実施する。	97,415
空家等対策事業	(I) 空家等対策計画に基づく施策を総合的かつ計画的に実施する。 (II) 特定空家等又は特定空家等になるおそれのある管理不適切な空家等の除却工事等の費用の一部を補助した。交付件数: 30件 (III) 継続して実施する。	22,890



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-11 先人から受け継いだ歴史的・魅力的な景観が、市内各地で守られている

### 市の施策

歴史的・魅力的な景観の形成を推進する

### 基本方針

- ★ 伝統的建造物群保存地区などの建物の保存や修理などへの支援を継続して行うとともに、市民の意識を高めて、歴史ある町並みや景観の保存に努めます。
- ★ 景観づくりに関する市民や事業者の参加意識の醸成を図り、市民団体の活動を支援するとともに、空き家などの活用も含めた景観保全を進めます。
- ★ 本市のこれまで培ってきた自然、歴史・文化、市街地などに区分した類型別の方針のもと、地域それぞれの貴重な景観資源を守り、地域の特性を生かした良好な景観形成を推進します。

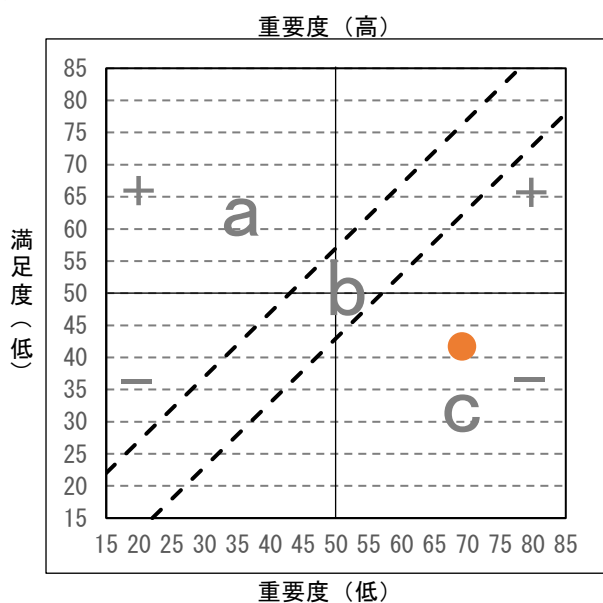
### 数値目標

まちづくり指標	歴史的・魅力的な景観が保全されていると感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「市内では、歴史的・魅力的な景観が保全されていると感じていますか」という設問に対して、『感じている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症による影響で、歴史的町並みに触れる機会が増え難い状況であった。 (II) 今後も引き続き、伝統的建造物群保存地区などの建物を修理、修景に対する支援を行っていく。	

まちづくり指標	倉敷市の景観がよくなったと感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「倉敷市のまちなみや自然の風景は、全般的にどうなつたと感じますか」という設問に対して、『よくなった』『少しよくなった』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100（現状値は市民モニターアンケートによる）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 倉敷市都市景観条例に基づく届出、支援事業等の成果が出ているものと考えられる。 (II) 今後も引き続き届出、支援事業等を活用した景観誘導を継続する。	

まちづくり指標	倉敷市の景観をよくする取組に関わりたいと思う人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「倉敷市の景観をよりよくしていく取組に関わりたいと思いますか」という設問に対して、『積極的に関わりたい』『どちらかと言えば関わりたい』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100（現状値は市民モニターアンケートによる）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を自粛し景色や風景などに触れ合う機会が少なくなったためと考えられる。 (II) 景観に配慮した建築物等を増やし良好な景観の整備を進めることで、景観への関心を高める。	

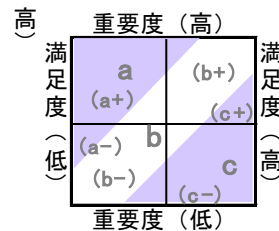
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	41.67	69.19

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 < グラフの見方 >



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

### 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
★ 伝統的建造物群保存地区・伝統美観保存地区・町並み保存地区保存事業	(I) 伝建地区・伝美地区・町並み保存地区内の歴史的な町並みを保存する。 (II) 建物の外観の修理・修景に対して伝統的建造物群保存地区で6件、伝統美観保存地区で1件、玉島町並み保存地区で2件の補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	51,442
★ 市民参加による景観づくりの促進	(I) 歴史的・文化的な建造物を後世に引き継ぎ、地域の愛着や誇りを醸成する。 (II) 条例で定める届出制度により、建築物に係る51件のうち、48件について事前協議が行われた。 (III) 継続して実施する。	-
★ 景観形成重点地区景観向上推進事業	(I) 倉敷市の広域的な玄関口にふさわしい風格ある景観形成を促進する。 (II) 地区指定に伴い新しい基準に適合していない突出し広告物(掲出物件)の除却2件について、補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	2,788
★ 旧街道景観整備事業	(I) 美観地区に繋がる旧街道沿いの歴史的な町並み景観の保全を図る。 (II) 旧街道から望見できる建築物の外観修景の1件について、補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	2,000

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-12 犯罪が少なく、安心して暮らしている

### 市の施策

安心して暮らせるよう各種相談体制や防犯対策の充実を図る

### 基本方針

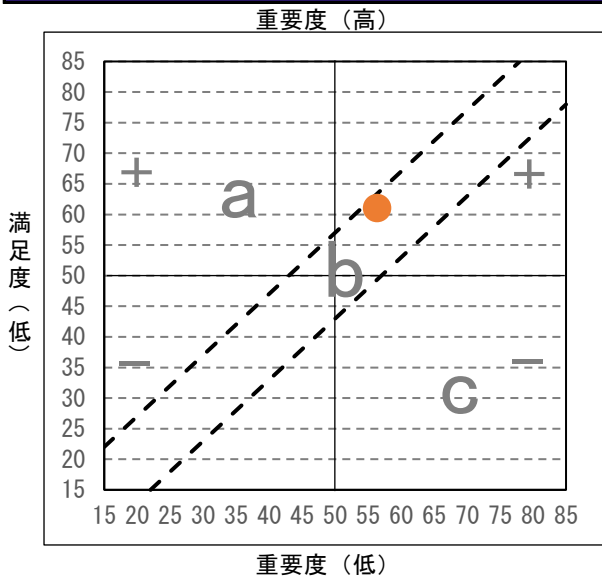
- ・ 地域住民や教育機関、警察などの関係団体と連携し、地域住民を主体とした自主防犯組織などの地域防犯体制の充実を図るとともに、「地域の安全は地域で守る」という自主防犯意識の啓発に努めます。
- ・ 警察をはじめとした関係機関との連携により、犯罪の手法や街頭犯罪、消費トラブルの情報を迅速に収集・提供し、犯罪や被害の未然防止に努めます。
- ・ 市民生活相談窓口の周知に努めるとともに、市民の抱える問題に早急かつ的確に対応できる相談体制の充実を図ります。
- ・ 商品表示の適正化を進め、安心して暮らせる消費生活環境を整えます。

### 数値目標

まちづくり指標	刑法犯認知件数																																								
算出方法	刑法犯認知件数（岡山県警察本部生活安全部生活安全企画課）（暦年）																																								
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>刑法犯認知件数（暦年）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>2,419</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>2,025</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>2,323</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R7</td><td>2,200</td><td></td></tr> <tr><td>R8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>2,000</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	2,419		R2			R3		2,025	R4		2,323	R5			R6			R7	2,200		R8			R9			R10			R11			R12	2,000	
年度	目標値		実績値																																						
R1	2,419																																								
R2																																									
R3		2,025																																							
R4		2,323																																							
R5																																									
R6																																									
R7	2,200																																								
R8																																									
R9																																									
R10																																									
R11																																									
R12	2,000																																								
目指す方向性	↓																																								
進捗状況	A																																								
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 前年より窃盗犯が増加したが、地域や警察との連携による地域防犯活動、広報啓発が一定の成果を上げている。																																								
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き啓発や活動支援を行っていく。																																								

まちづくり指標	法律相談や消費生活相談など、問題を相談できる市の窓口を知っている人の割合																																		
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「法律相談や消費生活相談など、問題を相談できる市の窓口を知っていますか」という設問に対して、『知っている』『おおむね知っている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																																		
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>法律相談や消費生活相談など、問題を相談できる市の窓口を知っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R3</td><td></td><td>46</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>46.8</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R7</td><td>60</td><td></td></tr> <tr><td>R8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>80</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R3		46	R4		46.8	R5			R6			R7	60		R8			R9			R10			R11			R12	80	
年度	目標値		実績値																																
R3			46																																
R4		46.8																																	
R5																																			
R6																																			
R7	60																																		
R8																																			
R9																																			
R10																																			
R11																																			
R12	80																																		
目指す方向性	↑																																		
進捗状況	B																																		
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 広報紙、ホームページ、SNS等での広報により、一定の効果があつたものと考えられる。																																		
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き、広報紙、ホームページ、出前講座及びSNSを活用した情報発信を行い、相談窓口の周知を図る。																																		

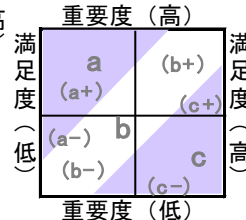
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	61.00	56.37

重要度に見合った満足度が得られている領域(b)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 <グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
「地域安全パトロール」関連事業	(I) 安全かつ安心して暮らすことのできるまちづくりを推進する。 (II) 自主防犯パトロール隊2団体に補助金を交付した。青色防犯パトロールを37回実施した。 (III) 継続して実施する。	299
「犯罪のない地域社会づくり」関連事業	(I) 犯罪のない明るく住みよい地域社会の実現を図る。 (II) 防犯連合会等に補助金を交付し、地域防犯活動を支援した。コロナウイルス感染拡大防止のため、各会議やイベント等は自粛し、接触を避けた防犯活動や啓発等を行った。 (III) 継続して実施する。	17,719
特殊詐欺等被害防止対策事業	(I) 自宅への架電による高齢者の特殊詐欺被害等の未然防止 (II) 迷惑電話防止機能付き電話機等購入補助(申請53件、補助総額329,900円)及び通話録音装置貸出(申請13件)を行った。 (III) 固定電話への架電による特殊詐欺を未然に防止することは、高齢者の経済的・心理的財産を守ることにつながるため、継続して実施する。	330
消費者啓発事業	(I) 消費生活に関する情報提供、教育、学習機会の充実 (II) 消費生活学級(学級生901人)の自主的な活動支援や出前講座(1,116人参加)を実施した。また、広報紙別冊を作成し、全世帯に配布した。 (III) 消費者啓発と地域での消費生活に関する自主的な活動を支援することは、市民の消費生活の安定と向上につながるため、継続して実施する。	2,569
地方消費者行政活性化事業	(I) 消費者知識の普及・啓発及び消費生活センターの機能強化 (II) 主に若年者への消費者啓発として、市内中学3年生、高校3年生、大学入学生に対し啓発用リーフレット等を約16,260部を配付した。 (III) 契約知識が不足している若年者、合理的な配慮を必要とする高齢者等への消費者知識の普及啓発は重要性が高いため、継続して実施する。	1,567
市民相談事業	(I) 市民の抱える様々な問題を解決に導き、市民生活の安定向上を図る。 (II) 相談件数は4,234件で令和3年度に比べ441件増加した。増加の原因として、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置がなくなり、専門家による相談会を中止する回数が前年度より減ったことが考えられる。 (III) 継続して実施する。	9,485
消費生活相談事業	(I) 市民の消費生活の安定及び向上への寄与 (II) 消費生活相談件数は3,194件。令和3年度と比較して153件増加した。 (III) 消費者トラブルは早期相談により解決につながる。インターネット等の普及により今後ますます複雑な契約トラブルが増加するため、継続して実施する。	13,210
消費者行政執行事業	(I) 適正な商品表示の実施及び適正消費者取引の確立 (II) 商品の表示に関する相談や疑義情報を受け付け、適正な表示に関する情報提供やアドバイスを99件実施した。 (III) 適正表示が付された商品が流通することは、安全・安心な消費生活の確立につながるため、継続して実施する。	33
計量取締事業	(I) 適正計量に対する消費者の信頼及び利益の確保、計量知識の普及啓発 (II) 特定計量器定期検査(2,822器)、燃料油メーター立入検査(178器)、商品量目検査(試買75個、立入216個)、消費生活モニター内容量調査(1,490個)を実施した。 (III) 正確な計量器の使用による、適正に計量された商品等の市場への提供は、消費者利益の確保につながるため、継続して実施する。	8,573

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-1 だれもが自分の健康に関心をもち、健康づくりに自ら取り組んでいる

### 市の施策

だれもが取り組める健康づくりを支援する

### 基本方針

- ★ 広報活動の強化や未受診者への働きかけなどにより、各種健康診査の充実や、受診の重要性の周知徹底を図り、健康管理の支援によって、市民の生活習慣の見直しや病気の早期発見と治療、健康寿命の延伸につなげます。
- ★ 新たな感染症の出現やその感染症に対する新たな予防法など、的確な情報が効果的に提供できる体制づくりを進め、予防接種の勧奨なども含めた感染症予防の普及啓発によって、予防対策を進めます。
- ★ 健康づくりボランティアの地域での活動支援や、企業との協働による職場での健康づくりの支援によって、生活習慣病に関する知識の普及啓発や健康教育、健康づくり活動の機会を充実し、市民一人ひとりの主体的な健康づくりを促進します。
  - ・ 産業保健、教育、地域保健分野などの関係機関や地域との連携を一層強化し、心の健康づくりについての講座や健康相談の充実など自殺予防対策を推進するとともに、災害被災者への心のケアを行います。
  - ・ 情報機器を活用するなどし、子ども自身が自分の健康に興味をもち、健康を保つための正しい生活習慣や、生涯を通じて運動に親しむ習慣を身につける契機となるよう、時代に合った教育に取り組みます。

### 数値目標

まちづくり指標	健康寿命 【男性】
算出方法	日常生活動作が自立している期間の平均KDB（国保データベースシステム）データより、介護保険の要介護度2～5を『不健康』、それ以外の状態を『健康』と規定して算出
みらい創生戦略	★
目指す方向性	➡
進捗状況	A
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) 国平均も同様に延伸。厚労省はがんや心臓病、脳卒中などの発生率の低下をあげている。喫煙率の低下や高齢者の社会参加の広がりも一因としている。</p> <p>(II) 市の健康課題である糖尿病と高血圧症への取り組みを、次期健康増進計画においても継続して推進する。</p>

まちづくり指標	健康寿命 【女性】
算出方法	日常生活動作が自立している期間の平均KDB（国保データベースシステム）データより、介護保険の要介護度2～5を『不健康』、それ以外の状態を『健康』と規定して算出
みらい創生戦略	★
目指す方向性	➡
進捗状況	A
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) 国平均も同様に延伸。厚労省はがんや心臓病、脳卒中などの発生率の低下をあげている。喫煙率の低下や高齢者の社会参加の広がりも一因としている。</p> <p>(II) 市の健康課題である糖尿病と高血圧症への取り組みを、次期健康増進計画においても継続して推進する。</p>





施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
国保特定健診・保健指導事業	(I) 生活習慣病予防に着眼して事業を実施し、被保険者の健康増進を図る。 (II) メタボリックシンドロームに着眼した健診・保健指導を医療機関や地区会場で実施し、約17,000人が受診した。保健指導対象者約1,700人に保健指導利用券を送付し利用勧奨した。また、保健指導として、糖尿病予防教室を実施した。 (III) 糖尿病等の生活習慣病の予防に向け、継続して実施する。	228,498
国保特定健診受診率向上推進事業	(I) 被保険者の健康意識の向上と特定健康診査実施率の向上を図る。 (II) 未受診者への通知やSMSによる受診勧奨、新規加入者への電話勧奨、人間ドック・職場健診結果提供依頼、医療機関への受診勧奨依頼等の事業を実施した。さらに、市内2か所に横断幕を設置し受診啓発を行った。 (III) 国民健康保険特定健診の受診率向上に向け、継続して実施する。	15,407
健康増進事業	(I) がんなどの生活習慣病を早期発見・予防する。 (II) 胸部レントゲン検診等各種がん検診を市内医療機関や地区会場で実施した。 (III) がんなどの生活習慣病の早期発見や予防のため、各種健診を継続して実施する。	693,166
★ 女性の健康づくり推進事業	(I) 職場健診等の機会の少ない若い女性に、健康診査の受診機会を提供する。 (II) 該当年齢の女性全員にがん検診と併せたけんしん受診権を送付し、2,184人が一般健康診査を受診した。 (III) 健康診査を受診することで、やせ・貧血・生活習慣病等の早期発見、早期治療に繋がるため、継続して実施する。	10,955
★ 健康診査受診率向上推進事業	(I) 各種健(検)診を周知し、健康への関心を高め、受診率向上を図る。 (II) 倉敷市内約184,000世帯へ「倉敷けんしんガイド」を送付し、3月末には翌年40才になる市民5,841人にがん検診の受診勧奨通知を送付した。 (III) 各種健(検)診を周知する機会を多く持つことが受診率向上に繋がるため、継続して実施する。	3,951
★ 感染症対策事業	(I) 感染症を予防する。 (II) 新型コロナウイルス感染症を含めた、感染症予防のための普及啓発を行うとともに、感染症発生時には迅速に積極的疫学調査と保健指導、健康診断、移送等を実施し、まん延防止と患者支援に努めた。 (III) 感染症の発生とまん延防止に向けた対策を継続的に実施するとともに、有事の患者移送体制を関係機関と連携し整備する。	1,495,367
高齢者インフルエンザ等予防接種事業	(I) 高齢者のインフルエンザや肺炎球菌等の感染予防及び重症化予防 (II) 4年度の接種者数(81,877人)は3年度(82,164人)より若干減少したが、接種率はほぼ同程度だった。高齢者肺炎球菌ウイルス予防接種については、昨年度とほぼ同じ接種率だった。 (III) 高齢者のインフルエンザや肺炎球菌ワクチン接種率向上のため、今後も助成を継続する。	362,652
★ 風しん対策事業	(I) 胎児の先天性風しん症候群の予防 (II) 抗体検査受検者数(891人)は令和3年度(702人)より増加したが、予防接種費用の助成者数(516人)は令和2年度以降とほぼ同程度だった。 (III) 先天性風しん症候群の発生予防のため、今後も助成を継続する。	9,287
★ 暮らし健康応援事業	(I) 健康意識の向上や健康行動の実践に向けたきっかけづくりを行う。 (II) 暮らし健康応援講座(34回874人)、暮らし健康応援ガイドの発行(年2回各3,000部)、測定体験(82回延6,175人)、暮らし健康応援ポイント事業(WEB・アプリ参加者累計4,952人) (III) 市民の健康意識の向上に向け、より多くの市民に参加してもらえよう、実施方法を見直しながら継続する。	1,862
★ 「健康暮らしき21」推進事業	(I) 市民の主体的な健康づくりを促進し、よりよい生活習慣へと導く。 (II) 重点分野6分野「運動」「栄養」「歯の健康」「タバコ・アルコール」「健康管理」について、糖尿病予防や自然になれる食環境づくりを切り口に推進した。 (III) すべての人の健やかな生活習慣の形成に向け、「個人の行動変容への働きかけ」と「自然に健康になれる環境づくり」を継続して実施する。	2,212

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 「運動で健康づくり」推進事業	(Ⅰ) 手軽に取り組める運動としてウォーキング等を推奨し実践を促す。 (Ⅱ) マップは55学区完成しており、希望があった学区は防災の視点を取り入れたものに改訂した。また、マップを活用したウォーキング大会を30回(1,706人)開催した。 (Ⅲ) マップを活用したウォーキング大会を継続して実施する。希望がある学区は、随時マップの改訂を行う。	324
★ 健康づくり事業	(Ⅰ) 市民が自ら心身の健康を維持・増進し健康寿命を伸ばす。 (Ⅱ) ヘルスチェック：394人、健康づくり実践セミナー：97人、栄養セミナー：160人、休養セミナー：263人、おでかけ健康教室：106回・1,569人、出前健康教室：84回・1,144人 (Ⅲ) 事業内容及び事業形態について、見直しを行いながら継続して実施する。	74,721
自殺対策事業	(Ⅰ) 誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざす。 (Ⅱ) ゲートキーパー養成研修(36回3,334人)の開催、自殺未遂者支援事業(個別支援計28事例、事業評価会議2回開催)、自殺対策ネットワーク会議(2回)にて、庁内外関係機関と連携強化を図った。 (Ⅲ) 関係機関の連携強化を図りながら、自殺対策を総合的に継続して実施する。	10,718
くらしき心ほっとサポーター事業	(Ⅰ) 心の健康づくりの推進及び精神障がい者に対する偏見除去 (Ⅱ) 9期生養成研修(5回17人)の開催、心ほっとサポーター113人(R4.4.1時点)とともに、心の健康づくり講座(7回442人)等で啓発を行った。 (Ⅲ) 心の健康づくりや精神障がい者に対する偏見除去の取り組みを継続する。	1,155
精神保健相談、訪問指導事業	(Ⅰ) 精神保健一般及び精神障がい者の社会復帰等についての相談対応 (Ⅱ) 医師による心の健康相談を保健所で月1回実施し、23人の相談を受けた。保健師等による訪問延べ1262件、電話相談延べ3652件、面接相談延べ1020件実施。 (Ⅲ) 本人及び家族が安心して相談できるよう今後も継続する。	366

## 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



### 保健・医療・福祉<結>

#### めざすまちの姿

4-2 豊かな自然の恵みにより食べ物がおいしく、健全な食生活が実現されている

#### 市の施策

市民の健全な食生活を支援する

#### 基本方針

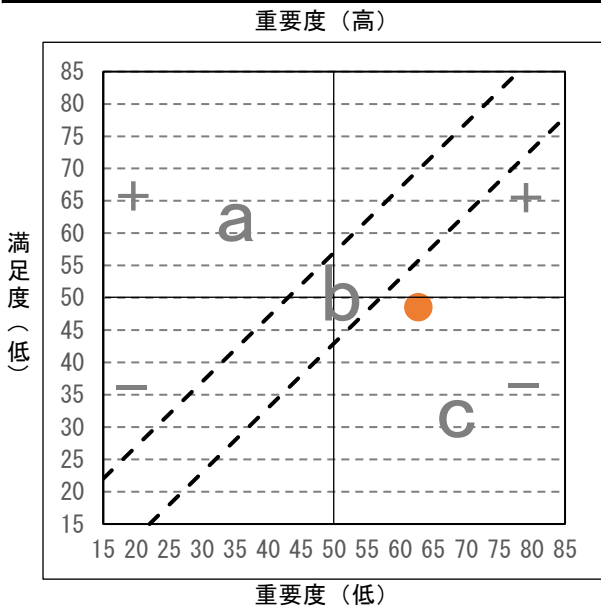
- ・ 食品の安全性をはじめとする食に関する正しい情報の提供に努めるとともに、食品関連事業者に対する監視指導や食品の検査を実施し、年間を通して食品の安全性を確保していきます。
- ・ 学校、企業、健康づくりボランティアなどとの連携により、生涯を通じて健全な食生活を送れる環境整備を進めるとともに、食育の推進により、子どもの頃からバランスのとれた食生活の意識づけを図ります。
- ・ 学校給食への地場産物の安定供給と情報提供に努めるとともに、生産者との交流を進めるなど、食に関する指導・啓発を行い、地域の特色や農林水産物への理解を深めます。
- ・ 食の循環や環境を意識した食育を推進し、豊かな自然の恵みによって得られる食を大切にする心の育成に取り組みます。

#### 数値目標

まちづくり指標	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている人の割合	
算出方法	健康くらしき21アンケート調査で、「主食、主菜、副菜をそろえて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ですか」という設問に対して、「毎日」、「週に4～6日」と回答した人の数／アンケート回答者総数×100 ※R元～令和4年度までは市民モニターアンケートによるもの	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 生活環境の多様化・多忙、健康づくりへの無関心、食材料光熱費高騰、主食主菜副菜の認識不足が要因と考える。 (II) くらしき3ベジプロジェクトを通しての野菜摂取量を増やし、安価時短の主食主菜副菜がそろった食事の普及啓発に努める。	

まちづくり指標	食品の安全性について十分な情報をもっている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「食品の安全性について十分な情報を得られていますか」という設問に対して、『得られている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、衛生講習会や出前講座による情報提供の機会が減少したことも要因と考える。 (II) 引き続き、市民への食品衛生に関する情報提供に努める。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	48.54	62.79

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)

<グラフの見方>

重要度 (高)

満足度 (高)	a (a+)	b (b+)	c (c+)
満足度 (低)	a- (a-)	b (b-)	c (c-)
	重要度 (低)		重要度 (高)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度 決算額 (千円)
食品衛生等指導・食の安全推進事業	(I) 食品衛生上の危害発生を未然に防止し、市民の食の安全を確保する。 (II) 食品等関連事業者等の監視指導を1491回実施した。また、消費者等を対象とした衛生講習会を7回実施し、538人の参加があった。 (III) 今後も倉敷市食品衛生監視指導計画に基づき、継続して実施する。	9,419
残留農薬・動物用医薬品検査事業	(I) 迅速かつ正確な検査により市民の食の安全・安心を確保する。 市内を流通する農産物4件について、残留農薬等延べ1,263項目を検査した。 (II) た。検査結果の信頼性を担保するための検証試験 (8,126項目) を実施した。 (III) 引き続き検査を継続するとともに、農産物の残留農薬の検査項目増加等のための検査方法の検証試験を実施する。	6,753
食育推進事業	(I) 市民が健全な心身を培い、豊かな人間性を育む。 (II) 関係団体・機関との連携協働における「くらしき3ベジプロジェクト」の推進をした主なイベント等は、76回7,670人。 (III) 食育推進計画に基づき、継続して実施する。	833
学校における食育の推進	(I) 学校教育活動全体を通じて、児童生徒が望ましい食習慣を身につけることができるようにする。 (II) 学校給食献立作成方針に沿って、地場産物を計画的に取り入れ、学校給食の充実と指導用資料の活用を図った。 (III) 高梁川流域圏内とも連携しながら、継続して実践する。	511



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-3 市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けられている

### 市の施策

だれもが安心して利用することができる救急・医療環境を整える

### 基本方針

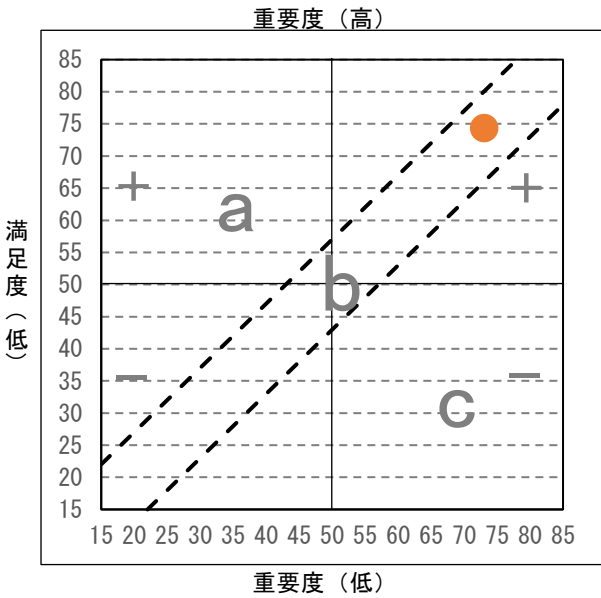
- 倉敷市立市民病院においては、働きやすい環境整備などにより医療体制を強化し、地域の中核病院として、引き続き安全・安心な医療を提供していきます。
- 医師会などとの連携をさらに強化し、救急医療体制の確保・充実に一層努めるとともに、かかりつけ医制度の普及啓発を行い、救急医療機関の適正な利用について市民の理解を深めます。
- 応急手当講習を継続的に開催し、救急車が来るまでの応急手当ができる市民を増やします。また、車両及び資器材の整備を推進するとともに、質の高い救急救命士と救急隊員を育成し、救命率の向上をめざします。
- ★ 新たな感染症や大規模災害などの非常時に備えて健康危機管理体制の強化を図り、平常時から自分の健康を守るための意識啓発を行うとともに、適切な受診行動につながるよう正確な情報の発信・伝達に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	身近にかかりつけ医がいる人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「あなたは身近にかかりつけ医がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の流行により、かかりつけ医に対する意識の高まりによるものと考えられる。 (II) 地域医療普及啓発事業等を通じ、さらにかかりつけ医に対する意識を高めていく。	

まちづくり指標	応急手当講習会（AEDの使用を含む心肺蘇生法、止血法等）を受講した人の割合	
算出方法	応急手当講習会の受講者数／市の人口×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として令和2年3月頃から令和3年7月頃まで講習会を中止したため、基準値を上回ったが目標値に達しなかったと考えられる。 (II) 感染対策をした上で、引き続き講習会を行う。	

市民の重要度・満足度

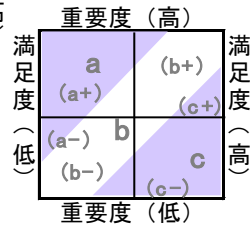


領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	74.35	73.08

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)

<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
市民病院医療体制の充実	(Ⅰ) 働きやすい環境整備などにより医療体制充実を図り、安定的な医療を提供する。 (Ⅱ) 退職者があった場合等にも、遅滞なく新たに医師、看護師等の必要な人材を確保することで、安定した医療を提供した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
休日夜間在宅当番医等運営事業	(Ⅰ) 休日夜間における初期救急診療を確保する。 (Ⅱ) 休日診療7,554人、夜間診療423人、休日歯科診療718人の診療を各地区で行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	57,080
病院群輪番制病院運営事業	(Ⅰ) 休日夜間における二次救急診療を確保する。 (Ⅱ) 病院群輪番制病院運営事業、小児救急医療支援事業、協力病院当番制病院運営事業を実施し、医療体制を確保した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	47,454
休日夜間急患センター運営事業	(Ⅰ) 休日夜間における初期救急診療を確保する。 (Ⅱ) 休日診療2,461人、夜間診療1,639人の診療を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	72,577
★ 高梁川流域地域医療普及啓発事業	(Ⅰ) 医療の機能分化に対する知識を深め、適切な地域医療環境の構築を図る。 (Ⅱ) 高梁川流域圏域において、地域医療の普及啓発を行う団体に助成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	328
高梁川流域救急隊員合同研修事業	(Ⅰ) 救急隊員の質の向上 備中地区救急隊員研修会を2回開催し、「感染防止対策研修」、「救急隊員教育」をテーマに、備中地区の救急隊員計49名が参加した。また、消防職員安全管理教育研修会を2回開催し、「夏季の現場活動に対する安全管理対策」、「災害・犯罪等被害者への対応」をテーマに、備中地区の消防職員計62名が参加した。 (Ⅱ) 職員の安全管理教育研修会を2回開催し、「夏季の現場活動に対する安全管理対策」、「災害・犯罪等被害者への対応」をテーマに、備中地区の消防職員計62名が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	55
救急高度化推進整備事業	(Ⅰ) 救命率の向上 救急救命士64人を再教育のために実習へ派遣し、6人を技術取得のために実習へ派遣した。また、高規格救急自動車を2台更新した。応急手当の講習を136回開催し、2,109人が受講した。 (Ⅱ) 救急救命士64人を再教育のために実習へ派遣し、6人を技術取得のために実習へ派遣した。また、高規格救急自動車を2台更新した。応急手当の講習を136回開催し、2,109人が受講した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	102,329
指定難病医療支援事業	(Ⅰ) 国が指定した難病の医療費助成に係る各種申請・届出の受付を行い、難病患者へのサービスの質の向上を図る。(岡山県からの移譲事務) 各種申請・届出の受付を行い、岡山県への進達を行った。 (Ⅱ) また申請・届出時に保健師等が面接を行い、患者の情報収集を行うとともに、個別の相談に応じた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	10,332
小児慢性特定疾病医療支援事業	(Ⅰ) 長期間にわたる治療が必要な小児慢性特定疾病患者について、その医療費を公費負担することにより、患者家族の負担を軽減する。 指定医療機関における医療支援事業の一部を公費で負担するとともに、児童等自立支援員を配置し、相談支援事業等を行った。また、自立支援事業の一環として、支援関係者連絡会を開催した。 (Ⅱ) 児童等自立支援員を配置し、相談支援事業等を行った。また、自立支援事業の一環として、支援関係者連絡会を開催した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	158,113
難病患者家族支援事業	(Ⅰ) 保健・医療・福祉の分野にわたる総合サービスを提供し、難病患者の安定した療養生活の確保とその家族の生活の質の向上を図る。 在宅療養支援計画を作成し、難病支援に関する情報提供や、支援体制整備を行うとともに、保健師・看護師等が難病訪問相談員として患者宅を訪問し、相談・指導・助言等を行った。さらに、患者の療養上の不安解消を図るため、医療福祉相談会を開催した。 (Ⅱ) 在宅療養支援計画を作成し、難病支援に関する情報提供や、支援体制整備を行うとともに、保健師・看護師等が難病訪問相談員として患者宅を訪問し、相談・指導・助言等を行った。さらに、患者の療養上の不安解消を図るため、医療福祉相談会を開催した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,173
骨髄バンク推進事業	(Ⅰ) 骨髄移植等に関する正しい知識の普及啓発を行うことで、市民の理解を深め、骨髄バンク事業の推進を図る。 (Ⅱ) 保健所だよりや広報くらしきによる市民への周知活動を行った。また、ドナーや事業所への助成金を支給した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,087

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
地域健康危機管理体制 ★制推進事業（情報提供）	(Ⅰ) 緊急時に迅速かつ有効な対応ができるよう健康危機管理体制を強化する。 (Ⅱ) 住民に向けて、健康危機に備えての日常備蓄や日ごろから取り組んでおくべきことについて啓発を行い、意識の向上を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-4 障がい者が積極的に社会参加でき、地域の人と安心してともに暮らせるようになっている

### 市の施策

障がい者が社会参加でき、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる生活を支援する

### 基本方針

- ・介護者の負担の軽減も踏まえ、在宅生活を支援するサービスの充実に努め、障がい者の生活ニーズに応じた適切なサービスの提供をめざします。
- ★一般就労が困難な障がい者にとって、重要な役割を担っている福祉的就労を行う事業所・作業所への支援を強化し、職業訓練に関する情報提供を充実させるなど、障がい者の就労訓練の場の充実を図ります。
- ★障がい者やその養護者への理解を広げる周知・啓発活動に努めるとともに、障がい者への虐待防止、養護者に対する相談支援体制を強化し、すべての障がい者が人権を護られ、安心して暮らすことのできるまちをめざします。
- ★医療機関や入所施設から地域生活への移行を促進するために、居宅介護の支援や、生活の場のひとつとして有効なサービスであるグループホームの充実を図るなど、希望する障がい者が地域で生活できる環境づくりを進めます。
- ★障がい者が障がいの状況に応じた多様な形態での勤務ができるよう、企業や事業所に一層の理解・協力を求めるなど、障がい者の就労定着をめざします。
- ・障がい者自身が気軽に相談でき、福祉制度や生活に関してニーズに沿った適切な情報を必要なときに入手できるよう、関係機関との連携を強化するなど、相談支援体制の充実を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	障がい福祉サービスにより地域全体で支えられていると思っている障がい者や家族の割合	
算出方法	障がい者アンケート調査（隔年実施）で、「あなたは、倉敷市の障がい福祉サービスにより地域全体で支えられていると思いますか」という設問に対して、『そう思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和5年8月に調査。	

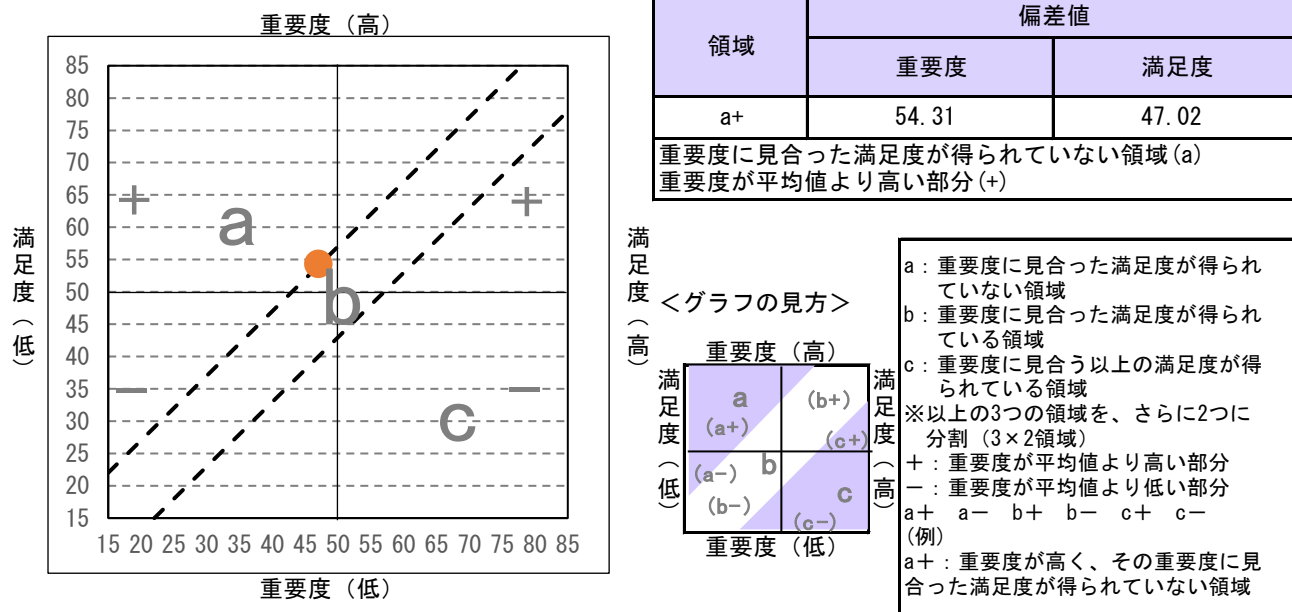
まちづくり指標	生活の場所に満足している障がい者の割合	
算出方法	障がい者アンケート調査（隔年実施）で、「あなたは、現在の生活の場所に満足していますか」という設問に対して、『満足している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和5年8月に調査。	



まちづくり指標	社会参加できていると思う障がい者の割合	
算出方法	障がい者アンケート調査（隔年実施）で、「あなたは、社会に参加できていると思いますか」という設問に対して、『参加できている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和5年8月に調査。	

まちづくり指標	一般企業の障がい者雇用率	
算出方法	岡山労働局が毎年調査する「一般企業の障がい者雇用率」	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用情勢が悪化したため。 (II) 企業や事業所への障がい者雇用の周知・啓発等障がい者の就労支援に努める。	

### 市民の重要度・満足度



### 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
居宅介護等訪問系サービス事業	(I) 障がい者の日常生活の充実を図る。	752,424
	(II) 障がい者の居宅に訪問し、食事・入浴等の身体介護や家事援助等日常生活全般にわたる援助を行った。 訪問入浴事業利用者数32人、身体介護、家事援助等利用者数15,437人、重度訪問介護利用者数345人	
	(III) 障がい者の生活を総合的に支えるために必要な事業であり、継続して実施する。	

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
日中活動系サービス事業	(Ⅰ) 障がい者の日中活動の場を確保し、介護者の一時的な休息を図る。 (Ⅱ) 日中活動系サービスを実施し、障がい者の生活能力の向上及び介護者の負担軽減を図った。 生活介護事業利用者数13,970人、日中一時支援事業利用者数1,483人、短期入所利用者数2,027人 (Ⅲ) 障がい者の生活能力の向上及び介護者の負担軽減を図るために必要な事業であり、継続して実施する。	3,513,544
短期入所サービス拡大促進事業	(Ⅰ) 医療的ケア児者、重症心身障がい児者の介護者の負担を軽減する。 (Ⅱ) 医療的ケア児等の介護を行う家族の負担軽減を図った。 10事業所利用者71人、延べ1,524日 (Ⅲ) 医療的ケア児の増加が見込まれるため必要な事業であり、継続して実施する。	16,673
★ 就労継続事業所経営支援事業	(Ⅰ) 就労継続支援A型事業所の経営改善を図る。 (Ⅱ) 就労継続支援事業所の経営者、幹部などに対して、事業所のあるべき姿(経営ビジョン)を描き、従業員等と共有することの重要性を理解してもらうことを目的としたセミナーを開催した。R5.3.24開催84名参加 A型事業所の新規指定に伴う審査会は、事前協議依頼が無かったため、未開催。 (Ⅲ) 障がい者の就労を適切に支援するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	165
★ 地域活動支援センターⅢ型等事業	(Ⅰ) 一般就労が困難な障がい者の社会的自立の促進を図る。 (Ⅱ) 障がい者の社会復帰及び自立並びに社会経済活動への参加の促進を図るため、地域活動支援センターⅢ型等に対し、運営費等を助成した。 地域活動支援センターⅢ型 5箇所、作業所 2箇所 (Ⅲ) 障がい者の就労及び社会参加を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	60,452
★ 就労継続支援事業	(Ⅰ) 障がい者が働くために必要な知識や能力の習得を図る。 (Ⅱ) 一般企業等での就労が困難である者に就労の場を提供することで、就労についての能力、意欲の増進を図った。 就労継続支援事業利用者数 21,841人 (Ⅲ) 障がい者の就労を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	2,846,421
★ 障がい者権利擁護事業	(Ⅰ) 虐待防止や成年後見制度の利用を促進し障がい者の権利擁護を図る。 (Ⅱ) 虐待防止や成年後見制度の利用を促進し障がい者の権利擁護を図る。 関係機関や専門職団体と連携し、障がい者虐待に対応する。成年後見制度の相談36件、市長申立14件、支援に必要な会議等を行い、制度利用を促進する。 (Ⅲ) 障がい者やその養護者が権利擁護について継続的に相談できるよう、中核機関として関係各機関と連携し、周知啓発や支援体制整備を進めます。	20,586
★ 地域移行支援事業	(Ⅰ) 入所施設や病院に入所している障がい者の地域移行を推進する。 (Ⅱ) 入所施設や病院に入所している障がい者に対し、入所施設や精神科病院を訪問し、地域における生活に移行するための相談支援等を行った。 地域移行支援事業利用者数6人 (Ⅲ) 入所施設や病院に入所している障がい者の地域移行を促進するため必要な事業であり、継続して実施する。	2,247
★ 地域定着支援事業	(Ⅰ) 入所、入院から地域で生活するようになった障がい者の地域定着を図る。 (Ⅱ) 入所、入院から地域で生活するようになった障がい者に対し、地域での生活の安定を図るため、常時の連絡体制を確保し緊急の事態等に相談、訪問等の対応を行った。 地域定着支援事業利用者数57人 (Ⅲ) 入所、入院から地域で生活するようになった障がい者の地域での生活の安定を図るため必要な事業であり、継続して実施する。	2,353
★ 共同生活援助事業	(Ⅰ) 地域で生活する障がい者の生活の場の提供 (Ⅱ) グループホームでの生活を望む知的、精神障がい者等に対し、生活の場を提供し、居住における相談や日常生活上の援助を行った。 共同生活援助利用者数5,109人 (Ⅲ) 共同生活援助は障がい者の地域移行を推進するために必要なサービスであり、継続して実施する。	907,237

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 就労移行支援事業	(Ⅰ) 障がい者の就労移行支援 就労を希望する障がい者に対し、一定期間就労支援を行うことで、必要な知識や能力の向上を図った。 就労移行支援事業利用者数1,497人 (Ⅱ) (Ⅲ) 障がい者の就労を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	281,419
★ 就労定着支援事業	(Ⅰ) 障がい者の就労定着支援 一般就労に移行した障がい者に対し、就労の継続を図るため、関係機関への連絡調整や相談、指導及び助言等の必要な支援を行った。 就労定着支援事業利用者数668人 (Ⅱ) (Ⅲ) 障がい者の社会生活を支えるサービスであり、継続して実施する。	18,642
★ 障がい者就業・生活支援センター事業	(Ⅰ) 障がい者の就労支援・就労定着支援 障がい者の雇用の促進と職場定着を図るため、就労に関する相談・情報提供、登録利用者の就業及び生活に対する支援、助言等を行った。 利用者延べ人数5,559人 (Ⅱ) (Ⅲ) 障がい者の就労を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	5,331
障がい者に対する相談支援事業	(Ⅰ) 障がい者が地域で生活するために必要な情報提供等 地域の障がい者等に対し、地域生活を行う上での諸問題について、訪問等により状況の把握、必要な情報の提供や援助を行った。 (Ⅱ) 利用者数：児島14,762人、玉島11,995人、水島11,124人、倉敷10,776人、倉敷西部13,686人、真備12,349人、倉敷発達障がい者支援センター258人、ゆめばる3,095人 (Ⅲ) 障がい者児の生活を総合的に支えるために必要な事業であり、継続して実施する。	348,337
高梁川流域障がい児保護者支援事業	(Ⅰ) 障がい児の保護者を継続的に支援する。 障がい児の保護者を継続的に支援するため、支援者を育成した。 (Ⅱ) 相談支援ファイル実施者養成講座修了者24名 出前茶話会(18回、参加者142人)、草の根講座(8回、参加者238人) (Ⅲ) 障がい児の保護者を継続的に支援するため継続して実施する。	3,600
★ 高梁川流域障がい者フォーラム開催事業	(Ⅰ) 障がい者の地域生活を支えるための障がいに対する理解の普及啓発 障がい当事者や家族、障がい福祉関係者が障がい者の地域生活をテーマに対談・座談会をしたものを収録し、FMくらしき・YouTube(期間限定)で発信した。 (Ⅱ) (Ⅲ) 障がい者に対する理解を深める必要があり、継続して実施する。	1,049
★ 意思疎通支援事業	(Ⅰ) 障がい者の社会参加の促進 手話通訳者の派遣等により、聴覚、音声、言語機能等の障がいを有する者が他者とのコミュニケーションを図る支援を行った。 (Ⅱ) 手話通訳・要約筆記利用件数721件、専任手話通訳者対応件数1,983件 (Ⅲ) 聴覚障がい者等のコミュニケーションを継続して支援するために必要な事業であり、継続して実施する。	17,310
★ 手話の普及促進事業	(Ⅰ) 手話に対する理解の促進及び普及を図る。 手話に対する理解の促進及び手話の普及をはかるため、手話言語条例の内容と簡単な手話を掲載したリーフレットを作成し、市内施設等に配付し、広報を行った。 (Ⅱ) (Ⅲ) 手話に対する理解等を深める必要があり、継続して実施する。	446
生活支援事業(視覚障がい者生活訓練等事業)	(Ⅰ) 障がい者の社会参加の促進 視覚障がい者の自立更生と社会参加を促進するため、必要な相談・指導・訓練を行った。 (Ⅱ) 延べ利用者数208人 (Ⅲ) 視覚障がい者に日常生活を支える事業であり、継続して実施する。	1,539
★ 社会参加促進事業	(Ⅰ) 障がい者の社会参加の促進 障がい者の自立と社会参加の促進を図るため、障がい者の自動車運転免許証の取得や自動車改造等への助成を行った。 (Ⅱ) 介護用自動車改造費補助24件、本人運転用自動車改造扶助費17件、運転免許証取得扶助費24件 (Ⅲ) 障がい者の社会参加を促進する必要があり、継続して実施する。	13,231
精神保健福祉手帳・医療支援事業	(Ⅰ) 精神障がい者の自立、社会復帰の促進及び適正な医療、通院治療の促進 (Ⅱ) 精神障がい者保健福祉手帳所持者4,739人、自立支援医療受給者数9,559人 (Ⅲ) 県事業であり、今後も継続して実施する。	1,634

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-5 様々な事情により困窮している人が、自立できるよう地域で支え合っている

### 市の施策

困窮している人が自立できるよう地域で生活を支援する

### 基本方針

- ・生活に困窮している人が、抱える問題を複雑化・深刻化させる前に身近な地域住民が気づき、支援機関等へつなぐことで、孤立を防ぎ自らの意思で自立への行動がとれるよう、地域全体で見守り支える体制を図ります。
- ・様々な困窮の状況に応じて生活支援と合わせた就労支援に取り組み、生活困窮者が安定した職業に就くことをめざします。
- ・生活保護制度の円滑な運用に努め、自立・就労に向けた支援を強化し、だれもが健全でその人らしく生活できるまちづくりにつなげます。

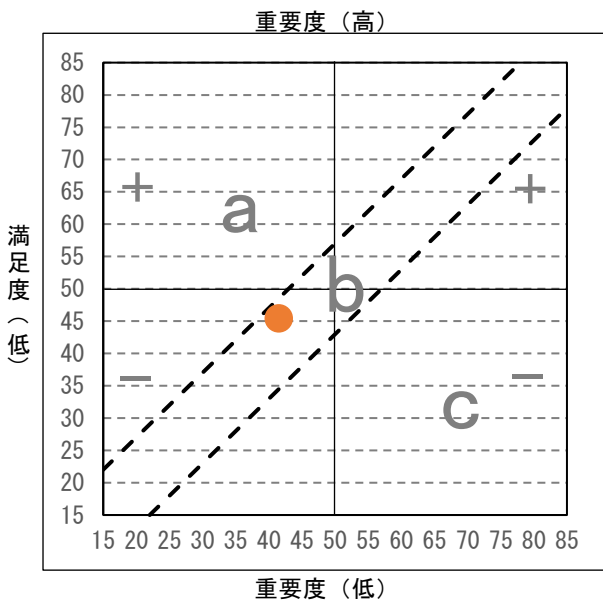
### 数値目標

まちづくり指標	倉敷市生活自立相談支援センターの新規相談受付件数																			
算出方法	市で集計																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>新規相談受付件数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>2,000</td><td>997</td></tr> <tr><td>R3</td><td>2,000</td><td>12,839</td></tr> <tr><td>R4</td><td>2,000</td><td>11,933</td></tr> <tr><td>R7</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	2,000	997	R3	2,000	12,839	R4	2,000	11,933	R7	2,000	2,000	R12	2,000	2,000
年度	目標値		実績値																	
R1	2,000		997																	
R3	2,000		12,839																	
R4	2,000	11,933																		
R7	2,000	2,000																		
R12	2,000	2,000																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、生活困窮状態に陥っている相談者が数多くいたため。 (II) 引き続き、必要に応じて関係機関と連携しながら自立に向けた相談支援を実施していく。																			

まちづくり指標	倉敷市生活自立相談支援センターの就労支援対象者の就労・増収率																			
算出方法	市で集計																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>就労・増収率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>75</td><td>49.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>75</td><td>52.2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>75</td><td>58.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>75</td><td>75</td></tr> <tr><td>R12</td><td>75</td><td>75</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	75	49.6	R3	75	52.2	R4	75	58.7	R7	75	75	R12	75	75
年度	目標値		実績値																	
R1	75		49.6																	
R3	75		52.2																	
R4	75	58.7																		
R7	75	75																		
R12	75	75																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	B																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症対策が少しずつ緩和され、労働の制限が縮小したため。 (II) 引き続き、必要に応じて関係機関と連携しながら自立に向けた相談支援を実施していく。																			



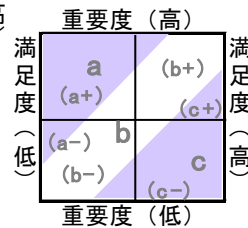
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	45.41	41.50

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度 決算額 (千円)
民生児童委員活動の促進	(I) 地域でお困りの方と福祉をつなぐパイプ役となる、民生委員児童委員の活動を促進する。 (II) 高齢者に関する相談支援 : 7,481件、障がい者に関する相談支援 : 622件、子どもに関する相談支援 : 3,413件、その他の相談支援3,205件と合計14,721件の相談支援を行った。 (III) 今後も地域福祉の増進に必要なため継続して実施する。	52,235
生活困窮者自立支援事業	(I) 生活に困窮している方に対して、個々の状況に応じた支援を行い、自立の促進を図る。 (II) 新規相談11,933件、プラン作成3,918件、就労支援対象者3,533件、就労・増収者2,074件、就労準備支援事業の新規利用者は41人、住居確保給付金は159人を利用決定。一時生活支援事業は39人が利用した。 (III) 支援の充実を図りながら、センターを相談窓口とし、就労、住居確保、家計支援等、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援を継続して実施する。	108,585
総合的就業・生活支援事業、生活相談員事業	(I) 離職を余儀なくされた方々などの、生活の安定及び再就職の促進を図る。 (II) 職業情報提供コーナー : 利用者2,989人、紹介341件 ワークプラザたましま : 利用者6,750人、紹介1,197件 (III) 継続して実施する。	6,010
生活保護適正実施推進事業	(I) 生活保護制度を適正に実施することで、生活困窮者の自立につなげる。 (II) 面接相談員、就労支援相談員、レセプト点検員、年金調査専門員を配置し、生活困窮者への面接相談を1,619件実施し、保護受給者に対しては就労支援を行った。また、レセプトの過誤確認を実施し、医療扶助費を67,698千円削減した。 さらに、年金受給権の調査・判明による年金受給で、生活扶助費を1,367千円削減した。健康管理支援事業では、対象者に対し医療機関への受診勧奨を行った。 (III) 継続して実施する。	71,252



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-6 高齢者が地域で安心して暮らすことができている

### 市の施策

高齢者が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことのできる環境を整える

### 基本方針

- ★ 高齢者の実態を把握し、専門的な介護予防プログラムの実施や地域での介護予防の普及啓発を図り、一人ひとりの高齢者の心身の状態や生活環境などに応じた総合的な介護予防を推進します。
  - ・ 各支援機関と連携協力して相談体制や支援体制を充実させ、高齢者の虐待防止を進めます。
- ★ 認知症に対する理解の促進や予防・早期発見のための知識の普及を図るとともに、認知症早期から本人や家族を支援するなどサポート体制の整備を進め、認知症のある人が地域で安心して幸せに暮らせることをめざします。
  - ・ 成年後見制度や相談窓口の周知を図るなど、高齢者の権利利益を擁護する体制の整備を進めます。
- ★ 地域で暮らす高齢者への支援を強化し、市民、団体などの協力のもと、地域全体で高齢者を見守り支えるネットワークを構築します。
- ★ 在宅医療・介護の連携強化を図り、高齢者が住み慣れた地域で安心して医療や介護を受けられる環境づくりを進めます。

### 数値目標

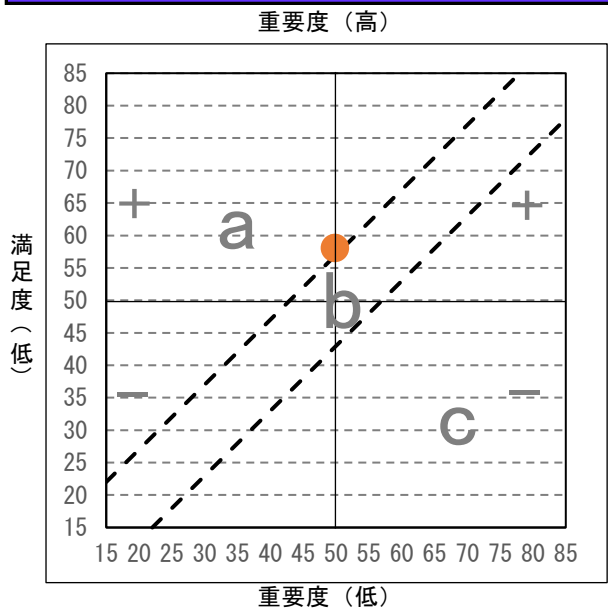
まちづくり指標	高齢者実態把握調査者数																			
算出方法	高齢者支援センターの「介護予防把握事業」の実施延べ数																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>高齢者実態把握調査者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>18,862</td><td>19,280</td></tr> <tr><td>R3</td><td>19,280</td><td>19,280</td></tr> <tr><td>R4</td><td>19,280</td><td>20,000</td></tr> <tr><td>R7</td><td>20,000</td><td>20,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>21,000</td><td>21,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	18,862	19,280	R3	19,280	19,280	R4	19,280	20,000	R7	20,000	20,000	R12	21,000	21,000
年度	目標値		実績値																	
R1	18,862		19,280																	
R3	19,280	19,280																		
R4	19,280	20,000																		
R7	20,000	20,000																		
R12	21,000	21,000																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) コロナ禍で外出機会が減少し、高齢者の健康状態の悪化が懸念される中、健康状態の把握に努めた結果、増加した。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 支援が必要な高齢者の早期発見及び健康状態の把握のため、継続実施する。																			

まちづくり指標	高齢者支援センターの相談件数																			
算出方法	高齢者支援センターの「総合相談」の件数																			
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>高齢者支援センターの相談件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>101,230</td><td>101,230</td></tr> <tr><td>R3</td><td>101,230</td><td>108,102</td></tr> <tr><td>R4</td><td>101,230</td><td>104,195</td></tr> <tr><td>R7</td><td>102,500</td><td>102,500</td></tr> <tr><td>R12</td><td>103,000</td><td>103,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	101,230	101,230	R3	101,230	108,102	R4	101,230	104,195	R7	102,500	102,500	R12	103,000	103,000
年度	目標値		実績値																	
R1	101,230		101,230																	
R3	101,230	108,102																		
R4	101,230	104,195																		
R7	102,500	102,500																		
R12	103,000	103,000																		
目指す方向性	➡																			
進捗状況	A																			
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 高齢者支援センターが身近な総合相談窓口として定着してきたため。																			
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き地域の高齢者や家族などからの介護・健康・医療に関する総合相談窓口として、周知を図っていく。																			

まちづくり指標	いきいきポイント制度のボランティア登録者数	
算出方法	「倉敷市いきいきポイント制度」におけるボランティア登録者数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	コロナ影響大
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民の外出自粛、施設側の受け入れ自粛がみられたためと思われる。 (II) いきいきポイント制度の周知、ボランティアと受け入れ施設のマッチングに努める。	

まちづくり指標	認知症サポーター養成講座受講者数	
算出方法	「認知症サポーター養成講座」の受講者数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	コロナ影響大
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、集団での開催が困難であったため、目標値に到達しなかった。 (II) 地域住民だけでなく、学校や高齢者と接する機会の多い企業等での養成講座を拡大する。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	58.06	49.87

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 <グラフの見方>

満足度 (高)	a (a+)	b (b+)	c (c+)
満足度 (低)	(a-)	b (b-)	c (c-)
	重要度 (低)		重要度 (高)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
★ 介護予防把握事業	(I) 支援が必要な高齢者を把握し、必要な医療や介護サービスにつなげる。 (II) 支援が必要な高齢者の早期発見・早期支援、地域ごとの課題の把握のため在宅高齢者の訪問を実施した。令和4年度実績20,000件 (III) 継続して実施する。	58,677
★ 介護予防・生活支援サービス事業	(I) 要支援者等に対して、介護予防を目的に、生活機能の改善等を図る。 (II) 要支援者等の利用者に対し、訪問型サービス費14,040件、通所型サービス費(短期集中健幸アップ教室を含む)28,995件等を支給した。 (III) 継続して実施する。	1,198,266
★ 介護予防普及啓発事業	(I) 介護予防の観点から身体機能の向上や健康意識の啓発を図る。 (II) ぐらし健康福祉プラザ介護予防事業において、介護予防普及啓発事業を1,182回、18,121人に実施。各高齢者支援センターでは介護予防・転倒骨折予防教室:514回・5,849人、栄養改善教室を78回・896人に実施。 (III) 継続して実施する。	115,980
いきいきポイント推進事業	(I) 社会参加を通じた健康増進や地域貢献につなげる。 (II) ボランティア活動に取り組んだ203人に対し、活動実績に応じてポイントを付与し、そのうち申請者には転換交付金を交付した。 (III) 継続して実施する。	5,372
訪問看護師確保対策事業	(I) 訪問看護ステーションの運営を強化する。 (II) 在宅医療・介護のサービス提供を行う訪問看護ステーションの運営強化を目指し、訪問看護師の人材確保や定着支援のための職場体験を行った。学生等向けの職場体験参加者17人。看護有資格者の職場体験参加者19人、内10人就職 (III) 在宅医療・介護サービスの提供を現場で担う訪問看護師を一人でも多く確保し定着させるため、継続して実施する。	1,215
高齢者権利擁護事業	(I) 虐待防止や成年後見制度の利用を促進し高齢者の権利擁護を図る。 (II) 法律専門家とアドバイザー契約により法的判断を行ったケースも含め、高齢者虐待に118件対応した。また、認知症高齢者等への成年後見の市長申立てを46件、後見人等への報酬負担が困難な高齢者等に報酬助成を234件行った。 (III) 高齢者虐待防止対策を継続して実施するとともに、成年後見制度の利用促進を計画的に実施する。	64,311
★ 認知症初期集中支援事業	(I) 認知症の早期発見や早期支援につなげる。 (II) 倉敷市内に支援チームを3カ所設置し、14ケース延べ29回チームによる訪問を行った。関係機関の検討委員会を2回行った。 (III) 継続して実施する。	7,357
★ 認知症サポーター養成事業	(I) 認知症の正しい理解の促進と、ともに生きる地域づくりを推進する。 (II) 地域での見守り等を担う認知症サポーター・マイスターを養成した。実績認知症サポーター2,506人、マイスター14人 (III) 継続して実施する。	1,070
★ 認知症カフェ・認知症地域支援推進事業	(I) 認知症の人の社会参加を促進するとともに、家族の介護負担軽減を図る。 (II) 認知症カフェ23か所。運営者同士の交流会を開催し、日頃の運営を振り返る機会を設け、運営者同士の繋がりの構築を行い、運営スキルの向上を図った。 (III) 継続して実施する。	496
★ 認知症高齢者安全・安心確保事業	(I) 家族の介護負担軽減とともに、認知症の人の社会参加を促進する。 (II) 認知症高齢者を保護する機会が多い警察などで事業の周知を行った。「GPS端末購入費等」の助成は8件、「安心おかえりシール」交付件数は26件。 (III) 継続して実施する。	196
老人福祉施設整備助成事業	(I) 高齢者が必要とするサービスを提供できる基盤整備の推進を図る。 (II) 介護職員の宿舎整備2施設の助成を行った。 (III) 継続して実施する。	84,197

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
★ 地域ケア会議推進事業	(Ⅰ) 地域の情報共有や課題解決を通じた地域づくりを推進する。 (Ⅱ) 個別事例を検討するミニ地域ケア会議164回、地域ケア個別会議150件、地域課題の把握や解決を図る小地域ケア会議262回、広域的な支援体制の構築を担う地域ケア会議13回開催し、地域課題の解決に向けた支援体制の構築を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	7,658
★ 高齢者支援センター運営事業	(Ⅰ) 住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、地域包括ケアを推進する。 (Ⅱ) 高齢者を支援する総合相談窓口として、高齢者支援センターを25か所、サブセンターを3か所設置し、住み慣れた地域で安心して過ごせるように、総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメント等を実施した。令和4年度総合相談件数 104,195件。 (Ⅲ) 継続して実施する。	422,677
給食サービス事業	(Ⅰ) ひとり暮らし高齢者等に対し、食生活の安定・改善と安否確認を行う。 (Ⅱ) 年間配食数は466,705食、年度末利用者は3,827人 (Ⅲ) 高齢者等の食生活の安定・改善や健康の増進、定期的な安否確認ができるよう、継続して実施する。	150,255
★ 緊急通報装置設置事業	(Ⅰ) 高齢者の日常生活での不安感を解消し、緊急時の連絡体制を整備する。 (Ⅱ) ひとり暮らし高齢者等が、緊急時にボタンひとつで緊急通報管理センターに自動的に通報することのできる緊急通報装置を設置することで、日常生活での不安感を解消し、緊急時の連絡体制を整備した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,912
★ 地域リハビリテーション活動支援事業	(Ⅰ) 専門職との連携を強化し、高齢者の自立支援や介護予防を推進する。 (Ⅱ) 通いの場への専門職派遣は、14か所で実施、延べ578名が参加した。また、高齢者支援センターが実施する地域ケア個別会議にアドバイザーとして派遣し、25回実施、150件の支援内容を検討した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	604
★ 医療・介護連携フレイル予防事業	(Ⅰ) 高齢者の疾病の発症と重症化予防及び介護予防を促進する。 (Ⅱ) 訪問支援を中心としたハイリスクアプローチは323回、130人に実施。健康教育・健康相談及びフレイル状態の把握のためのポピュレーションアプローチは124回、1,904人に実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	6,841
★ 在宅医療介護連携推進事業	(Ⅰ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築する。 (Ⅱ) 医療と介護の関係者を対象としたワークショップを3回、医師会と連携した研修会を2回、市民向けの在宅医療・介護の普及啓発講演会を1回実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,186
★ 高梁川流域医療介護広域連携推進事業	(Ⅰ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築する。 (Ⅱ) 高梁川流域自治体が、認知症サポーターを養成する講師役の認知症キャラバンメイトの養成研修を1回、50人に実施。 (Ⅲ) 継続して実施する。	23

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-7 尊厳が守られながら必要な介護サービスを受けることができる

### 市の施策

必要な人が質の高い介護サービスを受けられる体制を整える

### 基本方針

- ・ 特別養護老人ホームをはじめとする介護施設などの整備については、在宅サービスとのバランスを考慮し、県や関係機関と連携を図りながら、必要なサービスが提供できるよう取り組みを進めます。また、在宅生活を支えるため、多様な地域密着型サービスや在宅生活を支える24時間ケアの拡充を進め、在宅で介護をしている家族への支援を強化します。
- ・ 介護事業者に対するチェック体制の充実や事業者による情報公開の推進、サービス評価の仕組みを構築し、適正な事業運営を確保することで、介護保険制度の継続につなげます。
- ・ 介護が必要な高齢者や介護者などの介護サービス利用者が、多様なメニューの中から最も適したサービスを選択できるよう、わかりやすく適切な情報提供を行います。
- ・ 介護従事者の育成・確保に向けての取り組みを強化し、尊厳が守られながら「必要な人が質の高い介護サービスを受けられる環境」をつくります。

### 数値目標

まちづくり指標	特別養護老人ホームの入所申込者に占める在宅者の割合																																								
算出方法	岡山県で集計要介護3以上の在宅者（医療機関に入院中の人を含む）に該当する入所申込者の数／要介護3以上の入所申込者の総数×100																																								
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>特別養護老人ホームの入所申込者に占める在宅者の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>54</td><td>58.2</td></tr> <tr><td>R2</td><td>54</td><td>60.9</td></tr> <tr><td>R3</td><td>54</td><td>60.9</td></tr> <tr><td>R4</td><td>54</td><td>60.5</td></tr> <tr><td>R5</td><td>54</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td>54</td><td></td></tr> <tr><td>R7</td><td>54</td><td></td></tr> <tr><td>R8</td><td>54</td><td></td></tr> <tr><td>R9</td><td>54</td><td></td></tr> <tr><td>R10</td><td>54</td><td></td></tr> <tr><td>R11</td><td>54</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>50</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	54	58.2	R2	54	60.9	R3	54	60.9	R4	54	60.5	R5	54		R6	54		R7	54		R8	54		R9	54		R10	54		R11	54		R12	50	
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																																						
R1	54		58.2																																						
R2	54	60.9																																							
R3	54	60.9																																							
R4	54	60.5																																							
R5	54																																								
R6	54																																								
R7	54																																								
R8	54																																								
R9	54																																								
R10	54																																								
R11	54																																								
R12	50																																								
目指す方向性	↓																																								
進捗状況	C																																								
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 要介護3以上の入所申込者全体の高齢化に伴う、本人や家族による将来への備えとしての希望の表れ。																																								
(II) 今後の取組方針	(II) 介護保険事業計画等に基づき、地域密着型特別養護老人ホーム等の介護施設の基盤整備を行う。																																								

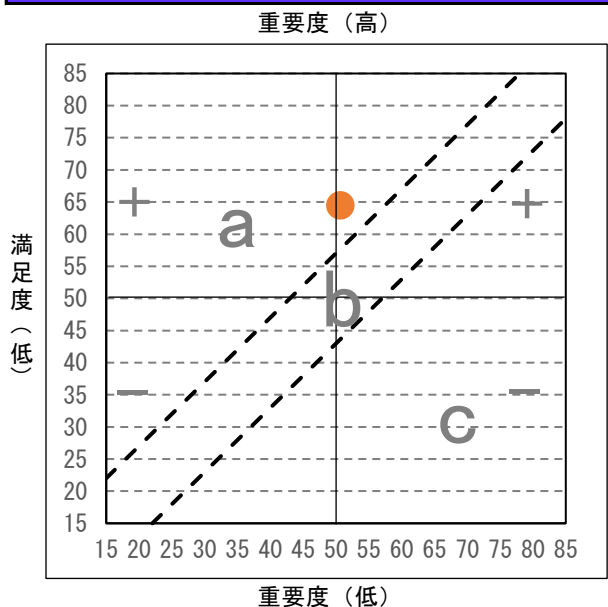
まちづくり指標	尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っている人の割合																																											
算出方法	介護サービス利用者アンケート（隔年実施）で、「尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っていますか」という設問に対して、『尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思う』『どちらかというと思う』と答えた人の数／アンケート回答者総数×100																																											
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>84.5</td><td>81.5</td></tr> <tr><td>R1</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>84.5</td><td>85.7</td></tr> <tr><td>R3</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td>84.5</td><td>86.8</td></tr> <tr><td>R5</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R7</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R8</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R9</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R10</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R11</td><td>84.5</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>87</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H30	84.5	81.5	R1	84.5		R2	84.5	85.7	R3	84.5		R4	84.5	86.8	R5	84.5		R6	84.5		R7	84.5		R8	84.5		R9	84.5		R10	84.5		R11	84.5		R12	87	
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																																									
H30	84.5		81.5																																									
R1	84.5																																											
R2	84.5	85.7																																										
R3	84.5																																											
R4	84.5	86.8																																										
R5	84.5																																											
R6	84.5																																											
R7	84.5																																											
R8	84.5																																											
R9	84.5																																											
R10	84.5																																											
R11	84.5																																											
R12	87																																											
目指す方向性	↑																																											
進捗状況	A																																											
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 個人の希望する事業所での適切なケアプランに基づいた、個々の介護（予防）サービス利用に対する納得度の高さ。																																											
(II) 今後の取組方針	(II) 介護給付の適正化を図り、利用者等が最も適したサービスを選択できるよう、わかりやすく適切な情報提供を行う。																																											



まちづくり指標	家族に対して、必要な介護サービスが受けられていると思っている人の割合	
算出方法	介護サービス利用者の家族アンケート（隔年実施）で、「必要な介護サービスが受けられていると思っていますか」という設問に対して、『必要な介護サービスが受けられていると思う』『どちらかというと思う』と答えた人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 家族の希望する事業所での適切なケアプランに基づいた、個々の介護（予防）サービス利用に対する納得度の高さ。 (II) 介護給付の適正化を図り、利用者等が最も適したサービスを選択できるよう、わかりやすく適切な情報提供を行う。	

まちづくり指標	職に対して、やりがいをもって従事できていると思っている介護サービス従事者の割合	
算出方法	介護サービス従事者アンケート（隔年実施）で、「介護の職に対してやりがいをもって従事できていると思っていますか」という設問に対して、『介護の職に対して、やりがいをもって従事できていると思う』『どちらかというと思う』と答えた人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 高齢者のケアならではの潜在的やりがいと、多業種比較で仕事に見合った処遇がやや得にくい実態の両面の表れ。 (II) 業界全体としての従事者の勤務条件など、引き続き国や県などに対し処遇改善の要望を上げる。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	64.47	50.69

重要度に見合った満足度が得られていない領域 (a)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 <グラフの見方>  
重要度 (高)

満足度 (高)	a (a+)	b (b+)	満足度 (高)
満足度 (低)	c (c-)	d (d-)	満足度 (低)
	重要度 (低)	重要度 (高)	

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
老人福祉施設運営助成事業	(Ⅰ) 介護施設の基盤の充実を図る。 (Ⅱ) 大規模修繕の際にあわせて介護ロボット・ICT機器の導入を行った4法人6施設を対象に助成した。 (Ⅲ) 地域における多様な介護ニーズに対応できるサービス基盤の整備のため、継続して実施する。	178,764
介護基盤整備事業	(Ⅰ) 要介護状態になっても、住み慣れた地域で継続して暮らせるようにする。 特定施設70床(4法人)及び地域密着型特定施設29床(1法人)が整備された上、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)2ユニット18床(1法人)の選定を行った。 (Ⅲ) 地域における在宅サービスとのバランスを考慮しながら、継続して実施する。	-
介護給付等費用適正化事業	(Ⅰ) 介護給付費の適正化を図る。 (Ⅱ) 事業所に対してはケアプラン点検員による3,541件の居宅介護サービス計画書の点検や適切なサービス提供指導を行い、利用者に対しては95,351人に費用の給付状況等を通知し、適切なサービス利用の普及啓発を行った。 (Ⅲ) 事業所による適正なサービス提供や、被保険者による適切なサービス利用を促すため、継続して実施する。	13,728
介護従事者確保事業	(Ⅰ) 介護人材の確保・定着と資質の向上を図る。 (Ⅱ) 介護事業所の施設管理者等を対象とした介護職員キャリアパス導入支援研修や、若手職員を対象とした介護職員新人職員研修等を実施した。研修開催回数 of べ7回、参加者数 of べ47人。 (Ⅲ) 慢性的な人材不足を抱える介護現場において、介護従事者の育成や定着を図るため、継続して実施する。	1,050

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-8 高齢者が生きがいをもって活動している

### 市の施策

高齢者の学びや活躍の場を充実する

### 基本方針

- ★ 高齢者が気軽に集い、仲間との出会い、交流の機会や異世代との交流が図られるよう、ふれあいの場の更なる推進によって、高齢者の孤独感や閉じこもりの解消に努めます。
- ・ 高齢者の学びに対するニーズを把握した学習機会の充実を図るとともに、情報提供をはじめとした支援により高齢者の主体的な学びを促進します。
- ★ 社会活動や地域活動、就業活動への参加を促進し、高齢者の活躍の場を広げる取り組みを充実します。

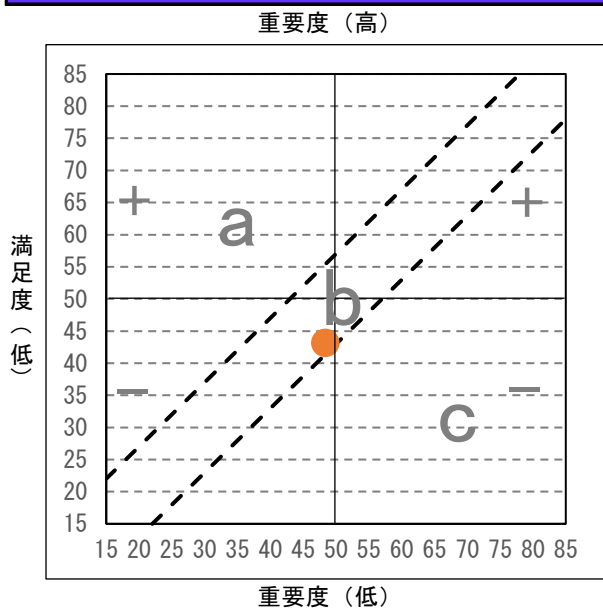
### 数値目標

まちづくり指標	シルバー人材センター会員数	
算出方法	シルバー人材センターの会員数（年度末）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、就労する高齢者が減少したと思われる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き、広報等で会員を広く募集する。	

まちづくり指標	ふれあいサロンの実施か所数	
算出方法	「倉敷市ふれあいサロン活動促進事業」における委託サロン数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナ感染対策の徹底や、活動内容や方法など具体的な工夫を支援したことで、サロン活動が継続できたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 高齢者の健康づくりや介護予防、仲間づくりを推進するため、今後も継続して実施する。	

まちづくり指標	社会参加している高齢者の割合 ※社会参加の例：ボランティア、スポーツや趣味、グループ、学習活動、ふれあいサロンなど通いの場、老人クラブ、町内会・自治会、仕事など	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、65歳以上の人で、「あなたは、社会参加していますか」という設問に対して、『している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症をきっかけに、集う活動を控えている状況があると思われる。	
(II)今後の取組方針	(II) サロン等の高齢者が社会参加できる場の充実に努める。	

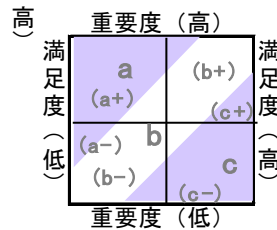
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	43.16	48.39

重要度に見合った満足度が得られている領域(b)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 <グラフの見方>



a：重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b：重要度に見合った満足度が得られている領域  
c：重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割（3×2領域）  
+：重要度が平均値より高い部分  
-：重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+：重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
老人福祉センター管理運営事業	(Ⅰ) 高齢者へ健康の増進等の場を提供し、健康で明るい生活に寄与する。 (Ⅱ) 地域の高齢者に対して各種の相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与し、高齢者に健康で明るい生活環境を提供した。利用者数：48,423人 (Ⅲ) 継続して実施する。	122,079
総合福祉会館建替事業	(Ⅰ) 老朽化した施設を更新する。 (Ⅱ) 令和4年7月に本館が仮オープンし、令和5年3月に旧館解体及び外構整備が完了した。 (Ⅲ) 令和4年度で完了	689,118
高齢者生きがい対応型デイサービス事業	(Ⅰ) 家に閉じこもりがちな高齢者の社会参加の促進や生きがいの向上を図る。 (Ⅱ) 講座開講：293回、延べ参加人数：3,640人 (Ⅲ) 継続して実施する。	8,690
★ 3世代ふれあい交流事業	(Ⅰ) 3世代交流を通じて高齢者の健康や生きがいを高め地域の親睦を深める。 (Ⅱ) 市内の小学校等33箇所で開催し、計3,682人が参加し、ニュースポーツやグラウンドゴルフ等の活動を通して交流を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,423
ふれあいサロン活動促進事業	(Ⅰ) 高齢者の社会参加や健康づくり、介護予防の推進を図る。 (Ⅱ) 感染不安から活動に不安を持つサロンも多くあったが、感染対策の徹底や、活動内容や方法など具体的な工夫を支援した。活動サロン数は305か所。 (Ⅲ) 継続して実施する。	10,453
憩の家管理運営事業	(Ⅰ) 高齢者へ教養の向上等の場を提供し、心身の健康保持に寄与する。 (Ⅱ) 地域の高齢者に対し、教養の向上、レクリエーション等の場を供与し、高齢者の心身の健康保持に寄与した。利用者数：230,558人 (Ⅲ) 継続して実施する。	90,365
憩の家整備事業	(Ⅰ) 高齢者へ教養の向上等の場を提供し、心身の健康保持に寄与する。 (Ⅱ) 憩の家の建設工事に着手した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	41,294
★ シルバー人材センター運営事業	(Ⅰ) 高齢者の生きがいや就業機会の増大を図り、地域社会に貢献する。 (Ⅱ) 高齢者の生きがいや就業機会の増大を図り、地域社会に貢献するため、国の基準に準じた補助金等を交付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	38,517
老人クラブ助成事業	(Ⅰ) 高齢者の生きがいや健康づくりを推進し、明るい長寿社会の実現を図る。 (Ⅱ) 高齢者の生きがいや健康づくりを推進し、明るい長寿社会の実現を図るため、市内の316クラブおよび、それらを取りまとめている倉敷市老人クラブ連合会に補助金を交付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	24,548
★ 生活支援コーディネーター配置事業	(Ⅰ) 高齢者の社会参加や地域での支え合い活動の推進を図る。 (Ⅱ) 生活支援コーディネーターを6人配置し、地域資源や課題の把握を行った。また、関係者が参画する協議体会議を4回開催し、地域課題の検討を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	43,507
★ 地域支え合い活動普及啓発事業	(Ⅰ) 地域の支え合い活動の推進や質の向上を図る。 (Ⅱ) 地域の支え合い活動やサロン活動等の普及啓発を目的としたフォーラムやサロン交流会を実施した。 フォーラム参加者：457人、サロン交流会参加者：400人 (Ⅲ) 継続して実施する。	822



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-1 地域やコミュニティの中で、だれもが互いに助け合い、支え合って暮らしている

### 市の施策

市民自らが、地域の課題を解決できるように支援する

### 基本方針

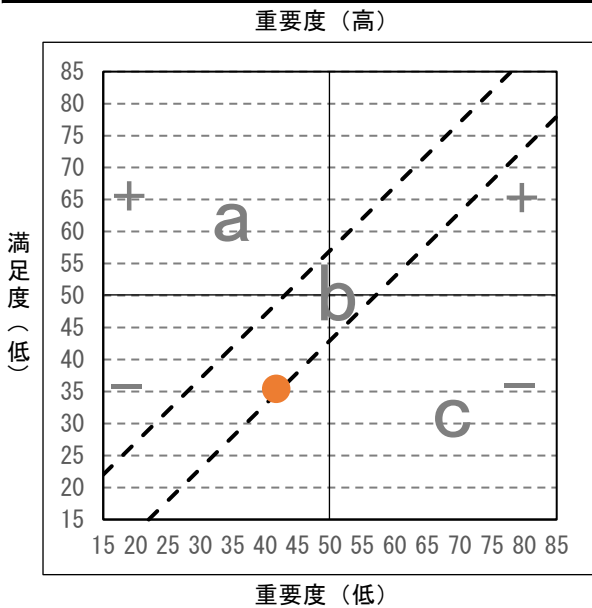
- ★ 地域の活動主体であるコミュニティの意見を把握してニーズにあった支援を行い、地域のつながりを維持して支え合いによる安全・安心な暮らしを守ります。
- ★ コミュニティ活動の情報を発信するとともに、コミュニティ意識の高揚に努め、若い世代をはじめとした、様々な世代の人が気軽に地域の輪に入っていきける地域づくりを進めます。
- ★ コミュニティ間の情報交換を行うなど、相互に連携する機会の創出に努め、ネットワークを構築してコミュニティ活動の一層の拡大を支援します。
- ★ 市民自らが主体的に地域の課題解決に取り組むコミュニティ活動に対する支援や、コミュニティ活動の拠点となる施設や設備に対する支援を続けます。

### 数値目標

まちづくり指標	地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいると思っている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により地域住民同士が繋がる機会が減り、制限の緩和後もその傾向が続いたと考えられるため。 (II) 引き続きコミュニティ協議会に対する研修会の実施や補助金交付により、地域で支え合う意識の醸成を図る。	

まちづくり指標	地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと考えている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動が縮小し、制限の緩和後もその傾向が続いたと考えられるため。 (II) 引き続きコミュニティ協議会に対する研修会の実施や補助金交付により、地域での課題解決の仕組みづくりや活動の活性化を図る。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	35.42	41.72

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)

重要度 (高)

満足度 (低)

重要度 (低)

a	(b+)
(a+)	(c+)
(a-)	b
(b-)	(c-)
	c

重要度 (低)

満足度 (高)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
★ コミュニティ情報発信事業	(I) コミュニティ活動の情報発信を通じて、様々な世代の参画を促進する。 (II) コミュニティ情報サイトを運営し、イベント情報や活動報告の情報発信を行った。 (III) 継続して実施するが、より効果的な情報発信の方法を検討する。	-
★ コミュニティ組織づくり事業	(I) コミュニティ協議会の設立と協議会間の連携を推進する。 (II) コミュニティ協議会の連合組織の運営経費 (3団体) を補助した。 (III) コミュニティ協議会設立や地域の連合化を促進するため、継続して実施する。	1,381
★ 地域、校区集会所設置等補助事業	(I) コミュニティ活動の拠点となる施設の整備を促進する。 (II) 町内会・自治会またはコミュニティ協議会の活動拠点となる集会所の建設・修繕等の費用の一部を補助した。(26件) (III) コミュニティ活動の拠点となる集会所の建設・修繕等の一部の補助を継続して実施する。	24,918
★ 校区集会所管理費補助事業	(I) コミュニティ活動の拠点となる施設の運営費を支援をする。 (II) コミュニティ協議会の活動拠点となる集会所の管理費の一部を補助した。(16件) (III) コミュニティ協議会の活動拠点となる集会所の管理費の一部の補助を継続して実施する。	4,244
★ コミュニティ活動推進事業	(I) 地域住民が主体となったコミュニティづくりを推進する。 (II) 令和4年度は46のコミュニティ協議会に対し、区域の世帯数に応じた世帯割区分及び課題解決区分の補助金を交付した。 (III) 地域主体のコミュニティづくりを推進するため、継続して実施する。	21,525

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

## めざすまちの姿

5-2 ボランティア・NPOなどの市民主体の活動が活発に行われている

## 市の施策

ボランティア・NPO などの自律的かつ公益的な活動を促進する

## 基本方針

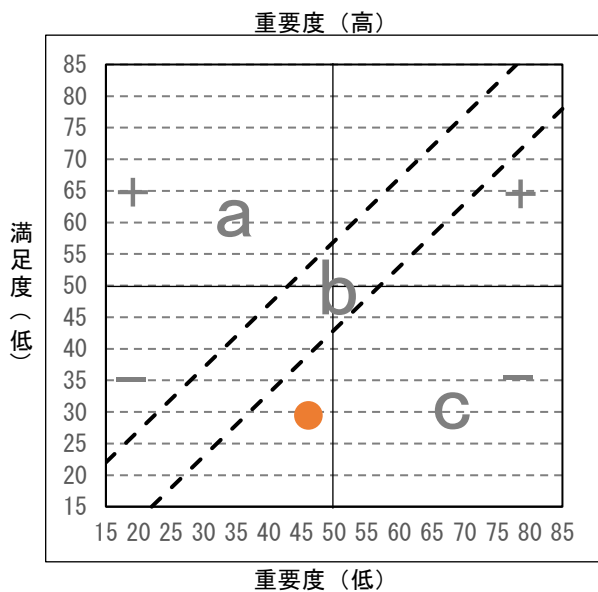
- ★人材確保と育成のための研修の充実など、組織的な基盤強化に向けた支援の仕組みづくりを進め、市民活動団体が自立的に安定して活動を継続できるよう努めます。
- ★公益的な事業に取り組む団体の活動基盤の強化に向けての支援や、大学や企業なども含め、市民活動団体や個人が、容易に情報共有や連携が行える環境整備を促進します。
- ★ボランティア・NPO活動参加への気運を盛り上げ、市民活動団体や個人がその特性を生かした、様々なまちづくりの活動に取り組むきっかけづくりを進めます。
- ★市役所での市民協働の推進体制を整えることで、ボランティアやNPOなどと行政がともに公共的な役割を担う「支え合いと活気のある社会」の実現をめざします。

## 数値目標

まちづくり指標	市民活動団体と協働で実施された事業数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 協働推進員研修など職員向けに啓発を行った結果、職員の市民協働に対する理解が深まったと考えられる。 (II) 職員向けの協働研修や課題解決ワークショップを実施し、市民と行政が協働で課題解決に取り組む意識づけを行う。	

まちづくり指標	地域の課題を解決するためには、ボランティア・NPOの市民活動が必要だと考えている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「地域の課題を解決するためには、ボランティア・NPOの市民活動が必要だと思いますか」という設問に対して、『思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により市民活動が縮小し、制限の緩和後もその傾向が続いたと考えられるため。 (II) 引き続き課題解決ワークショップを通して交流や地域課題の共有を図り、新たな活動の担い手や人材を発掘する契機とする。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	29.40	46.08

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)

<グラフの見方>

		重要度 (高)		満足度 (高)	
満足度 (低)	重要度 (高)		重要度 (低)		満足度 (高)
		a (a+)	b (b-)	c (c+)	

満足度 (低)

重要度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 市民企画提案事業	(I) 協働のまちづくりと地域課題の解決への市民主体の取り組みを支援する。 自主事業(3事業)及び行政との協働事業(2事業)に補助を行った。各事業が目指す成果を達成するため、事業計画段階から事業完了まで事務局が伴走しながら支援を行った。 (II) 地域課題解決のため、市民活動団体や関係部署との協働への働きかけを行いながら、継続して実施する。 (III)	1,971
★ 協働のまちづくり推進事業	(I) 様々な主体が、協働で地域課題の解決に取り組むまちづくりを推進する。 協働推進員への研修、市民と行政が共に課題解決を考えるワークショップ、コミュニティ協議会を対象とした研究会や交流会を通して、市民と行政の協働のまちづくりを推進した。 (II) 住民が主体となった地域づくりの推進や、新たな協働の可能性を見出した上で、市民と行政の協働のまちづくりを推進することを目的に、継続して実施する。 (III)	3,118
★ 市民公益活動情報発信事業	(I) 市民活動団体同士の情報共有と連携を図り、市民の活動への参加を促す。 (II) 情報発信ツールであるブログの投稿を推進することにより、市民活動団体が行う事業の様子を市民に周知できるように努めた。 (III) 継続して実施するが、より効果的な情報発信の方法を検討する。	-
児島及び玉島市民交流センター管理運営事業	(I) 市民の相互交流、文化活動、コミュニティ活動等の促進を図る。 (II) 指定管理者による維持・管理と地域活性化に向けた講座・講演会及び地域との連携事業を実施し、児島市民交流センターは151,133人、玉島市民交流センターは127,246人の利用があった。 (III) 感染症対策を徹底し、利用者の安全を確保した上で、継続して実施する。	174,429
環境交流スクエア管理運営事業	(I) 市民の環境に対する理解及び学習を促進するとともに、相互交流を図る。 (II) 指定管理者による維持・管理と市民の環境学習や相互交流を促進する事業を実施し、74,703人の利用があった。 (III) 感染症対策を徹底し、利用者の安全を確保した上で、継続して実施する。	80,006
★ 倉敷市市民活動センター管理運営事業	(I) 市民の自主的かつ営利を目的としない公益性のある活動を促進する。 市民活動団体の活動拠点となる倉敷市市民活動センターを管理・運営し (II) 議室、印刷・作業コーナー、情報・交流コーナーなど、全体で延べ5,409人の利用があった。 (III) 感染症対策を徹底し、利用者の安全を確保した上で、継続して実施する。	4,099

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

## めざすまちの姿

5-3 行政が市民の意見を踏まえ、施策の検討、効果的な実施、評価・検証を行い、改善を図っている

## 市の施策

更なる行財政改革を進め、経費の削減及び歳入増加に取り組み、根拠に基づいた施策を推進する

## 基本方針

- ・歳入の確保と事業や補助金の見直しなどによる歳出の抑制を図り、受益と負担の適正化によって財政基盤の安定を図ります。
- ・財政指標の分析や公会計手法の活用により財政状況を的確に把握し、市民にわかりやすく公表します。
- ・パブリックコメントや市民モニター制度の充実を図り、マーケティング機能の強化によって、より正確な市民意見の施策への反映をめざします。
- ・官民のデータ利活用により得られる客観的な証拠に基づいた、政策や施策の企画立案（EBPM）を推進します。

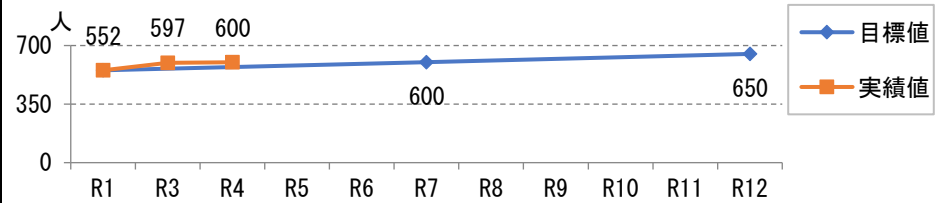
## 数値目標

まちづくり指標	実質公債費比率	
算出方法	地方債の元利償還金などに使われた一般財源／標準財政規模（標準的な一般財源）×100（3か年平均）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 公営企業の市債残高減少のため。 (II) 負債の削減への取り組みなどにより一層の財政の健全化を図っていく。	

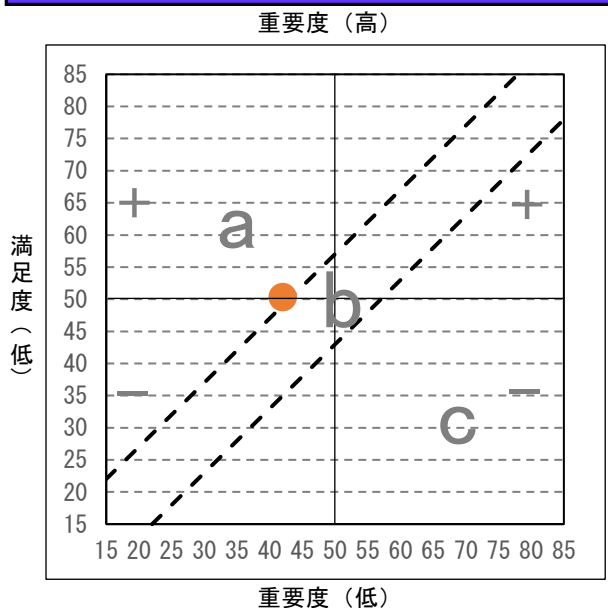
まちづくり指標	施設別行政コスト計算書公表施設数	
算出方法	倉敷市財務書類で公表している施設別行政コスト計算書の施設数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↑	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 定められた目標を達成するため、対象となる施設の資料を追加したため。 (II) 目標達成に向け、計画的に対象施設を追加していく。	



まちづくり指標	市民モニターアンケート平均回答者数（1回当たり）
算出方法	市民モニターアンケートの年間回答総数／市民モニターアンケート年間実施回数
みらい創生戦略	—
目指す方向性	➔
進捗状況	A
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 平均回答者数は目標ラインは上回っているものの前年度からは微増にとどまった。
(II)今後の取組方針	(II) 市民モニター新規登録者数を増やすため、モニター募集広報を積極的に行う。



### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	50.29	42.02

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)

<グラフの見方>

重要度 (高)

満足度 (高)	a (a+)	(b+)	満足度 (高)
(a-)	b	(c+)	満足度 (低)
(b-)	(c-)	c	
満足度 (低)	重要度 (低)		

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度決算額(千円)
歳入確保事業	(Ⅰ) 歳入確保及び歳出抑制により、財政基盤の安定を図る。 (Ⅱ) 市のホームページへのバナー、広報紙や封筒、東側玄関の庁舎案内板への広告掲載を実施した。 (Ⅲ) 更なる歳入確保のため、広告収入の対象となる事業を調査研究し、拡大に取り組む。	-
行財政改革プラン2020の推進	(Ⅰ) 持続可能な行政運営基盤の確立をめざし、行財政改革を着実に推進する。 全56の実施項目のうち「完了」が14項目、「計画どおり進んでいる」が32項目で、合計46(全体の82.1%)の実施項目が順調に進んでいる。令和4年度の実施効果額は4,844,469千円となった。 (Ⅲ) 引き続き進捗管理を行い、プランの着実な推進を図るとともに、進捗状況の公表を継続して実施する。	-
業務改善推進事業	(Ⅰ) 市役所全体の業務改善の推進により、職員の意識改革と能力向上を図る。 (Ⅱ) 業務改善を行った内容や気づいたこと等を、職員が提案できるように、庁内ネットワーク内に掲示板を作成した。また、市民満足度向上運動と連携し、各所属の取り組みを審査・公表し、優秀な取り組みについて表彰を行った。 (Ⅲ) 引き続き職員研修等を通じて業務改善の推進を実施する。	40
固定資産課税事業	(Ⅰ) 地方税法に基づき固定資産税等の公平・公正かつ適正な課税を行う。 令和4年度固定資産税課税額：40,482百万円(179,209納税義務者+9交付金対象団体)、令和4年度都市計画税課税額：5,500百万円(136,513納税義務者) (Ⅲ) 安定した財源を確保するため、継続して実施する。	259,447
市民税課税事業	(Ⅰ) 地方税法に基づく市民税等の公平・公正かつ適正な課税 (Ⅱ) 令和4年度市民税課税額：31,900百万円(個人25,227百万円、法人6,673百万円) (Ⅲ) 安定した財源を確保するため、継続して実施する。	85,511
市税徴収事業	(Ⅰ) 地方税法に基づき、市税の公平・公正かつ適正な徴収を実施する。 令和4年度滞納繰越分を336百万円徴収し、滞納繰越分の収納率は32.80%となった。現年分の収納率99.50%と合わせ、全体の収納率は98.73%となった。 (Ⅲ) 更なる収納率の向上を目指し、最小の経費で最大の徴収効果が図られるよう、継続して取り組む。	139,859
財政状況の公表	(Ⅰ) 財政状況を的確に把握し、市民にわかりやすく公表する。 (Ⅱ) わかりやすい財政資料を作成し、広報紙、ホームページに掲載した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
市民提案事業	(Ⅰ) 市民の声を施策に反映させるとともに、市政への参加意識の高揚を図る。 (Ⅱ) 提案・要望等の総数全412件全件を意見要望集約システム「聴き倉」に登録し、全庁職員で共有した。また、公開条件の整っている153件を市ホームページに掲載し、市民に対して内容を公表した。 (Ⅲ) 「聴き倉システム」の利活用方法について、全庁職員にPRを行いながら、継続して実施する。	-
パブリックコメント事業	(Ⅰ) 市民の行政参画の機会を提供し、開かれた市政の実現をめざす。 真備地区復興計画(改定案)など12件の意見募集を行い、197件の意見をいただいた。寄せられた意見を素案に取り入れることができるかの検討結果や、意見に対する市の考え方を公表し、計画策定を実施した。 (Ⅲ) より多くの意見をいただけるよう、広報するとともに、配布資料のわかりやすい要約版を作成し、継続して実施する。	-
コールセンター事業	(Ⅰ) ワンストップサービスの確立とマーケティング機能の強化 (Ⅱ) 電話・FAX・メールの総利用件数は、新型コロナウイルス関連の問合せが前年に引き続き増加し、年間114,162件に対応した。また、外部公開しているFAQ(よくある質問と回答)は1,841,321件の閲覧があった。 (Ⅲ) 公開FAQの内容をさらに充実させ、コールセンター機能の強化を図りながら、継続して実施する。	65,645
市民ふれあいトーク事業	(Ⅰ) 市長が直接、市民の声を聴き、一緒に考え、施策に反映させる。 (Ⅱ) 令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催していない。 (Ⅲ) 開催方法などを検討し、継続して実施する。	0

事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
市民モニター事業	(Ⅰ) インターネットを活用し、素早く簡単に市民の声を施策に反映させる。 (Ⅱ) 市民モニター登録者数は1,555人で、前年度に比べ56人増加した。インターネットを活用したアンケートを12回実施し、平均回答率は45.0%で前年度に比べ0.1ポイント減少したが、平均回答者数は600人で前年度に比べ3人増加した。 (Ⅲ) 若い世代の登録者数増加や平均回答者数を向上させていくため、協賛の追加や市政への反映状況の強化をしながら、継続して実施する。	27
行政評価推進事業	(Ⅰ) 総合計画に掲げる施策について進捗管理を行い、事業の見直しを図る。 (Ⅱ) 市民アンケート等により「まちづくり指標」の令和3年度実績値を把握するとともに、全44の施策について重要度・満足度を調査するなど施策評価を実施し、令和4年12月に公表した。 (Ⅲ) 毎年度の施策評価を継続して実施する。	691
データで紡ぐ高梁川 流域連携事業	(Ⅰ) データ活用を通じた地域課題の解決および経済活性化 (Ⅱ) オープンデータの更新・追加及びビジュアルコンテンツの追加。 (データセット新規18件・更新186件、推奨データセット整備支援8件) (Ⅲ) 防災オープンデータの整備・公開の支援やSDGsオープンデータの推進等、継続して取り組みを実施する。	10,458

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政＜絆＞

## めざすまちの姿

5-4 市民が安全で快適に、公共施設を利用している

## 市の施策

公共施設の安全の確保と総量の適正化を図る

## 基本方針

- ・市が土地、建物などの公有財産を、場所や将来人口なども見据えた適切な数量で保有して、総合的に企画、管理、活用する経営活動「ファシリティマネジメント」を推進し、施設のライフサイクルコストを縮減します。
- ・公共施設が安全に利用できるよう、計画的な予防保全による長寿命化を推進します。
- ・公共施設個別計画に基づき整備を実施し、公共施設の必要な機能の維持を図るとともに、利便性の向上に努めます。
- ・施設の更新にあたっては、従来のように行政が直接施設を整備せず民間に整備とサービスの提供をゆだねるPFI手法を活用するなど、官民連携の取り組みを積極的に進めます。

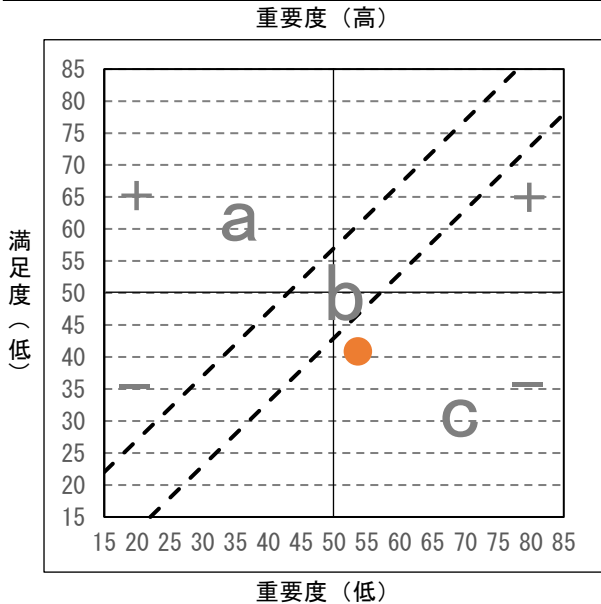
## 数値目標

まちづくり指標	公共施設の利用者数	
算出方法	スポーツ施設利用者数（有料施設のみ）、図書館入館者数（ライフパーク倉敷図書室含む）、市民学習センター利用者数、公民館利用者数、複合施設（市民交流センター、環境交流スクエア）利用者数の総数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">コロナ影響大</span>	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部施設の利用中止・制限したことや、利用自粛により施設利用者が減少したと考える。	
(II) 今後の取組方針	(II) 新型コロナウイルス感染症で制限されていた事業を再開することにより、利用者数の増加を図る。	

まちづくり指標	モニタリングの評価が高い指定管理施設の割合	
算出方法	指定管理者制度を適用している施設のうち、モニタリングにおける、「S」評価（高レベルで運営されており高く評価できる）、「A」評価（適切に運営されており問題なかった）の割合	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 施設の利用制限等、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実情に即した評価を行った。	
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き効果的で効率的なモニタリングの実施を通じて、改善すべき点等については、指定管理者に適切な指導等を行う。	

まちづくり指標	PPP/PFI手法による施設整備（改修等を含む）を伴う事業契約件数	
算出方法	PPP/PFI手法による施設整備（改修等を含む）を伴う事業契約件数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 公共施設の更新・整備事業については、従来型手法に優先してPPP/PFI手法の導入を検討したため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き公共施設個別計画に基づき、更新・整備事業について、PPP/PFI手法の導入が適切かどうかを検討する。	

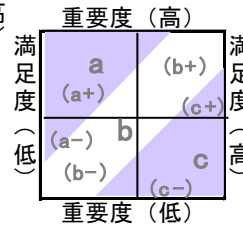
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	40.88	53.66

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
重要度 (高)  
重要度 (低)  
重要度 (高)  
重要度 (低)



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和4年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R4年度決算額(千円)
施設長寿命化推進事業	(I) 施設の長寿命化や、維持管理コストの縮減を図る。 (II) 総合管理計画に基づき、既存施設の修繕優先順位付けや、建築設備点検結果に基づいた修繕を実施した。 (III) 今後も引き続き、計画的にファシリティマネジメントを推進する。	342,995
高梁川流域ファシリティマネジメント推進事業	(I) 高梁川流域連携事業として、ファシリティマネジメント研修を行う。 (II) 新型コロナウイルス感染症対策のため、実績なし。 (III) 高梁川流域連携事業として、継続して実施する。	0
ESCO事業	(I) 施設設備の省エネ改修工事を実施しCO2排出量の削減とコストを縮減する。 (II) 省エネ改修工事を実施済みの10施設のESCO事業を継続した。新たにプラザ及び保健所のESCO事業導入に向けて、募集を開始した。 (III) さらに導入可能な施設について事業を継続して実施する。	306,684
庁舎等再編整備事業	(I) 本庁舎の課題解決と庁舎周辺の老朽化した公共施設の再編を行う。 (II) 防災危機管理センター棟整備、本庁舎長寿命化等改修に関する基本計画(行政ゾーン整備事業編)を策定し、公募型プロポーザル方式による事業者選定を実施した。 (III) 継続して実施し、令和5年度はデザインビルド方式による行政ゾーン整備事業を契約締結し、設計に着手する。(令和4年度予算は令和5年度に繰越)	86
中央斎場整備事業	(I) 施設の老朽化や今後の火葬需要の増加などへ対応する。 (II) 中央斎場施設整備のための建設に係るモニタリング等支援業務を行った。 (III) 継続して実施する。	5,610
倉敷北児童センター・西岡荘再整備事業	(I) 民間活力を活用して、老朽化に伴う施設の建替え等に適切に対応する。 (II) 令和4年度中に倉敷北児童センターの整備を完了しオープンした。旧倉敷北児童センター部分については、老人福祉センターへの転換のため、設計を行い、工事に着手した。 (III) 継続して実施する。	145,860



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-5 市役所が市民の身近な窓口として課題解決に向けて責任をもって対応している

### 市の施策

市役所の制度や体制を改革するとともに、職員の資質向上を図り、必要とされる行政サービスを提供する

### 基本方針

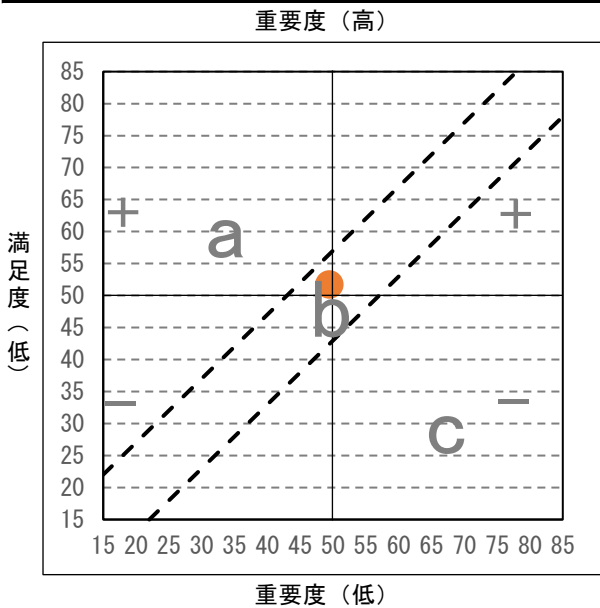
- 市役所における部局間の連携強化、マネジメントの強化、意思決定の更なる迅速化を可能とする業務執行体制の整備を図ります。窓口サービス向上及び業務の効率化等に取り組み、市民への説明責任を果たし、市民満足度を向上します。
- 不要な業務の見直しを行うとともに、人工知能（AI）やロボットによる業務の自動化（RPA）など先進のICT技術を導入するなど、業務の効率化を進め、人口減少社会においても、住民サービスの維持・向上に努めます。
- 市や組織の方針に基づき、市役所職員の果たすべき役割を明確にして、個々の職員が意欲的に能力を発揮できる、働き方改革もふまえた人事制度、職員研修制度の構築を図り、広い視野と自ら考え行動できる意欲と能力を持った職員を育てます。
- 市内で生活する外国人に向けた行政サービスの利便性向上を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	外国人相談窓口の相談件数	
算出方法	外国人相談窓口での相談件数（来訪・電話・その他）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) Messengerを利用した問い合わせ及びマイナンバーカードや臨時特別給付金に関する相談が増えたため。 (II) 在住外国人への情報発信を促進するとともに、庁内各部署との情報共有と連携を引き続き推進する	

まちづくり指標	地域の要望や困ったことがあったときの行政の相談窓口は、まずは市役所だと思っている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「地域の要望や困ったことがあったときの行政の相談窓口は、まずは市役所だと思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) CS（市民満足度）向上運動、人事評価制度による市民対応の底上げなどが考えられる。 (II) 継続して地域の要望や困ったことがあったときの相談窓口としての信頼向上に務める。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	51.71	49.48

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
重要度 (高)  
重要度 (低)

a	(b+)
(a+)	(c+)
(a-)	b
(b-)	(c-)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和4年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R4年度決算額 (千円)
行政組織・職員配置適正化事業	(I) 弾力的な組織運営、人員の有効活用等による効率的な行政組織を構築する。 (II) 新型コロナウイルス感染症対応、各種給付金業務、G7会合等への弾力的な応援・人員配置を行った。また、デジタル化推進、公共施設再編整備等の行政課題に対応するための組織改編を行った。 (III) 継続して実施する。 今後も組織の適正化と業務の効率化を進めていく。	-
CS (市民満足度) 向上事業	(I) 全庁でCS向上運動を推進し市民満足度の向上につなげる。 (II) 令和4年度から全部署を対象に、業務改善制度と連携して新たなCS向上運動をスタートした。CSセミナーを実施するとともに、表彰制度も取り入れるなどして、活動の再活性化を行った。 (III) 関係部署と連携を図りながら、今後も継続して実施する。	782
人事評価制度活用事業	(I) 人事評価制度を適切に運用し、職員の能力や実績に応じた処遇反映を行う。 (II) 部長級及び局長級の職員において、令和3年度の人事評価結果を活用して昇給の号数及び勤勉手当の成績率を決定することで、処遇への反映を実施した。 (III) 継続して実施する。 処遇反映対象の拡大を検討しつつ、継続して実施する。	-
職員研修事業	(I) 自ら考え行動できる意欲と能力をもった職員を育成する。 (II) 今年度はコロナで中止することなく、例年どおり階層別研修、実務研修、特別研修を対面にて実施した。専門機関への派遣研修も例年より少ないものの、業務に応じた研修に多くの職員を派遣した。 (III) 求められる能力を身に付け、意識改革ができる研修を、見直しを図りながら継続して実施する。	28,458
高梁川流域職員合同研修事業	(I) 自ら考え行動できる意欲と能力をもった職員を育成する。 (II) 共通課題等をテーマとした「人材育成能力向上研修」をはじめ、新任課長補佐級職員研修、実務能力向上につながる4つの研修を実施した。 (III) 高梁川流域圏域自治体と連携し、共通課題等をテーマとした研修を継続して実施する。	1,602
外国人相談窓口運営事業	(I) 在住外国人等が適切な情報を得たり相談できる体制を強化する。 (II) 窓口相談員、タブレットを活用したオペレーター通訳、三者電話により15言語での相談に対応した。相談者数は787人で、相談者のおもな国籍は、ベトナムが381人で最も多く、次いで中国が141人であった。 (III) 認知度向上を図る情報発信を行いながら、一層の利用促進を図り継続して実施。	10,197

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

## めざすまちの姿

5-6 だれもが快適で活力に満ちた生活ができるよう、先端技術が生活に溶けこんでいる

## 市の施策

日々進化する先端技術を柔軟に取り入れ、市民サービスの更なる向上を図る

## 基本方針

- ・ AI、RPAなどの先端技術を活用して、より迅速、的確な行政サービスを提供し、市民生活の利便性向上を図ります。
- ・ 災害や感染症の発生など非常時にも、子どもたちの学習時間が確保できるよう、ICTを活用したオンライン学習等の導入を進めます。
- ・ 市税をはじめ、使用料、手数料など収納のキャッシュレス化を推進します。
- ・ 市民生活に必要な情報を必要とする時にわかりやすく発信するとともに、行政手続きのオンライン化を促進し、申請手続き等の簡略化を進めます。

## 数値目標

まちづくり指標	多くの市民が利用する公共施設のうち、キャッシュレス決済が可能な施設の割合	
算出方法	市の所管する施設（使用料や飲食・宿泊費用として市民が支払った額が100万円以上あった施設）のうち、窓口でのキャッシュレス決済が可能な施設数/該当の施設×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 導入コストや決済手数料などの経費が必要となることから、キャッシュレス決済の導入には慎重にならざるを得ないものと考えられる。 (II) 費用対効果等を踏まえながら、施設の特性に応じたキャッシュレス決済の導入を引き続き推進する。	

## 市民の重要度・満足度

領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	44.84	44.19

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 <グラフの見方>

		重要度 (高)		満足度 (高)	
満足度 (低)	重要度 (低)	a	(b+)	b	(c+)
		(a+)		(a-)	(b-)
		重要度 (低)		満足度 (低)	
		(c-)		c	

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和4年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R4年度 決算額 (千円)
AI・RPA推進事業	(Ⅰ) AI・RPA等の先端技術を活用した業務効率化と行政サービスの向上 (Ⅱ) AIを活用した議事録作成支援システムを引き続き活用し、約1,300時間の削減効果を得た。また、AI-OCRを導入新たに導入した。30所属111業務でRPAもしくはAI-OCRもしくは両方を活用し、計約12,000時間の削減効果を得た。 (Ⅲ) 議事録作成支援システムは継続利用するとともに、RPA・AI-OCRについては、導入所属・業務を拡充する。	2,688
高梁川流域DX推進事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域のDXを推進する。 (Ⅱ) 11回の定例会議を開催。講演会や勉強会を実施し事業検討・課題及び情報の共有等を行った。また、自治体DX推進計画のひな型作成・共有を行ったほか、スマートフォン講習会(全80回)を高梁川流域5市3町で開催し、723人が受講。 (Ⅲ) 引き続き、高梁川流域自治体でDX推進事業やデジタルデバイド対策事業等の事業検討・課題及び情報の共有を行う。	12,072
GIGAスクール構想に対応したパソコン等整備事業	(Ⅰ) 児童生徒の情報活用能力を育成する。 (Ⅱ) 1人1台端末の活用が進むよう、運用面をサポートした。また、緊急時の学ぶ機会を保障するために、モバイルルータの貸出等を行った。 (Ⅲ) 児童生徒の情報活用能力を育成するために、継続して実施する。	118,855
行政手続きのオンライン化	(Ⅰ) 社会全体の効率化とコスト抑制を図るとともに、一人ひとりに対しても迅速に最適なサービス提供を行う。 (Ⅱ) オンライン申請に係るシステム改修を行い、子育て・介護関連の26手続きについて、マイナポータルからのマイナンバーカードを用いたオンライン申請の受付を開始した。 (Ⅲ) 引き続き、他の手続きについてもオンライン化を推進し、市民の利便性向上を目指す。	250

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和5年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-7 持続可能な地域をめざすSDGsの理念を、だれもが理解し、行動している

### 市の施策

市民・企業・団体など一体となってSDGsの取組を推進する

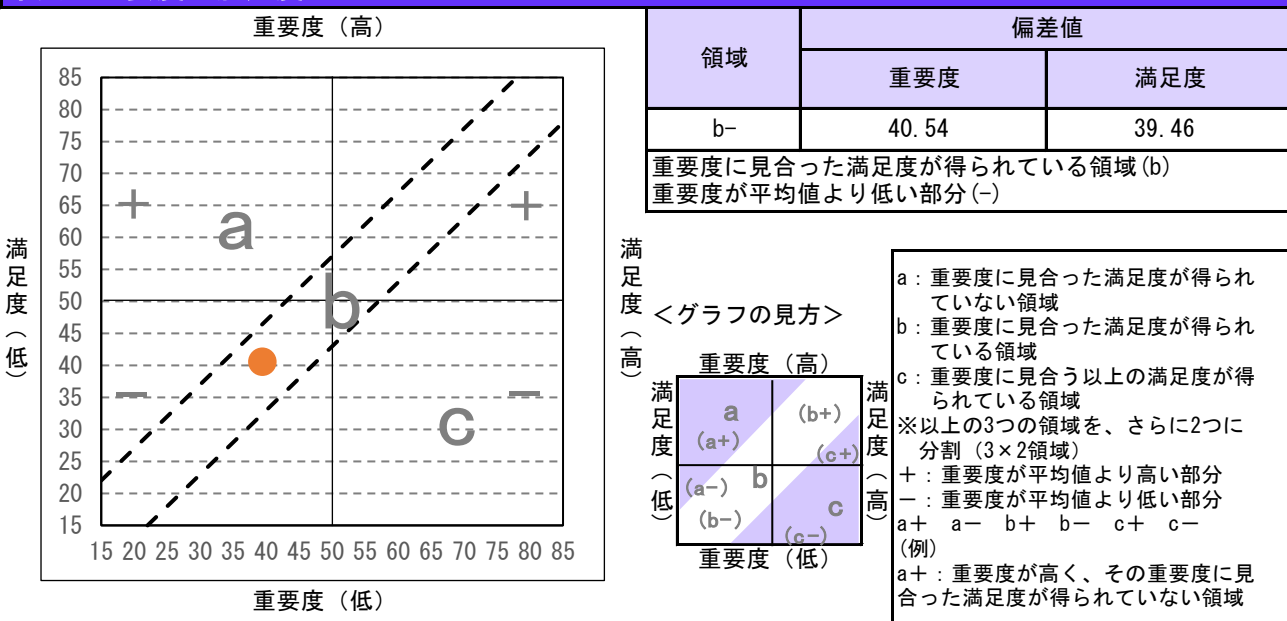
### 基本方針

- ★ 研修や講演会などを通じて、SDGsの理解促進に努めるとともに、SDGsに取り組む団体・企業などの活動状況を紹介し、団体間の交流を促進するなど、SDGs推進の機運の醸成を図ります。
- ★ 倉敷子どもサミットなどの機会を通じて、子どもたちが、「倉敷宣言」にも記されている、質の高い教育を世界のだれもが受けることの大切さを学び、SDGsへの理解につながるよう、取り組みを推進します。
- ★ 地域の課題を解決し、まちづくりの様々な施策を効果的に進めるため、市民協働、官民連携において、SDGsを共通言語として取組の目的の明確化や相互理解につなげます。
- ★ 高梁川の恵みを共有する自治体間の連携により、圏域全体の経済成長や生活サービスの向上などに取り組み、将来にわたって安心・快適に生活できる持続可能な圏域づくりを進めます。

### 数値目標

まちづくり指標	倉敷市・高梁川流域SDGs/パートナーの登録数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 住民向けイベントや事業者向けセミナーの開催により、本制度の認知度が向上したためと考えている。	
(II) 今後の取組方針	(II) パートナーと連携し、パートナーのSDGs達成に向けた取り組みの認知向上に努める。	

### 市民の重要度・満足度





施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和4年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R4年度 決算額 (千円)
★ 高梁川流域SDGs推進事業	(I) 高梁川流域圏域において、SDGsの推進を図る。 (II) 9月24日25日、倉敷市・高梁川流域SDGsパートナーのSDGs達成に向けた取り組みを知ってもらい触れてもらうことで、市民のSDGsに対する意識の向上を目的としたイベントをイオンホール（イオンモール倉敷）で実施。地域密着型クラウドファンディングを通じてSDGsの達成に資する事業の実施に必要な資金を倉敷市・高梁川流域SDGsパートナーに登録する中小企業者等が調達した場合に、利用手数料の2/3（上限30万円）を補助する制度を実施。 (III) 広報の工夫や内容を見直しながら、継続して実施する。	7,774
★ 高梁川流域こどもサミット事業	(I) 各地域の歴史や文化を学び合うことで、交流を図る。 (II) 令和6年度の実施に向けて、市内の小中学校でSDGsの取り組みを推進 (III) 令和6年度の実施に向けてG7倉敷子どもサミットで作成した宣言書をもとにSDGsの視点からの取組を推進する。	-
★ 高梁川流域地域づくり連携推進事業	(I) 高梁川流域圏の市民活動団体間の協働による地域課題の解決を支援する。 (II) 浅口市と倉敷市、総社市と倉敷市でそれぞれ活動する団体によるノウハウ持ち寄り2事業、倉敷市で活動する団体から浅口市の団体へのノウハウ移転1事業に補助し、新たな形態の事業の実施や、ノウハウ移転を受けたそれぞれの団体による単独での事業実施につながった。 (III) 高梁川流域圏域で地域課題解決に取り組む市民活動団体の協働を推進するため、継続して実施する。	1,367
★ 高梁川流域課題解決人材創出事業	(I) 高梁川流域圏域で地域の課題解決に取り組む人材の創出・育成を図る。 (II) 令和2年度より圏域の歴史や文化、課題解決の手法等を学習する単位性の教育プログラムを実施し、これまでに102人が修了した。また、資金調達的手法を学ぶセミナーを実施し、42人が参加した。 (III) 広報の工夫や内容を見直しながら継続的に教育プログラムを実施する。	5,859
★ 高梁川流域自治体連携会議開催	(I) 高梁川流域圏域内の連携強化を図る。 (II) ビジョン懇談会（1月24日）、推進協議会（2月8日）を開催し、第2期ビジョン（第3回改訂）案について協議を行った。 (III) 圏域の連携中枢都市として、連携市町との連携強化に努め、未来に続く流域の成長と発展を目指して継続して実施する。	593
★ 高梁川流域協働のまちづくり推進事業	(I) 高梁川流域圏域共通の地域課題について、協働による解決を推進する。 (II) 高梁川流域協働推進会議を2回開催し、流域市町の職員による情報共有を行った。高梁川流域地域支援専門家の紹介動画を作成し、情報発信・防災・キャリア教育の専門家を派遣し、地域課題解決の支援を行った。 (III) 高梁川流域圏域の地域課題の解決に向けた団体相互のネットワーク構築のため、継続して実施する。	863
★ 航空写真共同撮影事業	(I) 市域を越えて航空写真を撮影することで事務の合理化を図る。 (II) 航空写真の撮影等を市域を越えて共同で実施することで、事務の合理化及び事務費削減に繋がった。 (III) スケールメリットを活かした事務の合理化及び費用削減を図るため継続して実施する。次回は令和7年度の予定。	68,332
★ 外国人相談窓口運営事業	(I) 在住外国人等が適切な情報を得たり相談できる体制を強化する。 (II) 窓口相談員、タブレットを活用したオペレーター通訳、三者電話により15言語での相談に対応した。相談者数は787人で、相談者のおもな国籍は、ベトナムが381人で最も多く、次いで中国が141人であった。 (III) 認知度向上を図る情報発信を行いながら、一層の利用促進を図り継続して実施する。	10,197